

RAKUNO GAKUEN EXTENSION CENTER
酪農学園社会連携センター



2021年度 事業報告

社会連携センター 2021年度 事業報告

目次

1. 社会連携センター

(1) ホームページアクセス状況	4
(2) SDGs(持続可能な開発目標)の取り組み推進について	6

2. 地域連携課

(1) 公開講座	① オープンアカデミー	13
	② 協力講座	16
(2) 地域総合交流事業	① 協定一覧	17
	② 協定実績	19
	③ 高大連携協定一覧および講義・講座	23
	④ コープさっぽろ	24
(3) ミルク産業活性化推進事業	① チ・カ・ホdeマルシェ	25
	② イオン	30
(4) 協定機関以外との連携	① 羽幌町	30
	② ネットトヨタ道都株式会社	30
	③ 旭川ガス「ほっと」へのレシピ掲載	31
	④ 牛乳・乳製品の消費拡大に向けた取り組み	33
(5) 酪農PLUS+	① アクセス状況	34
	② SNSアクセス状況	45
	③ 共進会協賛状況	47
(6) 寄付事業		48

3. 国際交流課

(1) 学術交流協定	……54
(2) 研究者・研修員・訪問者の受入れ	……56
(3) 学生の受入れ	……58
(4) 学生の派遣	……58
(5) 学生の留学についての意識アンケート	……59
(6) アルバータ大学オンライン留学プログラム	……61
(7) カセサート大学オンライン学術交流プログラム	……63
(8) トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム	……66
(9) 日本学生支援機構海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)	……68
(10) TOEIC	……70
(11) 外国人留学生	……72
(12) 外国人留学生奨学金採用状況	……74
(13) JICA(独立行政法人国際協力機構)	……75
(14) 青年海外協力隊派遣実績	……77
(15) JSPS(独立行政法人日本学術振興会)学術国際交流事業	……77
(16) 北海道アルバータ酪農科学技術交流協会	……78
2021年度 社会連携センター運営委員会・スタッフ	……80

1. 社会連携センター

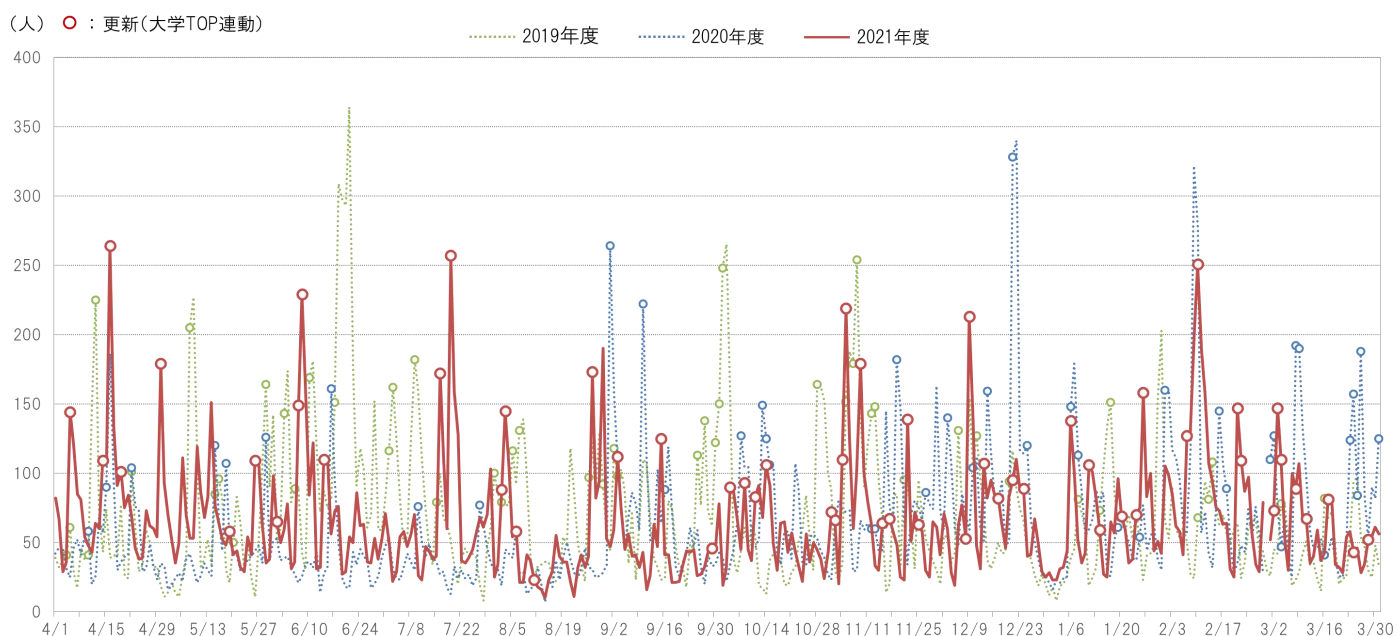
(1) ホームページアクセス状況

総アクセス数は2020年度からやや増加しました。制限を設けながらも市民公開講座やTOEIC-IPテストを実施できるようになったことで、開催案内や実施報告など記事の投稿数が増加したことが要因と考えられます。

ページ別では、地域連携課で開催する公開講座の一覧ページの閲覧数が最も多くなりました。2020年度に続きオンライン開催となった大動物臨床教育セミナーへの関心は今年度も高く、動画閲覧のためのログインページには8月27日(金)～30日(月)の4日間で非常に多くのアクセスがありました。

【日別アクセス状況】

- 総アクセス数 **24,358人**(前年度+1,804人)
- 日平均アクセス数 **67人**(前年度+5人)
- 日最高アクセス数 **341人**(4/16「第64回TOEIC-IP試験のお知らせ」公開日)



【地域別アクセス状況】

■ 国別

	国名	アクセス数
1	日本	16,371
2	アメリカ	648
3	タイ	75
4	(不明)	51
5	カナダ	42
6	台湾	31
7	スウェーデン	29
8	中国	28
9	アイルランド	27
10	ベトナム	26

■ 都道府県別

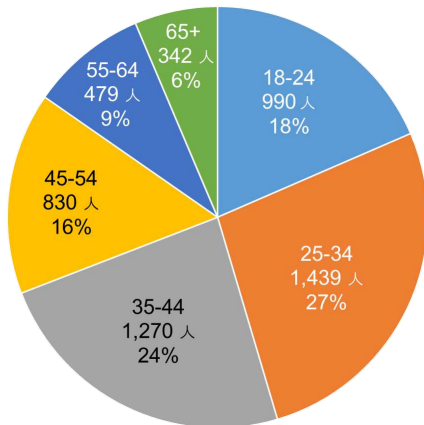
	都道府県名	アクセス数
1	北海道	6,637
2	東京都	2,897
3	神奈川県	2,221
4	大阪府	1,145
5	愛知県	533
6	埼玉県	502
7	千葉県	298
8	宮城県	273
9	兵庫県	237
10	茨城県	230

■ 市区町村別

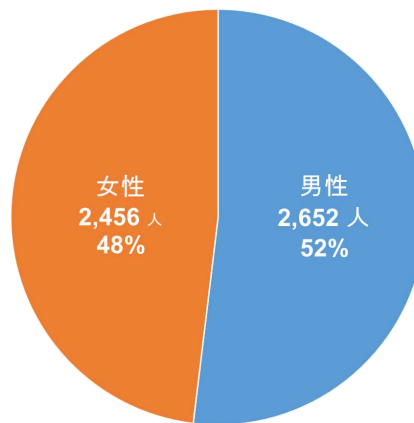
	市区町村名	アクセス数
1	札幌市	3,677
2	江別市	1,998
3	横浜市	1,939
4	大阪市	972
5	港区	516
6	新宿区	479
7	千代田区	397
8	名古屋市	379
9	仙台市	374
10	世田谷区	219

【年齢・性別アクセス状況】

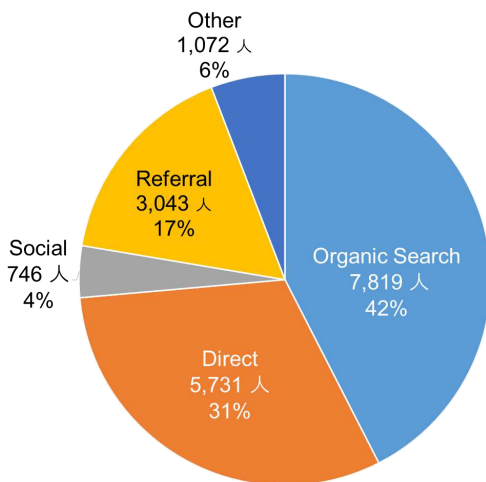
年齢



性別



【流入経路別アクセス状況】



- **Organic Search**
GoogleやYahooなどの検索サイトから流入
- **Direct**
ブラウザのブックマークやURL直接入力、QRコードから流入
- **Social**
FacebookやTwitterなど、ソーシャルメディアから流入
- **Referral**
他のサイトに貼られた外部リンクから流入
- **Other**
その他

【ページ別アクセス状況】

社会連携センター

	ページ名	掲載日	閲覧数
1	社会連携センターとは	—	896
2	「酪農学園チ・カ・ホdeマルシェ 2022」開催のお知らせ	2/7	793
3	酪農学園チ・カ・ホ de マルシェ開催が決定しました	11/9	593

国際交流課

	ページ名	掲載日	閲覧数
1	留学プログラム	—	1,226
2	2021年度 TOEIC対策 e-learningのご案内	4/30	1,007
3	TOEICとは	—	928

地域連携課

	ページ名	掲載日	閲覧数
1	公開講座	—	2,489
2	第2回大動物臨床教育オンラインセミナー ログイン画面	8/27	1,901
3	第2回大動物臨床教育オンラインセミナー 開催案内	6/7	1,128

※GoogleAnalyticsではすべてのユーザーの属性、環境などを判別することができないため、各項目の合計値は総アクセス数とは一致しない。

(2) SDGs (持続可能な開発目標) の取り組み推進について

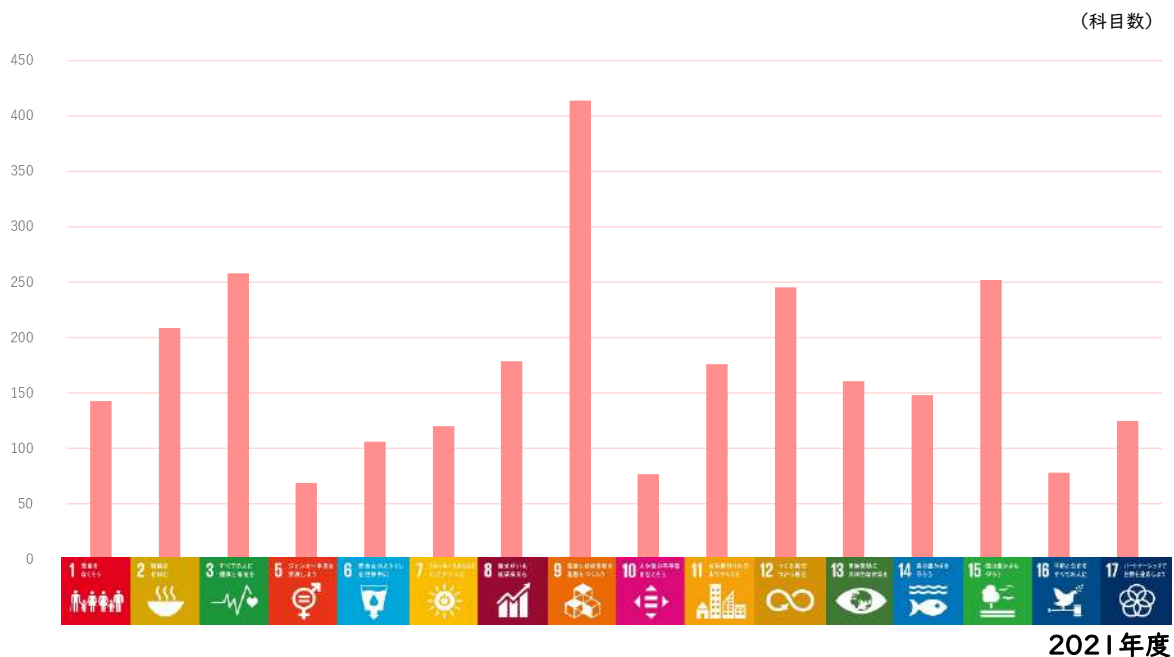
2019年2月12日付常任理事会において、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) の取り組み推進が議決され、3月14日評議会において大学として承認されました。

2019年度より様々な取り組みを進めており、2021年度に関しましては学外と連携した取り組みが中心となりました。また、本学の取り組みがテレビで放映された(2021年12月24日、北海道放送「今日ドキッ!」内)ことや、学外向けのイベントにも新たに参加させていただいたことで本学の認知度向上にも寄与しております。

～2021年度進捗状況～

① シラバスに記載されたSDGs項目の集計(2020年度より実施)

2020年度よりシラバス(講義の内容や進め方を示すもの)にその授業と関連のあるSDGs達成項目を表記している。以下はシラバスに表記されている達成目標をカウントした表である。



② 教員の研究テーマとSDGs項目のマッピング

大学では各教員が年間の研究テーマを設定している。このことについて研究テーマについての調査を行う際にあわせて研究テーマに当てはまるSDGsの達成目標を選択する項目を追加。以下は記入され達成目標の割合を示した図である。

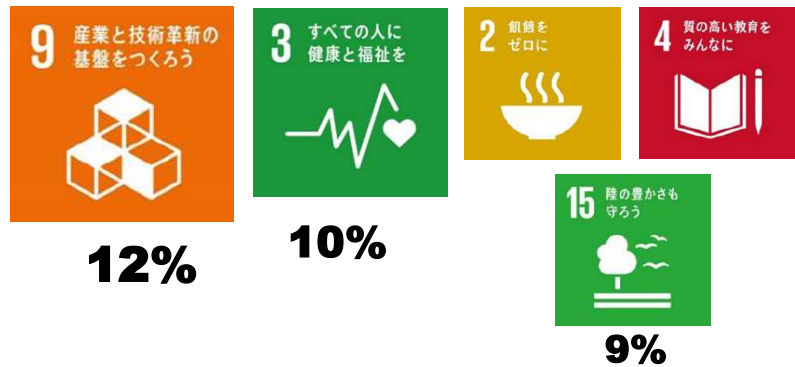
【大学全体】



【学類別】

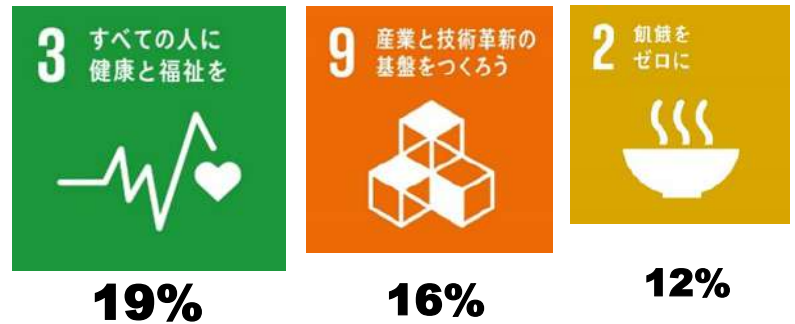
【循環農学類】

循環農学類では、2020年度の調査と比較すると「15 陸の豊かさを守ろう」に当てはまる研究テーマが増加しました。このことから農業分野における環境意識が高まっていることがわかります。



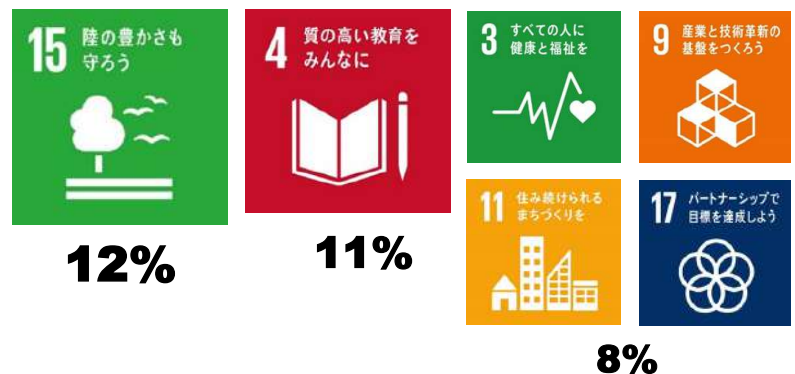
【食と健康学類】

食と健康学類では、2020年度の調査と比較すると「2 飢餓をゼロに」に当てはまる研究テーマが増加しました。



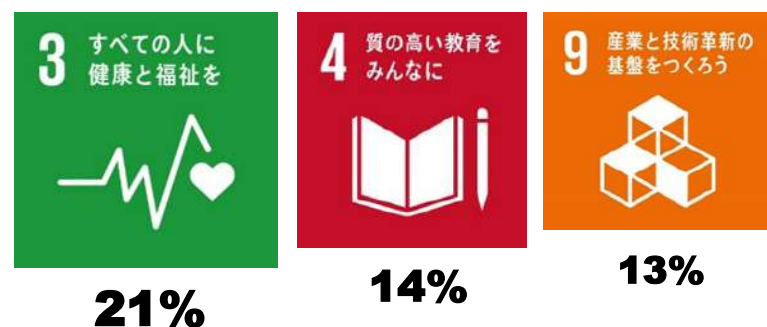
【環境共生学類】

環境共生学類では、2020年度の調査と比較すると「4 質の高い教育をみんなに」に当てはまる研究テーマが増加しました。



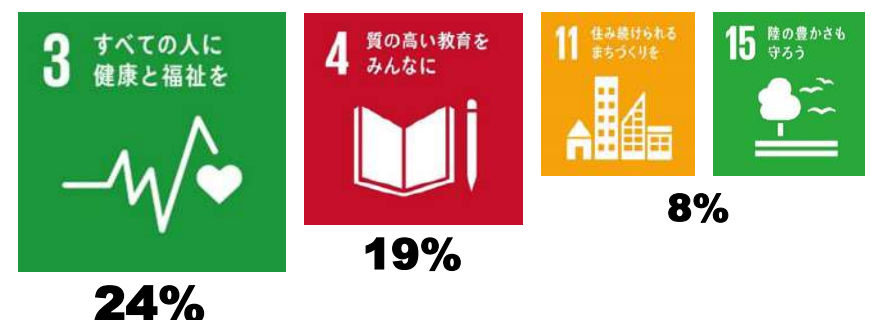
【獣医学類】

獣医学類では、2020年度の調査と比較すると環境共生学類と同様に「4 質の高い教育をみんなに」に当てはまる研究テーマが増加しました。



【獣医保健看護学類】

獣医保健看護学類では、2020年度の調査と比較すると「11 住み続けられるまちづくりを」および「15 陸の豊かさを守ろう」に当てはまる研究テーマが増加しました。



③ キャリアベーシックでのSDGsに関する講義

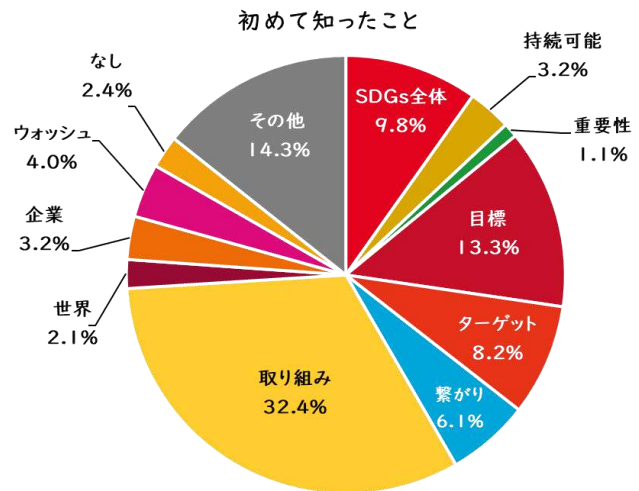
SDGsおよびSDGsに関連する本学の取組について、学生の認知度向上をめざして農食環境学群の2年生向けに例年講義を行っています。授業の感想を含めてアンケートをとったところ以下の通り回答が得られました。

Q1 SDGsについて理解することができましたか？

受講した学生の約87%が「とても理解できた」「理解できた」と回答しました。

Q2 今回の講義で初めて知ったことを教えてください。

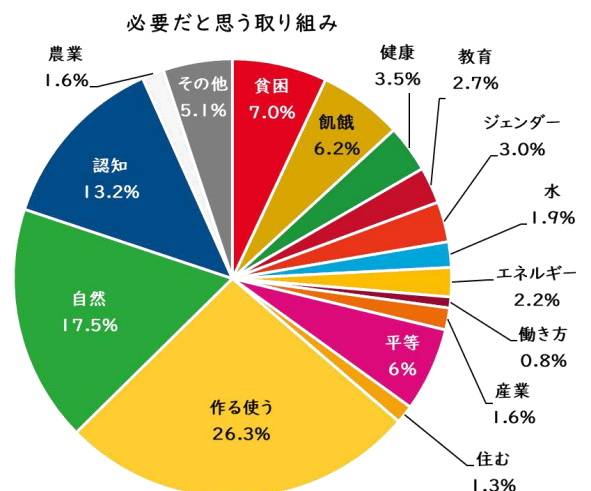
今回の講義で初めて知ったことを学生に聞いたところ、酪農学園大学で行っているSDGs達成に向けた取り組みについて初めて聞いたという学生が全体の32.4%いました。今回の結果を受け、我々の取組は学外はもちろん学内にも積極的に発信していく必要があることがわかりました。



Q3 今後必要だと思う取組について教えてください。

今後SDGsの達成に向けて必要な取組だと思うことを学生に聞いたところ、26.3%が「モノの再利用やごみ問題の解決に関する取組」、17.5%が「自然環境の保護に関する取組」、13.2%がSDGsそのものの認知におけた取組と回答しました。

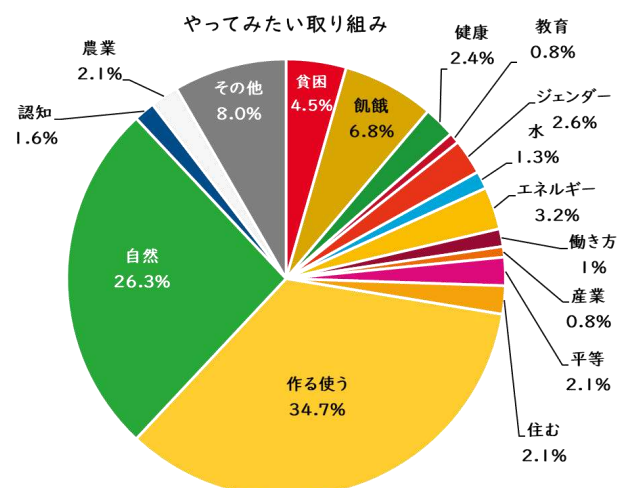
再利用の部分に関しては本学創立者の黒澤西蔵先生が提唱した循環農法にも通ずる部分があるため、今後関連した取組を推進してゆきます。



Q4 皆さんが取り組んでみたいことを教えてください。

学生自身が取り組んでみたいことについて聞いたところ、34.7%が「モノの再利用やごみ問題の解決に関する取組」、26.3%が「自然環境の保護に関する取組」と回答しました。

今後必要となる取組と学生が取り組んでみたい内容が重複しているため、上記に関する取組を社会にとっても学生にとってもよい方向に後押しができるよう企画します。



④ 北海道コカ・コーラボトリング株式会社との協定に基づく取り組み

酪農学園は2021年7月16日に北海道コカ・コーラボトリング株式会社と協定を締結し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを協働しています。取り組み内容は、PETボトルリサイクル、茶粕のエコフィード化に関する研究、災害時支援など多岐にわたります。



a. PETボトルリサイクル

酪農学園ではこれまでPETボトルをラベル・キャップ付きで捨て、焼却処理をしていました。日本では熱回収もリサイクルの一種ととらえられていますが、世界的には認められていない手法です。

このことから、学内で排出されたPETボトルをすべてリサイクルする「B to B (ボトル to ボトル) リサイクル」の取組を開始しました。

これまでに約12万本のPETボトルを回収し、リサイクルをしています。



b. 茶粕のエコフィード化

日本では飼料の自給率が長年低迷しており、濃厚飼料については海外からの輸入に依存しています。また、近年輸入飼料が高騰してきていることから、日本の農業経営は大変不安定な状況です。この状況を打破するには日本の飼料自給率を向上させなくてはなりません。

そこで、北海道コカ・コーラボトリング株式会社でお茶製品を作る際に発生する副産物の「茶粕」をエコフィードとして牛に与えることができないか研究を始めました。



c.災害時支援

キャンパス内へ防災対応自動販売機を設置することで災害時に飲料を無償でご提供いただくこととなりました。また、備蓄水のローリングストックを開始し、備蓄水を無駄にすることのないよう運用しています。



⑤ 北海道SDGs推進プラットフォームが推進するマイボトルエコアクションへの参加

コープさっぽろが主体となり、本学も参画している北海道SDGs推進プラットフォームにて、マイボトルエコアクションという事業が進行されています。本学もその趣旨に賛同し、学内でポスター掲示を行いました。

掲載したポスターは以下の通りです。



⑥ 「チ・カ・ホdeマルシェ(主催:社会連携センター)」におけるSDGsブースの出展

2月9日(水)から13日(日)までの5日間に札幌駅前通地下広場を会場として開催した「酪農学園チ・カ・ホdeマルシェ」にて本学のSDGsに関する取組を知ってもらうことを目的としてSDGsブースを設けました。



また、2月10日(木)限定で環境共生学類 国際理解学研究室の学生4名によるSDGs発表会を開催しました。これは卒業論文で学生がまとめた内容を一般の方向けに発表するもので、ご参加いただいた方から積極的に質問をいただきました。

【発表タイトル】

- (1) 厚岸町学校給食センターにおける食品廃棄物の現状と課題
- (2) 酪農学園大学学生寮における食品廃棄物の現状と課題
- (3) 酪農学園大学におけるマイノリティに対する認識や考え方の現状及び今後のあり方
- (4) 酪農学園におけるPETボトルリサイクルの現状と課題



厚岸町学校給食センターにおける食品廃棄物の現状と課題



酪農学園大学学生寮における食品廃棄物の現状と課題



酪農学園大学におけるマイノリティに対する認識や考え方の現状及び今後のあり方



酪農学園におけるPETボトルリサイクルの現状と課題

⑦ 北海道SDGs推進プラットフォーム

2021年 6月30日(水) 第5回SDGs研究会

2022年 2月10日(木) 第6回SDGs研究会

⑧ 2021年 7月26日(月) SDGsの推進に関するアンケートへの回答依頼

2021年10月 6日(水) 本学の取組紹介に関する依頼

各種情報提供あり(4月7日、5月17日、6月1日、6月15日、7月8日、8月23日、9月13日、10月19日、10月29日、11月17日)

⑨ セミナーへの参加

10月25日(月) 国連デー記念講演会に参加しました。

⑩ 独立行政法人 国際協力機構(JICA)が発行する「ソーシャルボンド(社会貢献債)」への投資

学校法人酪農学園は、資産運用を通じた社会貢献と2015年に国連が定めた持続可能な開発目標(SDGs)達成への取組として、独立行政法人国際協力機構(以下「JICA」)が発行する「ジェンダーボンド(ソーシャルボンド)」への投資を実施しました。

⑪ 海外農業技術セミナーの開催

開催日時： 2022年2月22日(火) 9:00~12:00

方 法： ハイブリッド開催

テ ー マ： 「持続可能な農業とは～気候危機と生物多様性の喪失
～Sustainable Agriculture-Climate Crisis and Biodiversity」

主 催： 北海道アルバータ酪農科学技術交流協会 ※事務局:酪農学園大学
酪農学園大学

開会挨拶： 国際連合生物多様性条約 事務局長 エリザベス・マルマ・ムレマ

基調講演： 持続可能な農業～生物多様性と気候危機とのつながり～

国際連合食料農業機関(FAO) 気候変動・生物多様性・環境局 生物多様性担当部長イレーナ・ホフマン

講 演 1： 気候変動下で小麦・大麦の収穫量はどうか?～カナダにおける収量変化を予測する～
講師:カナダ アルバータ大学 理学部地球大気科学科 准教授 モニレ・ファラマーズイ博士

講 演 2： 気候危機への対応における社会的な障壁と実現可能性～アルバータ州の農家での実例をもとに～
講師:カナダ アルバータ大学 農業・生命・環境科学部 教授 デブラ・デイビッドソン博士

※本セミナーの報告は国際交流(P78)にも記載しています。



2. 地域連携課

(1) 公開講座

① オープンアカデミー

a. 酪農学園大学市民公開講座

本学は、研究成果を広く一般の方々や卒業生等へ提供し役立てていただくことを目的として、「市民公開講座」を開講しています。

開催日	講座名	講師	受講料	定員	受講者
5月15日(土)	食の講座 「生きものと食べものー生命と食を考えるー」 「チーズとヨーグルトー作る技術と美味しさの秘密ー」	石井 智美 竹田 保之	無料	50名	35名
6月14日(月) ～ 6月25日(金)	フィールド講座(オンライン) 「酪農学園大学 夏の自然観察会 ～酪農学園大学の身近な自然を学ぼう～」	金子 命	無料	なし	124回 (視聴回数)
7月10日(土)	円山動物園体験講座 「熱帯に生きるゾウやオラウータンの野生での暮らしを考える」	金子 正美	1,000円	40名	中止
7月31日(土)	楽しい理科実験講座 「でんぷんおもしろ実験室」	小野寺秀一	1,500円	10組	3組6名
10月30日(土)	野生動物講座 「野生動物管理における人間事象 (Human Dimension of Wildlife management)」	立木 靖之	1,000円	50名	17名
11月1日(月) ～ 3月31日(木)	運動講座 「自宅でもできる運動講座」	山口 太一 柴田 啓介	無料	なし	83回 (視聴回数)
12月4日(土)	気象学講座 「気候システムにおける極域の役割と地球温暖化の影響」	馬場 賢治	1,000円	50名	21名
2月26日(土)	家庭菜園講座 「トウモロコシの分類と適した栽培方法について」	亀岡 笑	1,000円	50名	10名



食の講座



食の講座



楽しい理科実験講座



野生動物講座



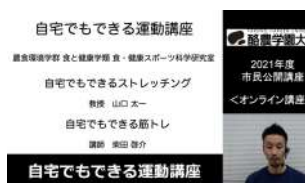
気象学講座



家庭菜園講座



フィールド講座(オンライン)



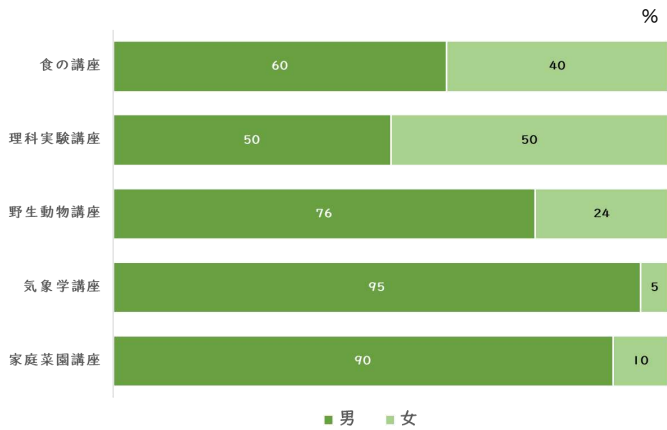
運動講座(オンライン)



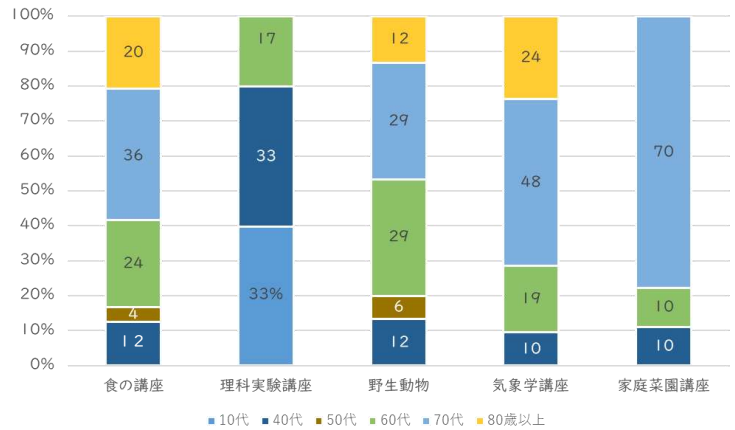
運動講座(オンライン)

アンケート集計結果（対面講座での回答者数101人）

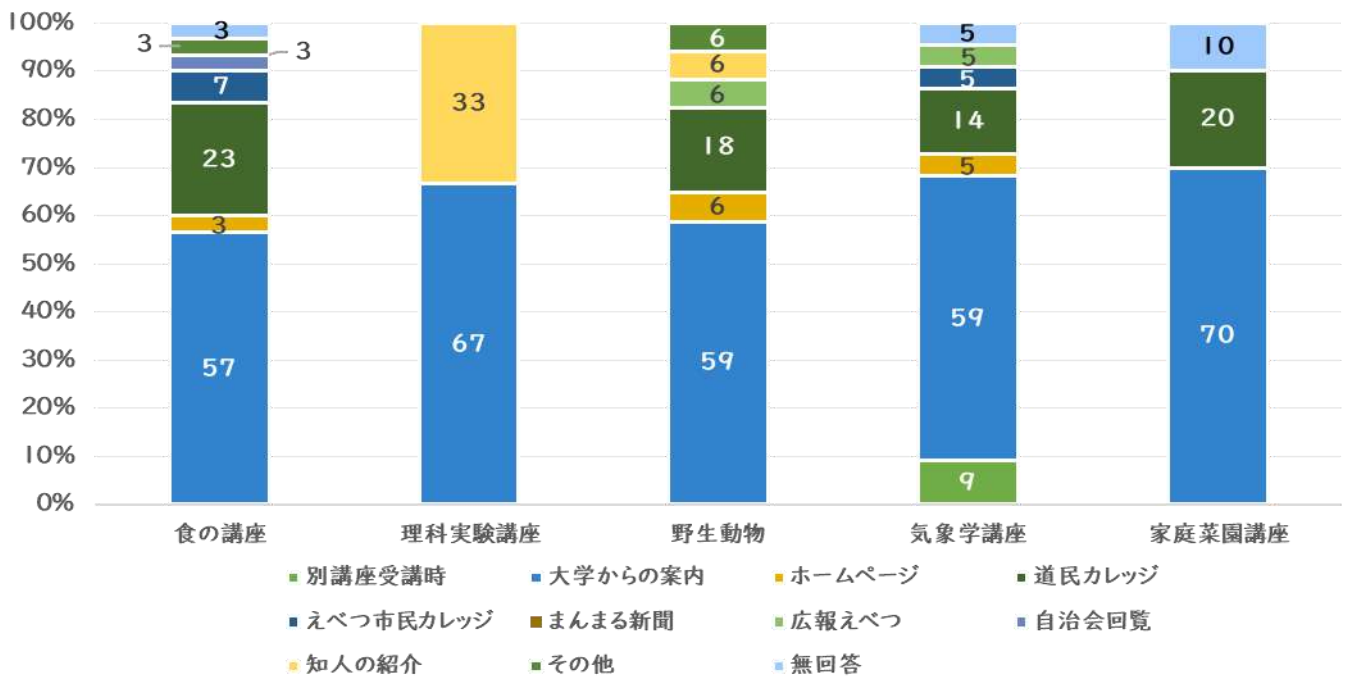
受講者男女比



受講者年代



講座を知った媒体



講座満足度

(%)

	説明						資料						内容					
	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	無回答	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	無回答	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
石井先生	88	8	0	0	0	4	88	8	0	0	0	4	88	8	0	0	0	4
竹田先生	76	12	4	0	0	8	80	8	4	0	0	8	80	8	4	0	0	8
小野寺先生	100	0	0	0	0	0	67	0	0	0	0	33	67	0	0	0	0	33
立木先生	82	6	6	0	0	6	82	12	0	0	0	6	88	6	0	0	0	6
馬場先生	43	33	14	5	0	5	52	24	14	0	0	10	43	33	10	0	0	14
亀岡先生	70	10	20	0	0	0	60	10	20	0	0	10	60	10	20	0	0	10
全体	73	14	7	1	0	5	74	12	6	0	0	8	73	13	5	0	0	9

b.酪農公開オンライン講座(酪農公開講座)【事前申込不要、随時視聴可能】

全国の酪農生産者および酪農関係者を対象に、本学の研究成果を直接フィードバックすることを目的に北海道内および都府県で各1回の「酪農公開講座」を開講しています。2021年度は新型コロナウイルスの状況を鑑み、オンラインで開催しました。



公開日	講座名	講師	受講料	定員	視聴数
2022年3月24日(木)	サイレージ調製の基本原理	土井 和也	無 料	なし	20回

c.酪農学園大学公開オンライン講座【53名事前申込】

本学の研究成果を生産者や関係機関、全国の消費者の方々に向けて発信することを目的に、都府県で開催してきた「酪農学園大学公開講座」を新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み2021年度は初めてオンライン公開しました。

開催日	講座名	講師	受講料	視聴数
1月24日(月) ～ 2月25日(金)	ストレスを科学する	林 英明	無 料	101回
	生き物の行動を観察して分かること	原村 隆司		81回



d.大動物臨床教育セミナー(オンライン)【270名事前申込】

例年、本学を会場として開催していた「大動物継続教育合同セミナー」ですが、2020年度および2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止措置として中止が決定されました。そこで「大動物臨床教育オンラインセミナー」を企画し、昨年度より実施しています。2021年度は乳牛の蹄病・蹄管理について2講演を行い、今回初めて総合討論も実施しました。

公開期間	講座名	講師	受講料	視聴数
8月27日(金)	蹄管理に関する酪農学園大学的アプローチ	阿部 紀次	無 料	380回
～	牛の蹄病変識別・重症度スコアシートに基づく定期削蹄記録データの解析	佐藤 綾乃		276回
8月30日(月)	総合討論	高橋 俊彦		180回



②協力講座

a.元氣!ミルク大学

例年北海道牛乳普及協会、ホクレン農業協同組合主催で小学生が大学構内に宿泊して、乳牛の生態や酪農家の一日など多くのことを学ぶ場として「元氣!ミルク大学」が開催されていますが、2020年度、2021年度については新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、中止となりました。

その代替として2021年度は、オンラインによる「元氣!ミルク大学」を開催しました。バーチャルクラウドツールを利用して、参加者の小学生がバーチャルで設定された教室で本学教員による講師の講義を受ける形式で実施しました。

開催日：9月4日(土)・5日(日)

参加者：小学5・6年生 33名

プログラム

- ・ミルクについて考える講座
- ・牛の行動と気持ちを考える講座
- ・酪農を学び体験する講座
- ・乳製品の製造過程を学ぶ講座

講師：中辻 浩喜

講師：森田 茂

講師：泉 賢一

講師：栃原 孝志

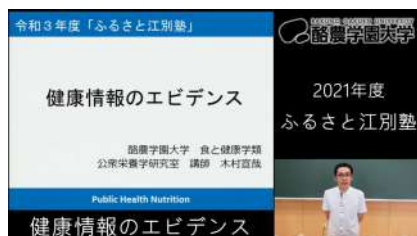


b.ふるさと江別塾【41名(ふるさと江別塾全体で52名)】

江別市と江別市教育委員会が主催となり、大学の「知」を生かし、まちづくりや身近な問題の学習機会として、市内四大学が連携して実施しています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止措置としてオンラインで開催されました。

講義1「健康情報のエビデンス」

講師：木村 宣哉



講義2「食の抗酸化パワーの魅力」

講師：大谷 克城



配信期間 2021年10月1日(金)~2021年12月31日(金)

(2) 地域総合交流事業

① 協定一覧

(締結年月日順)

No.	協定機関	協定調印日	協定内容
1	浜中町	2005.02.24	地域総合交流
2	栗山町	2007.02.26	地域総合交流
3	西興部村	2007.05.21	地域総合交流
4	公益財団法人 道央農業振興公社	2007.10.31	地域総合交流
5	江別市 市内3大学 江別商工会議所	2009.02.05	包括連携
6	道総研 食品加工研究センター	2009.03.10	包括連携
7	北海道大学	2009.06.04	知財等連携
8	洞爺湖町	2009.07.29	地域総合交流
9	公益財団法人 北海道農業公社	2010.01.14	包括連携
10	北海道ホルスタイン農業協同組合 公益社団法人 北海道酪農検定検査協会 一般社団法人 ジェネティクス北海道	2010.02.19 (2013.02.19変更)	包括連携
11	コンサベーションインターナショナル ESRIジャパン株式会社 NPO法人EnVision環境保全事務所	2010.06.03	包括連携
12	公益財団法人 札幌市公園緑化協会	2010.08.18	連携協力
13	滝上町	2010.09.10	地域総合交流
14	北海道情報大学	2011.03.10	大学教育・研究連携
15	標茶町 標茶町農業協同組合 北海道標茶高等学校	2011.04.13	地域総合交流
16	公益財団法人 知床財団	2011.06.15	包括連携
17	占冠村	2011.06.06	地域総合交流
18	旭川市(旭山動物園)	2011.09.05	包括連携
19	遠軽町 湧別町 佐呂間町 オホーツク農業共済組合 えんゆう農業協同組合 湧別町農業協同組合 佐呂間町農業協同組合	2012.06.25 (2013.03.18変更)	地域総合交流

No.	協定機関	協定調印日	協定内容
20	株式会社北海道銀行	2012.10.02	包括連携
21	札幌グランドホテル	2012.10.31	包括連携
22	北海道 ※学校法人酪農学園との協定	2014.10.30	包括連携
23	中標津町 中標津町教育委員会 中標津町農業協同組合 計根別農業協同組合 北海道中標津農業高等学校	2015.02.23	地域総合交流
24	北海道科学大学・北海道科学大学短期大学部	2015.03.16	包括連携
25	札幌市	2015.07.09	連携協力
26	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構	2016.01.29	連携協力
27	一般財団法人 北海道農業協同組合学校	2017.03.16	包括連携
28	北海道ワイン株式会社	2017.09.20	包括連携
29	生活協同組合コープさっぽろ	2017.09.21	包括連携
30	みなみ北海道農業共済組合 北海道中央農業共済組合 十勝農業共済組合 北海道ひがし農業共済組合 オホーツク農業共済組合	2019.02.22	包括連携
31	梨湖フーズ株式会社	2019.09.27	包括連携
32	学校法人高橋学園 さっぽろ動物専門学校	2020.03.23	包括連携
33	浜頓別町	2021.03.20	地域総合交流
34	JA北海道中央会	2021.04.15	包括連携
35	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 ※学校法人酪農学園との協定	2021.07.16	包括連携
36	株式会社サングリン太陽園	2021.07.30	包括連携
37	島根県	2021.11.10	連携協力

② 協定実績

(締結年月日順)

No.	協定先	事業内容
1	浜中町	<ul style="list-style-type: none"> ・実践酪農学コースの学生3名が浜中町の酪農場で4ヶ月間の長期酪農実習を実施 ・農協の高橋参事が「実践酪農学」講義の特別講義をリモートで実施(6月25日) ・受託研究「浜中町内のエゾシカ生息状況調査及び昆布干場のエゾシカ被害防御方法の技術改良とアライグマの痕跡調査に関する研究」(~2022年3月31日)
2	栗山町	町民講座に環境共生学類馬場准教授を派遣した(2022年3月18日)
4	道央農業振興公社	<ul style="list-style-type: none"> ・道央農業塾 塾長に循環農学類系山准教授が就任した ・道央農業塾にて系山准教授が講演を行った(12月14日、2022年1月19日) ・令和3年度北海道6次産業化サポート事業地域支援検証委員会について相原教授あてに委員委嘱の依頼があった ・農福連携に関する2回の農業版ジョブコーチグレードアップ研修会において、義平教授が講師・コメンテーターを務めた(2月19日、3月9日)。
5	江別市・市内3大学・江別市商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> ・ジモガクの学生を募集した ・学生ビジネスプランコンテスト(主催:札幌学院大学)へ後援 ・ふるさと江別塾を実施した(10月1日~12月31日まで公開) ・学内圃場見学会の実施と事前下見の対応 ・江別市環境講座に2名講師を派遣した(9月1日 吉田磨教授、10月20日 浅川教授) ・EBETSUto(えべつ愛事業)のPRブースを学内に設置(12月23日~3月31日)し、中央館1階でPR活動をおこなった(1月17日) ・えべつ未来づくり学生コンペティションに参加した(2022年2月15日) ・第1回および第2回江別市環境審議会に吉田教授が対応した ・江別市再生可能エネルギー導入に向けた意見交換会へ押谷教授が出席した ・江別市環境経営普及セミナーに講師として本田教授を派遣した ・北海道情報大学 生理倫理委員会委員について石井教授および山口昭弘教授が委嘱された ・教職実践演習の授業の中で、地域農業を研究したい学生のグループ向けに、江別市の農畜産物やその取組事例等について江別市農業振興課の職員に講演していただいた(10月6日)
8	洞爺湖町	<ul style="list-style-type: none"> ・受託研究「洞爺湖中島におけるエゾシカの低密度管理の実践と洞爺湖における生物多様性保全と自然環境保全活動の支援に関する研究」(~2022年3月31日) ・第1回(令和3年度第5回)洞爺湖町まちづくり審議会へ吉田教授が出席した ・洞爺湖町まち・ひと・しごと創成有識者会議について吉田教授に推薦依頼があった ・洞爺湖町まちづくり審議会員について吉田教授あてに委嘱に関する依頼があった
9	(公財)北海道農業公社	<ul style="list-style-type: none"> ・受託研究「農用地開発整備技術向上に資するICT技術を活用した教育教材開発に関する研究」(~2022年3月31日) ・新規就農に関心のある本学学生に向けた相談会を実施し、先方から相談員1名を派遣いただいた。本イベント後も学生との個別相談を実施いただける関係性を構築することができた。(12月3日) ・2021年度卒業生(2022年4月入社)が2名就職した ・実践農学講義(1年生が対象の選択科目)にて、「行政による新規就農のサポート」(講師は岡一義氏)を実施(10月15日)

No.	協定先	事業内容
10	北海道ホルスタイン農業協同組合、(公社)北海道酪農検定検査協会、(一社)ジェネティクス北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・内部審査研究会を実施した(9月16日 北海道ホルスタイン農業協同組合 職員のみ参加) ・受託研究「乳用牛の経済諸形質に関するゲノミック評価値の迅速で正確な算出に関する研究」の実施(ジェネティクス北海道、2021年5月から2022年3月) ・ホルスタイン種雄牛の造成に関わる実務に携わり、豊富な経験を有する伊藤克己氏(ジェネティクス北海道)より、乳牛改良の実態について農食環境学群3年生160名において講義していただいた(7月15日) ・令和3年度乳用牛改良手法の高度化事業に係る乳用牛改良体制検討委員会(遺伝評価技術)の開催について増田准教授に依頼があった ・生乳取扱者セミナーの資料作成について岡本英竜准教授に依頼があった ・検定情報活用研修会(Web)について泉教授に講師派遣依頼があった ・令和3年度乳用牛生産性長命連産性の遺伝改良研究事業に係る推進員会について増田准教授あてに委嘱依頼があった ・下記の通り特別講義を依頼した <p>【北海道ホルスタイン農業協同組合】</p> <p>田井氏(家畜管理・栄養学実験Ⅰ5月27日、肉用家畜飼養学実習10月26日)</p> <p>河原氏(受精卵移植論7月9日)</p> <p>【一般社団法人ジェネティクス北海道】</p> <p>花牟禮氏(家畜繁殖技術論7月7日)、伊藤氏(家畜育種学7月8日)</p> <p>早川氏(受精卵移植論7月16日)</p> <p>【一般社団法人北海道酪農検定検査協会】</p> <p>小坂氏(家畜管理・栄養学実験Ⅱ12月13日)</p> <p>山口氏(家畜育種繁殖学実験12月22日)、樋口氏(泌乳生理学12月20日)</p>
13	滝上町	<ul style="list-style-type: none"> ・受託研究「滝上町の自然植生に対する住民及び観光客の環境意識に関する研究」(~2022年2月28日)
15	標茶町	<ul style="list-style-type: none"> ・受託研究「海草と経産牛などの相互活用に関する研究」を実施(期間2021年11月29日~2022年7月30日) ・釧路町・標茶町広域連携ブランド課推進アドバイザーについて泉教授へ委嘱に関する依頼があった
17	占冠村	<ul style="list-style-type: none"> ・占冠村公民館事業「第4回占冠村ヒグマミーティング」について伊藤講師へ派遣依頼があった
18	旭川市(旭山動物園)	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川市ヒグマ搜索調査への指導者派遣について環境共生学類 伊藤講師あてに依頼があった ・第1回 旭川市ヒグマ対策協議会について環境共生学類 伊藤講師あてに依頼があった ・旭山動物園内にて、旭山動物園の教育活動(環境教育)について教育担当の佐賀真一氏にインタビューを実施した(3月7日)参加学生は卒業論文研究のために、動物園や水族館の教育活動に関する現状調査とその教育効果について調査している。今回は旭山動物園と学校が連携して行う教育活動について、動物園の教育担当者からその実態と現時点での課題などについてインタビューを行った(理科教育研究室3年生1名)
19	遠軽町・湧別町・佐呂間町、オホーツク農業共済組合、えんゆう農業協同組合、佐呂間町農業協同組合	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型臨床実習の実施(10月3日~、10月10日~、10月17日~、10月24日~、11月7日~の5回) ・参加型臨床実習引率教員による現地獣医師や高校生向けのセミナーの実施。 ・地域総合交流推進協議会総会へ堂地学長が出席した ・遠軽高校における獣医地域枠入試セミナーの実施(1月19日) ・遠軽町役場保健福祉課にご協力いただき食と健康学類 管理栄養士コースの臨地実習をオンラインで実施した(10月18日~21日、11月4日) ・遠軽町哺育センターの運用に助言・指導している

No.	協定先	事業内容
21	札幌グランドホテル	・本学の実習で収穫された「コールラビ」「インカのめざめ」が札幌グランドホテルの料理に使用された
22	北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・包括連携協定企業等交流会の実行委員会改選に伴う書面会議を実施 ・オンラインでの協働内容紹介における協力(例年実施されている協働内容紹介のためのパネル展示が新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなくなってしまったためオンラインとなった) ・2018年にわが国で発生した豚熱対応のため、北海道大学大学院微生物学教室と連携し、農場でのワクチン接種時期の検討、国内への豚熱・アフリカ豚熱の侵入リスクアセスメント、イノシシにおける豚熱ウイルス伝播について共同で解析を行っている ・獣医学類学生が食肉衛生検査について学内で準体験できるよう、食肉衛生検査実習バーチャルリアリティを作成している。東藻琴食肉衛生検査所の協力を得て、バーチャルリアリティに必要な健康家畜由来内臓の画像撮影を行った。 ・石狩管内の企業4社と、ゼミ単位の課題解決型インターンシップを実施した。(金子ゼミ、長村ゼミ、小八重ゼミ、宮崎ゼミ、杉村ゼミ)12月に最終報告会を行い、一部はテレビ・新聞で取り上げられた。 ・令和3年度(2021年度)第1回北海道食の安全・安心委員会遺伝子組換え作物交雑等防止部会の開催について特別委員として船津教授が出席した ・北海道石狩振興局より立木准教授に講師依頼があった ・令和3年度ヒグマコーディネーター研修会(兼ヒグマ支援班研修)について佐藤(喜)教授に講師依頼があった ・令和3年度(2021年度)北海道動物愛護推進協議会の開催について郡山准教授に依頼があった ・令和3年度(2021年度)第2回北海道農業・農村振興審議会の開催について副会長として園田教授が出席した ・北海道立北の森づくり専門学院における外部講師について金子教授に依頼があった ・北海道農政部からの委託研究業務「GISを活用した地域課題共有手法の最適化研究業務」(金子教授)地域の農業生産基盤や営農システムに関する課題のうち、主に水田地域の排水性に関して、GISやリモートセンシング等の技術を活用して課題を抽出する手法や、それらを活用して地域を支援する技術者を安定的に育成するための研究プログラムを検討することを目的とした委託研究。 ・動物愛護管理シンポジウムに共催し学生ホールを無償で貸し出した
23	中標津町、中標津町教育委員会、中標津町農業協同組合、計根別農業協同組合、中標津町農業高校	新たなチーズ種の開発、生ハムの熟成方法、中標津町農業高校との連携した商品開発について打合せを行った
24	北海道科学大学、北海道科学大学短期大学部	共同研究「畜舎内の腐食ガス環境下(高温・アンモニア含有雰囲気)における構造材の腐食に関する研究」の実施(~2021年度)
25	札幌市	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市内小学校の百葉箱へ観測機器を設置し、馬場准教授の共同研究と卒業論文に協力していただいた。また、2021年度から観測データを札幌市教育委員会に提供し、札幌市内小学校の授業にも活用していただくこととなった ・札幌市ヒグマ対策委員会等へ佐藤(喜)教授に派遣依頼があった ・デートDV防止講座について須賀教授に講師依頼があった ・「男女共同参画集刊行会学習会」について須賀教授に講演依頼があった ・「母子保健に関する研修」について須賀教授に講師依頼があった ・「札幌ヒグマフォーラム2022」について佐藤(喜)教授に講師依頼があった ・札幌市学校給食運営委員会について杉村准教授あてに委員就任の依頼があった ・市民動物園会議委員について吉中准教授が委嘱された ・さっぽろヒグマ基本計画改定に係る検討委員会について佐藤(喜)教授あてに委員就任の依頼があった

No.	協定先	事業内容
26	地方独立行政法人北海道立総合研究機構	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協議会の設置要綱改正 ・卒業論文2件で協力していただいている ・岩野教授が受託研究「牛乳房炎に対するファージセラピーの応用に関する研究」をおこなっている（～2023年3月31日まで） ・北海道農業試験会議への有識者としての出席について中辻教授に依頼があった ・「原価管理・コスト改善ゼミナール」について本田教授あてに講師依頼があった ・北海道農業試験会議について中辻教授宛てに出席依頼があった ・食関連研究課題検討会に係る構成員（外部有識者）について船津教授に委嘱の依頼があった
28	北海道ワイン株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ブドウ苗管理作業の指導を受けた（圃場の新たな棚設置作業、ブドウ果実の収穫とワイン醸造仕込み作業、冬剪定作業） ・本学の名称がついたワインの製造・販売
29	生活協同組合コープさっぽろ	<ul style="list-style-type: none"> ・健土健民牛乳を5店舗で販売している ・北海道SDGs推進プラットフォームにおける大学ロゴ使用、マイボトルエコアクションに関するポスター掲示依頼 ・「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦」の開催に伴って金子教授あてに協力依頼があった
30	北海道農業共済組合連合会及び道内5農業共済組合	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤耐性菌研究と酪農衛生の経済効果に関する2つの研究に必要な情報について、集約後提供を受け、解析を行った。 ・受託研究「組合乳牛損防健診事業、牛群健診に関する研究」（北海道中央農業共済組合留萌支所、～2023年3月31日） ・受託研究「放牧牛の集団衛生管理に関する研究」（みなみ北海道農業共済組合、～2022年1月31日） ・受託研究「牛群検診に関する研究」（北海道中央農業共済組合宗谷支所、～2022年3月31日） ・「組合内獣医師講習会」に阿部獣医臨床教授を派遣した ・北海道内獣医学系大学と北海道NOSAIとの連絡協議会について及川学群長・樋口学類長・大塚教授へ出席依頼があった
31	梨湖フーズ株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・徳寿ファームと土壌の排水性について飛谷准教授が意見交換を行った ・アスパラガスの育て方について園田教授が指導・助言を現地で行った
32	札幌どうぶつ専門学校	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌どうぶつ専門学校の教員が本学の新入生オリエンテーションに協力した（4月8日） ・札幌どうぶつ専門学校の学生を受け入れ講義（理学療法講義、中獣医学講義）を行った（9月14日、16日） ・菅野教授が札幌どうぶつ専門学校の講義を行った（オンライン 9月21日） ・札幌どうぶつ専門学校の学生が本学牛舎等で実習を行った（10月19日、26日、11月2日、9日） ・菅野教授が札幌どうぶつ専門学校で講義を行った（11月16日、30日、12月7日、14日、21日）
33	浜頓別町	<ul style="list-style-type: none"> ・町役場の担当者が来学され、今後の連携について打合せを行った（4月21日） ・管理栄養士の求人票掲載に関する依頼 ・農業政策学研究室の教育・研究に協力していただいた（10月25日、ゼミ研修） ・浜頓別町ジュニアガイドアカデミーに河川の水質分析等で協力した
34	JA北海道中央会	<ul style="list-style-type: none"> ・パラレルノーカー周知のためクリアファイルを学生向けに配付した ・起業に向けた啓発セミナーの実施を検討した
35	北海道コカ・コーラボトリング株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・構内で発生するPETボトル廃棄物をすべてリサイクルするBtoBリサイクルを開始した ・茶粕のエコフィード化に関する研究を開始した ・備蓄水のローリングストックを開始した
36	サン格林太陽園	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノロジーファーム西の里で生産されたお米（140kg）が寄付され、9月29日～10月1日で実施された「食の支援事業」にて学生向けに配布された ・「太陽と水と土フォトコンテスト」に関して学内周知をおこなった。 ・サン格林太陽園が主体となっているスマート農業共同体(SAc)について金子教授が顧問に委嘱された ・サン格林太陽園担当者とEBEZZAの職人である宮本氏が来学され本学小林准教授と学生との対談を実施（11月11日）、その様子をSAcのホームページに掲載した（12月15日） ・産学連携ドローン教習コースを創設した
37	島根県	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖技術研修会が来島牧場にて実施され、堂地学長が講師を務めた ・本学の実習を受け入れていただくための打合せを行った（12月20日） ・来島牧場の繁殖成績についてご教示いただいた。また、飼料設計について福森准教授が評価した

③ 高大連携協定一覧および講義・講座

協定一覧

No.	協定高校	協定調印日	協定内容
1	北海道清水高等学校	2008.02.18	高大連携事業
2	北海道士幌高等学校	2008.07.31	高大連携事業
3	北海道札幌東高等学校	2009.03.06	高大連携事業
4	札幌私立高等学校9校	2009.03.16	高大連携事業
5	北海道岩見沢農業高等学校	2013.03.25	高大連携事業

講義・講座

札幌東高等学校

2009年に協定を締結し(2017年に更新)、例年定時制の生徒を対象に、本学環境共生学類の教員9名が現地で「環境講座」を実施しています。

日時	所属	講師	内容
5月25日(火) 19:20~19:55	環境共生学類	押谷 一	「捨てられる食品」
6月1日(火) 19:20~19:55	環境共生学類	伊吾田宏正	「エゾシカの生態と管理」
7月6日(火) 19:20~19:55	環境共生学類	吉田 磨	「化学を使って地球を理解しよう」
7月13日(火) 19:20~19:55	環境共生学類	鈴木 透	「キツネ、アライグマなど北海道に生息する中型のネコ目」
10月5日(火) 20:35~21:15	環境共生学類	吉田 磨	「世界の科学者の観測と分析」
10月12日(火) 20:35~21:15	環境共生学類	中谷 賜丈	「水質の違いを調べる」
10月19日(火) 20:35~21:15	環境共生学類	中谷 賜丈	「水を手で掴む」
10月26日(火) 20:35~21:15	環境共生学類	保原 達	「自然とのつながりとは」
11月2日(火) 20:35~21:15	環境共生学類	伊藤 哲治	「大学での野生動物の研究」
11月9日(火) 20:35~21:15	環境共生学類	星野 仏方	「足寄町における放牧実験」 「当別地域における農地の土壌水分推定」

札幌開成中等教育学校

コズモサイエンス科における「先端科学持論」で本学にて授業・実習を実施しています。

実施日	所属	講師	テーマ
10月23日(土)	環境共生学類	金子 正美	「環境・農業分野における RS/GIS/GPS 技術の応用」

④ コープさっぽろ

コープさっぽろとの連携協定に基づき、本学の理念である健土健民という考え方を多くの方に知っていただくことを目的に、2019年7月から「健土健民牛乳」を販売しています。現在は、Lucy店、Socia店、平岡店、川下店、野幌店、えべつ店の6店舗で販売しています。

販売店舗	各週販売個数	納品本数	販売本数	入荷から完売までの平均日数
LUCY	32本	1,536本	1,535本	約2.7日
Socia	15本	720本	720本	約4.1日
平岡	15本	720本	717本	約4.6日
川下	8本	384本	384本	約3日
野幌	20本	960本	955本	約3.7日
えべつ	10本	480本	480本	約4.5日
合計	100本	4,800本	4,791本	約3.7日

※ 完売しなかった週は完売まで7日として計算している



(3) ミルク産業活性化推進事業

① 酪農学園チ・カ・ホdeマルシェ

昨年度に大成功を収めた「酪農学園チ・カ・ホdeマルシェ」を開催しました。2022年2月9日(水)~2月13日(日)の5日間、商品販売ブースを13に増やし、酪農学園大学の乳製品および卒業生が製造した乳製品と肉製品をチ・カ・ホ(札幌駅前通地下広場憩いの空間E・W)にて販売しました。

会場構成は乳製品販売ブース、酪農学園大学の研究紹介ブース、酪農学園のSDGsの取り組み紹介ブースからなり、5日間で約10,000人が来場しました。新型コロナウイルス感染症や大雪の影響から客足が伸びず苦戦しましたが、販売最終日には商品が完売する卒業生のブースもありました。乳製品販売ブース中央にはプロジェクターを設置し、本学のPR動画と理事長のメッセージ、卒業生各社のPR動画を流しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、乳製品販売各ブースには飛散防止シートの設置、販売スタッフはマスクと手袋の着用、体調管理、手指消毒を徹底し、接客に臨みました。

本学はバター、チーズ(ゴーダ、クリーム、カマンベール)を出品し、卒業生からは、牛乳、ヨーグルトなどの乳製品、スイーツ、肉製品などの出品がありました。



【チ・カ・ホ de 酪農学園】

大学の教育研究を紹介する「チ・カ・ホde酪農学園」ブースでは、農食環境学群の各学類がポスター展示を行い、加えて牛のエサ、土壌と植物、ヒンメリの実物を展示しました。また、ポスターを制作した教員がブースに立ち、一般の方に教育研究の紹介をしました。

ポスター

- ・コロナの影響で酪農乳業に起きていること(学長メッセージ)
- ・環境共生学類紹介
- ・土→作物→家畜の有機的な関係(循環農学類 小八重善裕准教授)
- ・牛のスゴさを学んでみよう(循環農学類 泉賢一教授)
- ・酪農のスゴさを学んでみよう(循環農学類 泉賢一教授)
- ・「酪農×工学」による新たなナチュラルチーズの開発(食と健康学類 金田勇教授、栃原孝志講師)
- ・クリームチーズの活用例(循環農学類 宮崎早花講師)
- ・酪農学園大学のヒンメリ(循環農学類 宮崎早花講師)
- ・酪農学園基金紹介

展示品

- ・畑の土壌断面標本
- ・乳牛の飼料(粉ミルク、サイレージ、濃厚飼料、大豆粕、ビートパルプなど)
- ・ヒンメリ



大学の研究紹介ブース



ヒンメリ



牛のエサの展示



土壌断面標本の展示

【酪農学園×SDGs】

SDGsブースでは2月10日(木)に4名の学生によるSDGsに関するテーマの卒論発表会が行われ、一般の方が立ち止まって聞き入る様子が見られました。

ポスター

- ・酪農学園の建学の理念・精神とSDGsのつながり
- ・北海道コカ・コーラボトリング株式会社との連携
BtoB(ボトル to ボトル)リサイクル、エコフィード化に関する研究
- ・海外農業技術セミナー開催案内

展示品

- ・リサイクル工程別PETボトル(粉碎フレーク、レジン、プリフォーム)
- ・茶粕サイレージ(北海道コカ・コーラボトリングの工場で発生する麦茶粕を肉牛の飼料用に発酵させたもの)



学生による卒論発表会



リサイクル工程別PETボトルと茶粕サイレージ

開催日 : 2月9日(水)~13日(日)

会場 : 札幌駅前通地下広場 憩いの空間E・W

後援 : 北海道

出店企業 : (株)宇野牧場、(株)ジャパチーズ、(株)アンジュ・ド・フロマージュ、白老和牛王国上村牧場(株)、(株)金丸興業、(有)山川牧場自然牛乳、(有)小林牧場、(株)オホーツクファーム喜多牧場※、(株)長沼あいす※、(有)鈴の鳴る道※、(有)大熊養鶏場※、(有)レークヒル牧場※、(有)パインランドデーリィ※、(有)渡辺体験牧場※、(株)横市フロマージュ舎※、ノースプレインファーム(株)※、(有)アドナイ※、(株)トンデンファーム※ **計18社**
※は商品のみ出品

出店企業

【ブース出店(全日程)】

酪農学園大学(江別市)



出品商品

- ・バター
- ・ゴードチーズ
- ・カマンベールチーズ
- ・クリームチーズ

株式会社 宇野牧場(天塩町)

代表取締役 宇野 剛司
酪農学園大学酪農学部農業経済学科



出品商品

- ・宇野牧場史上最高峰の牛乳
- ・オーガニックドリンクヨーグルト
- ・オーガニックプレーンヨーグルト
- ・とろっとスイーツヨーグルト
- ・トロケッテ・ウーノ
(プレーン/いちご/あずき/ハスカップ/抹茶)
- ・パンナコッタ・ウーノ

有限会社 山川牧場自然牛乳(七飯町大沼)

代表取締役 山川 明
 酪農学園大学短期大学部酪農学科
 当日販売 山川 大貴
 酪農学園大学農食環境学群食と健康学類



- 出品商品
- ・山川牧場特濃牛乳
 - ・コーヒーマルク
 - ・のむヨーグルト
 - ・プレーンヨーグルト無糖
 - ・モッツアレラチーズ
 - ・プロヴォローネチーズ
 - ・さけるチーズ
 - ・ゴダチーズ ムーン
 - ・ジャー黒カレー
 - ・ジャー黒ハンバーグ(生)
 - ・ジャー黒ハンバーグ(焼)

株式会社 アンジュ・ド・フロマージュ(黒松内町)

農場長 射場 勇樹
 酪農学園大学酪農学部食品科学科



- 出品商品
- ・チーズのオイル漬け
 - ・リヴィエール ブラン
 - ・アンジュカレ
 - ・歌オ
 - ・ポワブル

株式会社 ジャパチーズ(旭川市)

代表取締役 長尾 英次
 酪農学園大学酪農学部食品科学科



- 出品商品
- ・チェダーチーズ
 - ・黒岳チェダー (黒ビールチェダー)
 - ・モッツアレラ
 - ・ちよい熟

白老和牛王国上村牧場 株式会社(白老町)

代表取締役 上村 篤正
 酪農学園大学酪農学部食品科学科



- 出品商品
- ・上村和牛あらびきステーキハンバーグ
 - ・白老牛プレミアムハンバーグ
 - ・白老牛プレミアムチーズハンバーグ
 - ・白老牛ごろごろカレー

金丸興業 株式会社(真狩村)

代表取締役 金丸 将樹
 酪農学園大学短期大学部



- 出品商品
- ・有機栽培のじゃがいも
 - ・金丸ファーム手作りウイナー

【ブース出店（2/9～11）】

有限会社 小林牧場（江別市）

代表取締役 小林 紀彦

酪農学園大学 酪農学部酪農学科



出品商品

- ・小林牧場物語 牛乳
- ・小林牧場物語 飲むヨーグルト（プレーン/りんご/ぶどう）
- ・小林牧場物語 カマンベールチーズ
- ・小林牧場物語 ワンキュービックブルーチーズ
- ・小林牧場物語 ワンキュービックゴーダチーズ
- ・小林牧場物語 手作りカリッとゴーダ

【出品のみ】

有限会社大熊養鶏場（比布町）

専務取締役 大熊 啓司

酪農学園大学酪農学部農業経済学科



出品商品

- ・かっぱの健卵
- ・ぴっぷ小ねぎ醤油

【出品のみ】

株式会社 オホーツクファーム喜多牧場（紋別市）

代表取締役 喜多 俊晴

酪農学園大学酪農学部酪農学科



出品商品

- ・オホーツクファームの乳
- ・stringチーズ
- ・おつまみチーズ
- ・喜多牧場の手づくりプリン
- ・喜多牧場のビーフランク
- ・喜多牧場のポークフランク

株式会社 長沼あいす（長沼町）

代表取締役 山口 幸太郎

酪農学園大学食品科学科



出品商品

- ・北のおいちーず
- ・カチョカバロ チッコロ
- ・カチョカバロ チッコロ スモーク
- ・モツアレラボッコランチーノ
- ・COW'S KITCHEN（バジル/トッポギ風/スープカレー味/山わさび）

有限会社 鈴の鳴る道（新冠町）

石山 翔

酪農学園大学酪農学部食品科学科



出品商品

- ・ホロシリ牛乳
- ・ホロシミリルクコーヒー
- ・大地の初雪（モツアレラチーズ）
- ・ミルクのささやき（stringチーズ）
- ・幌尻ゴーダ（ゴーダチーズ）
- ・カマンベールチーズ

有限会社 レークヒル牧場（洞爺湖町）

代表取締役 塩野谷 幸一

酪農学園大学酪農学部酪農学科



出品商品

- ・stringチーズ（プレーン/スパイシー/ハーブソルト）
- ・ゴーダチーズ（おつまみタイプ）

有限会社 パインランドデリー(興部町)

代表取締役 松村 和一
酪農学園大学短期大学部



出品商品

- ・生乳そのままモッツアレラ
- ・さけるモッツアレラ
- ・こどもモッツアレラ

有限会社 渡辺体験牧場(弟子屈町)

代表取締役 渡辺 隆幸
酪農学園大学 酪農学部 農業経済学科



出品商品

- ・牛のおっぱいミルク
- ・牛のおっぱいコーヒーミルク
- ・牛のおっぱいのむヨーグルト
- ・こだわりチーズタルト
- ・ゴーダチーズケーキ
- ・ミルクサブレ
- ・ミルクキャンディー

株式会社 横市フロマージュ舎(芦別市)

横市 翔太
酪農学園大学環境システム学部経営環境学科



出品商品

- ・横市バター
- ・横市カットチーズ

有限会社 アドナイ(興部町)

代表取締役 堤田 克彦
酪農学園大学酪農学部酪農学科



出品商品

- ・アドナイ プレーンヨーグルト
- ・アドナイ スイートヨーグルト
- ・スカモルツァ・ピアンコ
- ・スカモルツァ・スモーク
- ・ミモレット・アドナイ
- ・フロマージュ・ド・エール TSUBASA
- ・SAYURI (白カビタイプ)

ノースプレインファーム 株式会社(興部町)

代表取締役 大黒 宏
酪農学園大学酪農学部酪農学科



出品商品

- ・オホーツクおこっぺ有機牛乳
- ・オホーツクおこっぺ醗酵バター
- ・ゴーダチーズ
- ・おこっぺ有機モッツアレラチーズ
- ・季節の有機セミハードチーズ
- ・クラッシュチーズ(おこっぺハード)
- ・おこっぺバタークリームケーキ

株式会社 トンデンファーム(江別)

代表取締役 松山 増男
酪農学園大学酪農学部酪農学科



出品商品

- ・肉製品つめあわせ
(ロース/ムスライス/荒挽ウインナー/ピルカウインナー/生ハムスモーク)

② イオン

乳製品販売

2021年4月23日(金)より「健土健民」という言葉を広く認知してもらうことを目的として、毎週本学で作られた牛乳乳製品をイオン江別店で販売しています。出荷実績は以下のとおりです。

出荷商品	出荷数量(個)
健土健民牛乳	1,470
健土健民バター	60
クリームチーズ	60
カマンベール	60

(4) 協定機関以外との連携

① 羽幌町

羽幌町との連携事業で焼尻めん羊牧場草地環境向上のため、循環農学類の教員および学生の派遣を行いました。また、調査結果の報告もオンラインで行いました。

また、今年度からめん羊の健康状態観察のために獣医学群とも連携しておりますが、船の欠航や新型コロナウイルス感染症拡大の影響で現地調査にはいたりませんでした。

【草地調査】

- ・4月30日(金) 出発分 高波のため島に渡ることができませんでした
- ・6月検討 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となりました
- ・9月16日(木) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となりました
- ・10月16日(土) 日帰り 三枝教授と学生2名が調査を行いました
- ・3月10日(木) オンラインで調査報告会を行いました

【めん羊の健康診断】

- ・12月22日(水) 出発分 フェリーが欠航したため島には渡れず、羽幌町本土とめん羊牧場でオンライン会議を行いました
- ・3月12日(土) 出発分 新型コロナウイルスの感染拡大により中止となりました

② ネットヨタ道都株式会社

ネットヨタ道都株式会社様より足踏み消毒スタンド「しょうどく大使」を10台寄贈していただき、2022年1月19日(水)には本学で贈呈式を開催いたしました。

寄贈していただいた消毒スタンドはフィールド教育研究センター、実習食堂、健民館に設置し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めています。



贈呈式



消毒スタンド「しょうどく大使」

③ 旭川ガス「ほっと」へのレシピ掲載

旭川ガスが発行するガスだより「ほっと」へ2021年4月～5月号は「ギュ〜ツとベジ食べる!」と題し酪農PLUS+に掲載されているレシピを紹介し、6月号は「今月は酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校の考案レシピ」を紹介しました。7月号～2022年3月号は「旬をたのしモウ」と題して食と健康学類栄養教育学研究室の協力により乳製品を使ったレシピを紹介しました。本誌は旭川市で10万戸、江別市で2万戸の家庭に配布されおり、読者からは好評をいただいています。



【4月号感想 一部抜粋】

- ギュ〜ツとベジ食べる!のドイツグラタンのレシピがとても良かったです!
- じゃがいも豆知識が良かったです。
- ドイツグラタンを夕食で子供と作る予定です。



【5月号感想 一部抜粋】

- 料理の豆知識参考にして、フライパンピザ挑戦してみようと思います。
- 毎月の料理のレシピ楽しみにしています。ピザはオーブンでというイメージでしたが、フライパンでも作れるなんて嬉しいです。
- 簡単フライパンピザ美味しく出来ました。レシピありがとうございます。



【6月号感想 一部抜粋】

- コロナ禍でなかなか外食が難しいので、お家で作れるスイーツなどの紹介を楽しみにしています!
- 今月号、高校の生徒さん達のケーキレシピとても美味しそうですね。
- 北の宝石のレシピ参考になりました。



【7月号感想 一部抜粋】

- フルーツソースヨーグルト作りました!おいしかったー♪
- アレルギーで、生のさくらんぼが食べられないので、さくらんぼのフルーツソースを作ってもらってヨーグルトにかけて食べました。おいしかったです。
- 今、旬のさくらんぼを堪能しているのですが、さくらんぼに疲れ目、肌荒れ予防の効果があることをガスだよりで知れてよかったです。



【8月号感想 一部抜粋】

- 簡単に作れる料理の掲載は有難い。
- 旬を楽しモウで夏野菜そうめんが取り扱われていましたが牛乳つけだれという予想外のたれに驚きました。挑戦してみたいと思います。
- 夏野菜そうめんを作ってみたいと思います。



【9月号感想 一部抜粋】

- クリームチーズとあんこのかぼちゃきんとん、かぼちゃ大好きで見た目も可愛いので作ってみたいと思います(*^_^*)
- かぼちゃきんとん美味しそう!
- 毎回楽しく読ませて頂いています。最近は旬を楽しモウが、とても好きです。参考にしています。



【10月号感想 一部抜粋】

- 鮭ときのこのみそクリーム煮大変美味しく頂きました。
- 寒くなって来たので 鮭ときのこのみそクリーム煮作りたと思いました。
- ほんと10月号の旬を楽しモウの 鮭ときのこのみそクリーム煮を早速作ってたべました。美味しかったです。



【11月号感想 一部抜粋】

- じゃがいもピザ美味しく作れました。
- じゃがいもpizza作ってみました。子どもが大喜びで食べてました。
- ガス日より今月号のじゃがいもピザ簡単そうで作ってみました。とても美味しかったです。レシピ毎号楽しみにしています。



【12月号感想 一部抜粋】

- クリスマスリースハンバーグは、今年は孫が来る予定なのでクリスマスメニューのメインディッシュに!
- 旬を楽しモウのクリスマスリースハンバーグは作ってみてとても美味しかったです!
- クリスマスリースハンバーグ早速作ってみたいです!



【1月号感想 一部抜粋】

- なますに牛乳、卵を加えてタルタルソースってあまり考えないですね。美味しそうなのでやってみます!
- 旬を楽しモウレシピ参考にしています。
- 紅白なますでタルタルソースビックリで〜す!



【2月号感想 一部抜粋】

- 料理のページ等、妻がいつも楽しみにしています。
- 娘がいるので、ひなまつりに載っていたカップちらしを作りたいと思っています。いつも参考にさせて頂いています。
- 今月号に掲載されている『洋風カップちらし』がとても美味しそうでした。レシピを参考に妻に作ってもらおうと思います。



【3月号感想 一部抜粋】

- 簡単なレアチーズケーキのレシピがとてもわかりやすくて良かったです。
- レシピコーナーいつも楽しみにしています!今回は大好きなチーズケーキだったので作ってみますね!
- 簡単!レアチーズケーキとても美味しかったです。

④ 牛乳・乳製品の消費拡大に向けた取り組み

新型コロナウイルス感染症の流行で消費が落ち込んでいる牛乳・乳製品について、年末年始に処理不可能乳(工場処理しきれない生乳)の発生が危惧されたことから、学内外に向けて消費拡大を呼びかける取り組みを行いました。

学内向け

- ・学園ホール、学生食堂前への看板設置
- ・一般社団法人Jミルクから取り寄せたリーフレット・チラシを配布(事務職員対象)
- ・雪印メグミルク株式会社の業務用バター・家庭用バターあっせん販売
- ・北海道コカ・コーラボトリング株式会社「GEORGIA 猿田彦珈琲監修のコーヒーベース(無糖/甘さ控えめ)」を特別価格で販売
- ・理事長による消費呼びかけ動画掲載(Web情報学生支援システム「UNIPA」、全学メールでの周知)

学外向け

- ・酪農PLUS+WebサイトおよびSNSでの消費呼びかけ
- ・理事長による消費呼びかけ動画掲載(酪農PLUS+WebサイトおよびSNS)
- ・「酪農学園チ・カ・ホdeマルシェ」会場でのポスター掲示・看板設置

学内向け販売商品と販売個数

会社名	商品名	販売数
雪印メグミルク株式会社	業務用バター(有塩・無塩) 450g	150個
	北海道ポーションホイップバター 5g×20個入(100g)	150袋
	北海道ポーションバター 8g×50個入(400g)	96箱
	家庭用バター(有塩) 200g	288個
北海道コカ・コーラボトリング株式会社	GEORGIA 猿田彦珈琲監修のコーヒーベース(無糖/甘さ控えめ)	696本



バターあっせん販売



学園ホールへの看板設置



配布・掲示したチラシとリーフレット(Jミルクより取り寄せ)



酪農PLUS+での周知



「酪農学園チ・カ・ホdeマルシェ」会場でのポスター掲示・看板設置



谷山理事長の牛乳チャレンジ動画

(5) 酪農PLUS+

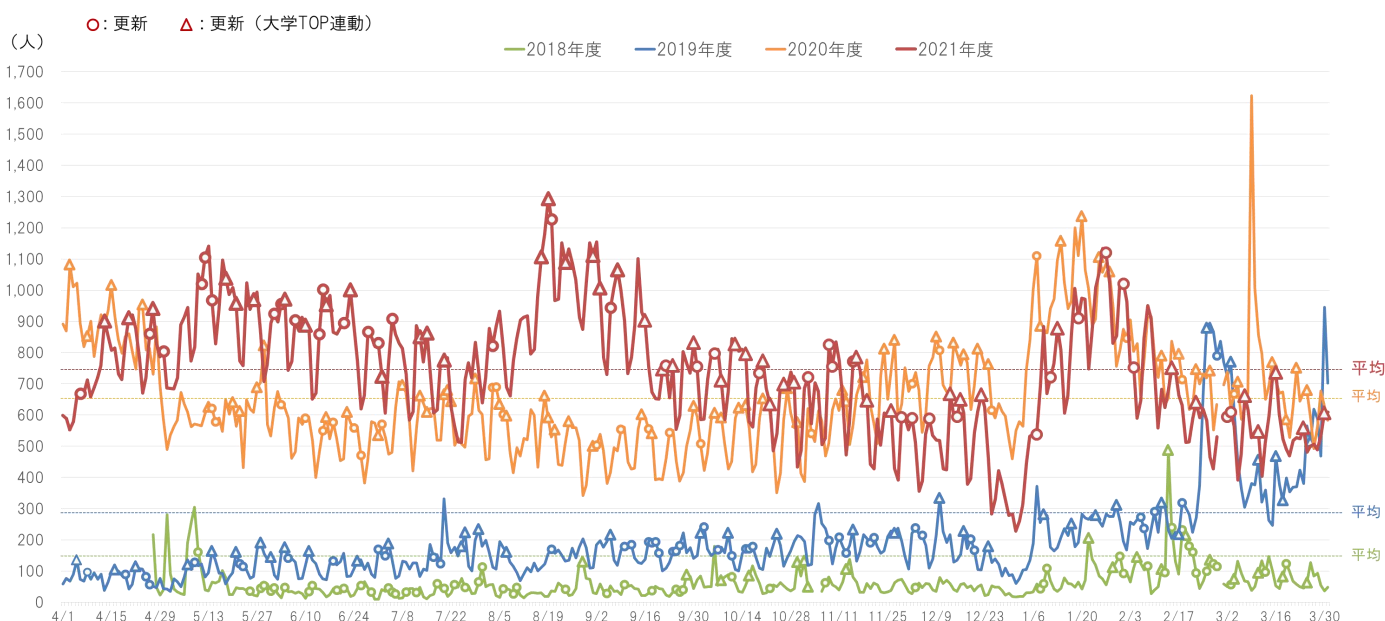
① アクセス状況

2020年度より総アクセス数が増加しました。国内での新型コロナウイルス新規感染者数が初めて1万人を超え、13都道府県で緊急事態宣言が発令された8月中旬は連日アクセスが非常に多くなり、2021年度の最高アクセス数もこの時期に記録しました。

都道府県別では、2020年度と同様に東京、神奈川、大阪など大都市圏からのアクセスが上位を占めました。年齢別では18～24歳の割合が6ポイント増加し、2018年の開設以降最多となりました。流入経路別では検索サイトからの流入が増加し、9割を超えました。検索ワードでは、2020年度に続き「ヨーグルト+コロナ」など新型コロナウイルスに関連したものが上位を占めており、新型コロナウイルス感染症に対する関心が依然として高いことが伺えます。

a. 地域アクセス状況

■ 総アクセス数 **268,242人** (前年度+28,539人)
 ■ 日平均アクセス数 **734.9人** (前年度+78.2人) ■ 日最高アクセス数 **1,294人** (8/19)



b. 地域別アクセス状況

■ 国別

	国名	アクセス数
1	日本	229,692
2	アメリカ	1,093
3	(不明)	558
4	中国	194
5	韓国	159
6	台湾	144
7	オーストラリア	96
8	タイ	95
9	カナダ	94
10	ドイツ	91

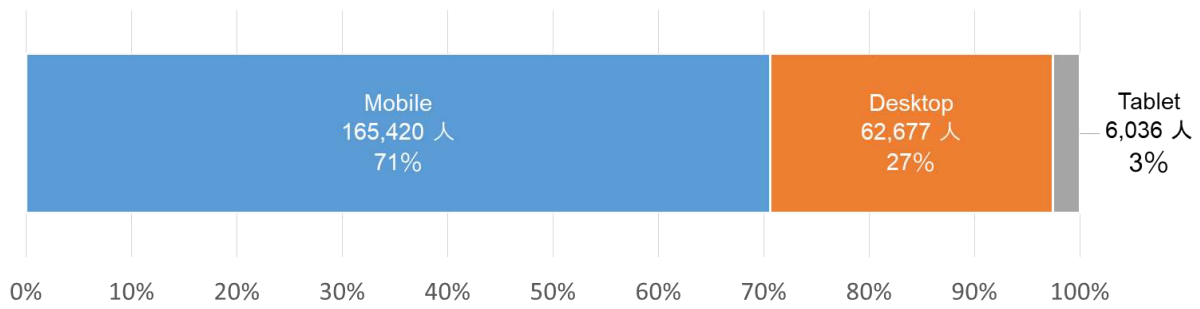
■ 都道府県別

	都道府県名	アクセス数
1	東京都	43,352
2	神奈川県	32,219
3	大阪府	29,269
4	北海道	22,797
5	愛知県	13,281
6	埼玉県	8,765
7	福岡県	7,741
8	千葉県	7,240
9	兵庫県	6,273
10	宮城県	3,629

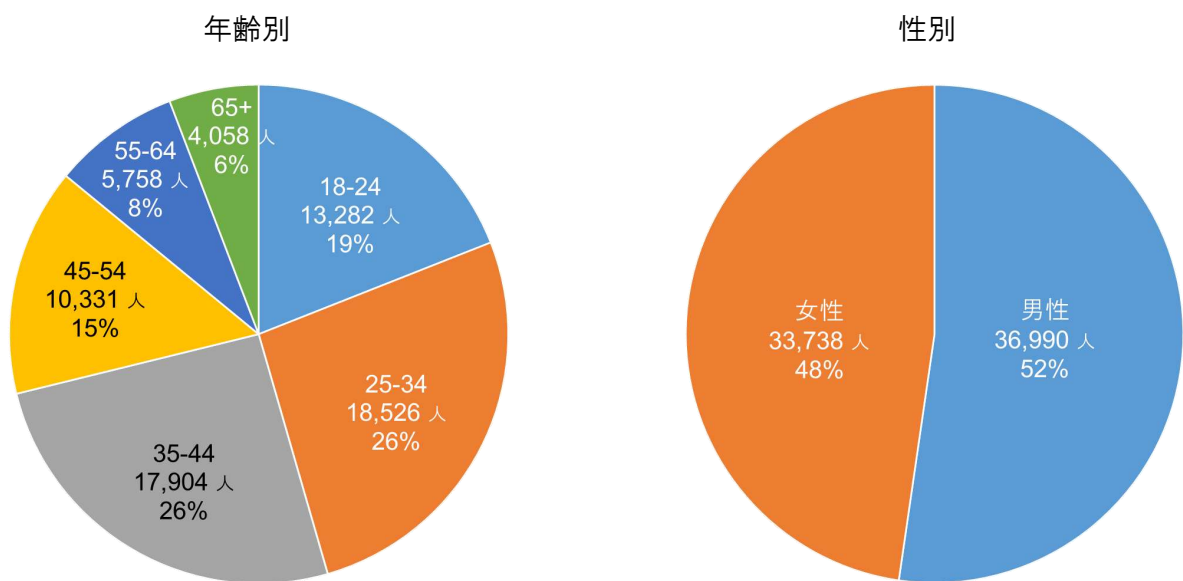
■ 市区町村別

	市区町村名	アクセス数
1	横浜市	25,133
2	大阪市	23,997
3	札幌市	12,900
4	名古屋市	9,091
5	新宿区	7,986
6	福岡市	5,806
7	港区	5,536
8	(不明)	4,575
9	千代田区	3,854
10	さいたま市	3,499

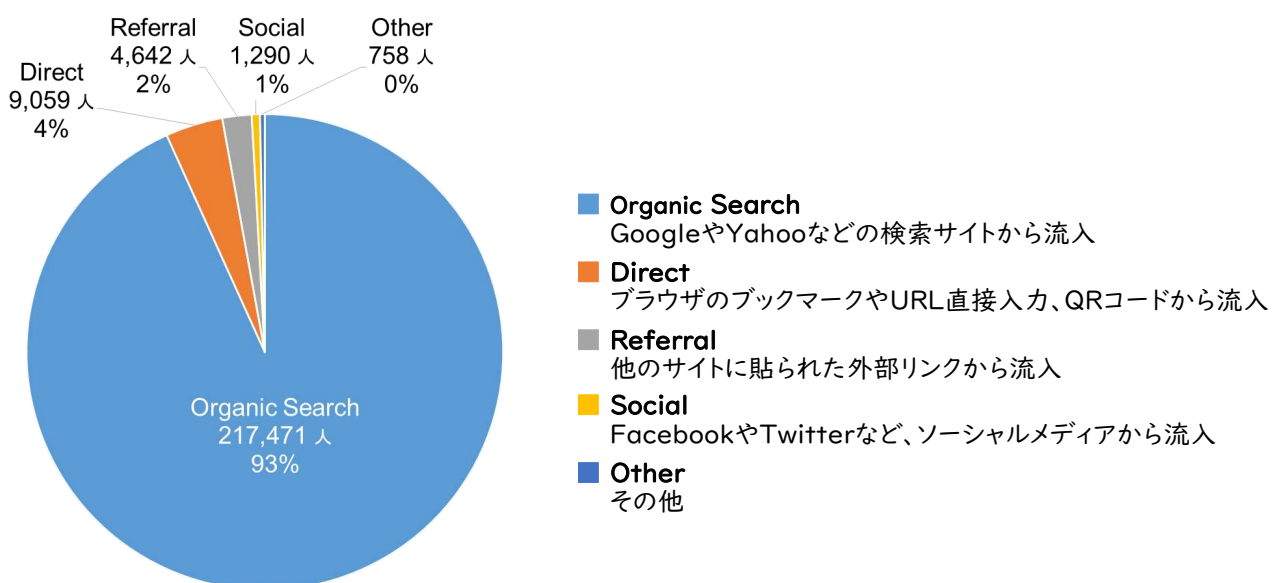
c. デバイス別アクセス状況



d. 年齢・性別アクセス状況



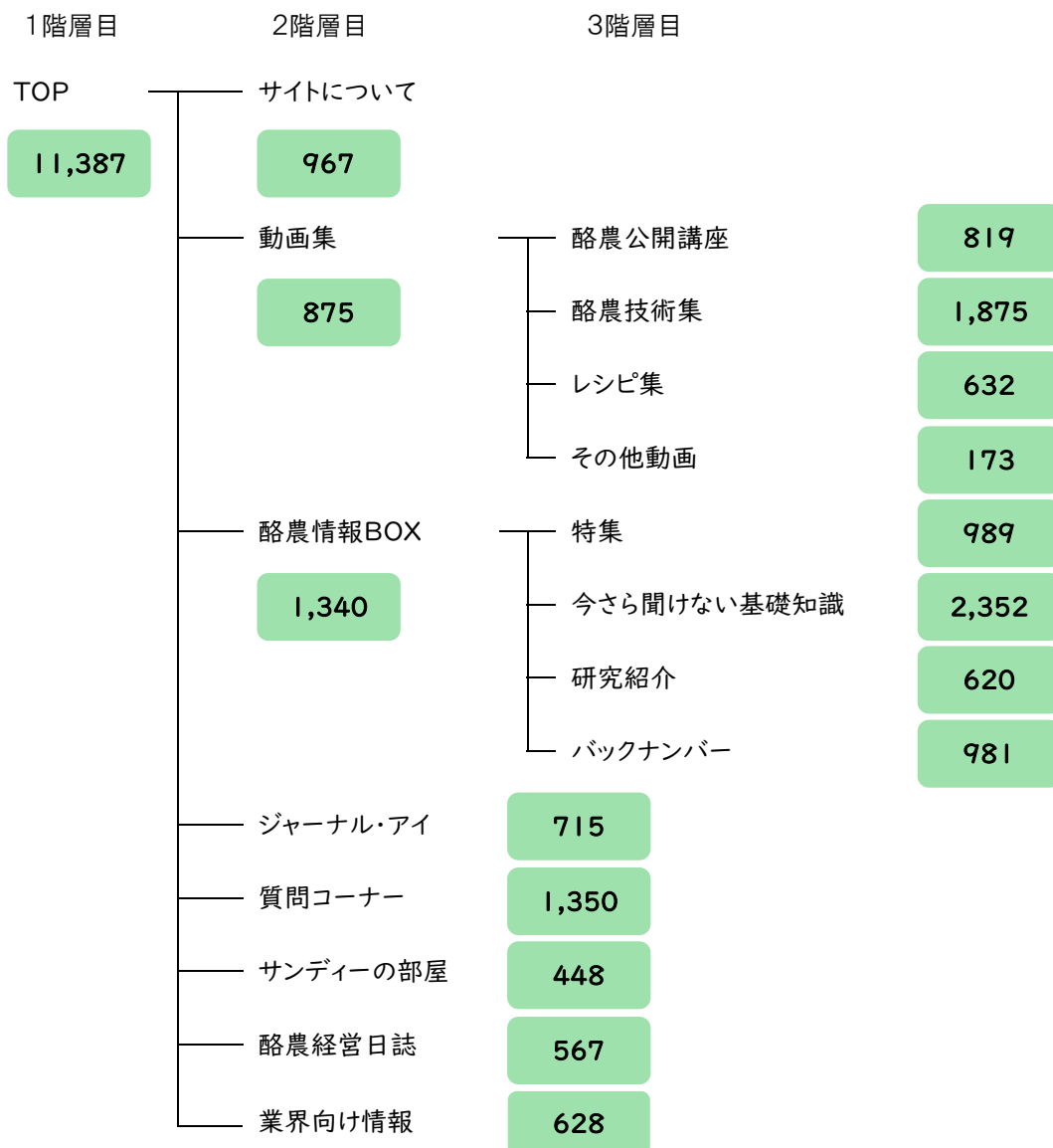
e. 流入経路別アクセス状況



※GoogleAnalyticsではすべてのユーザーの属性、環境などを判別することができないため、各項目の合計値は総アクセス数とは一致しない。

f. ページ別アクセス状況（1～3階層）

「質問コーナー」と「酪農技術集」を除き、2020年度の閲覧数を下回りました。サイトの総アクセス数は増加しており、流入経路別アクセス状況で「検索サイト経由」が9割を超えていたことから、「酪農PLUS+」の1～3階層目は経由せず、検索サイトの検索結果ページから直接目的の記事にアクセスするユーザーが増えていると考えられます。



g. ページ別アクセス状況（動画集）

「酪農技術集」の閲覧数が多く、特に酪農現場で利用頻度の高い「簡易頭絡」や「モクシ」などの作り方を紹介する牛の結び方シリーズで多い傾向にありました。

公開講座

タイトル	掲載日	閲覧数
酪農公開講座		
第51回「草地の雑草対策」	18/4/27	36
第51回「乳牛の哺育育成のポイント」	18/4/27	76
第53回「自動搾乳システムの現在と未来～乳牛・改良・配慮～」	18/4/27	153
第55回「北海道150年と酪農の歴史～パイオニアと地上の星のスピリットを今に～」	19/1/29	42
第55回「スマート酪農の展開～飼料生産、乳生産の省力化、自動化～」	19/2/12	30
第55回「スマート酪農の展開～ドローンや衛星画像技術の農地管理への利活用について～」	19/3/5	37
その他講座		
牛の蹄管理総論 I	20/5/22	163
第1回酪農オンライン講座「農場のバイオセキュリティを考える～地域の畜産衛生管理について～」	21/3/25	612
第2回酪農公開オンライン講座「サイレージ調製の基本原理」(第60回酪農公開講座)	22/3/24	135

酪農技術集

タイトル	掲載日	閲覧数
牛の結び方～ロープ末端の処理～	18/4/27	370
牛の結び方～簡易頭絡～	18/4/27	3,354
共進会に向けた毛刈り～脚&肋編～	18/7/18	166
共進会に向けた毛刈り～尾&トップライン編～	18/7/26	82
共進会に向けた毛刈り～乳房編～	18/8/7	178
共進会での牛の引き方	18/8/10	439
牛の結び方～モクシの作り方～	18/11/2	2,744
牛の結び方～ロープの端に輪を作る～	19/1/22	1,981
牛の結び方～杭に繋ぐ～	19/2/19	1,537
牛の結び方～尾を結ぶ～	19/3/19	1,244
牛の結び方～途中で輪を作る～	19/3/26	355
草地造成改良の流れ	20/7/21	382

レシピ集

タイトル	掲載日	閲覧数
抹茶ミルク	18/4/27	1
アップルポムポム	18/4/27	25
フレンチトースト	18/6/1	22
リンゴミルク	18/6/4	9
ミルクもちの作り方	18/8/28	14
ミルクもちパフェの作り方	18/8/28	7
フルーツ寒天パフェの作り方	18/8/28	18
牛乳プリンの作り方	18/8/28	10
牛乳寒天パフェの作り方	18/8/28	27
牛乳ゼリーとリンゴのキャラメリゼパフェの作り方	18/8/28	5
ギリシア風サラダの作り方	18/9/28	14
ブラマンジェの作り方	19/11/1	92
きなこミルクの作り方	19/2/5	20
ドイツグラタンの作り方	19/2/26	55
クルミミルクの作り方	19/3/12	53
ジャガイモの冷製スープの作り方	19/4/23	3
フライパンピザの作り方	19/5/7	93
ヨーグルトスープの作り方	19/5/14	13
キャロットコロケの作り方	19/5/21	23
ベビーホタテのリカバリーカルボナーラ	19/5/28	69
筋肉モリモリ! ささ身とクリームチーズのグラタン	19/6/4	290
タンドリーチキンの作り方	20/7/1	22
鶏もも肉のチーズピカタの作り方	20/7/15	90
鶏もも肉のホワイトソースがけの作り方	20/7/29	57
ミルクくずもちの作り方	20/8/7	85
野菜グラタンの作り方	20/8/21	125
食べよう!モウっと野菜「トマトの簡単冷製はちみつマリネの作り方」(旭川ガス『ほっと』より)	21/7/20	153
食べよう!モウっと野菜「鮭と小松菜のミルクリゾットの作り方」(旭川ガス『ほっと』より)	21/8/17	84
食べよう!モウっと野菜「ほくほくのさつまもコロケの作り方」(旭川ガス『ほっと』より)	21/9/3	72
食べよう!モウっと野菜「秋のかぼちゃグラタンの作り方」(旭川ガス『ほっと』より)	21/9/21	134

その他動画

タイトル	掲載日	閲覧数
紫アスパラガスとトマトの個性を活かしたホテルレシピの開発	18/6/19	29
もみ殻堆肥の作り方	20/8/3	92
落葉堆肥の作り方	20/8/4	215

h. ページ別アクセス状況（酪農情報BOX）

閲覧数では今さら聞けない基礎知識の「牛乳の殺菌方法」、ダウンロード数では今さら聞けない基礎知識の「乳牛のステージ別呼称」が最も多くなりました。

特集では「体力向上のための運動と運動の効果を高める牛乳の摂取について」と「牛乳の栄養的特性と摂取効果について」が昨年度から閲覧数を大きく伸ばしており、長引くコロナ禍で牛乳の機能性に関心が高まっていることが伺えます。

☆PDFのダウンロードについて

簡単なアンケート（居住地、性別、年齢、職業）に回答することで、本文と図表を見やすく配置したPDFをダウンロードできる仕組みを導入しています（特集、連載、今さら聞けない基礎知識、研究紹介）。

PDFダウンロード数の推移

（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2018年度	7	43	35	20	45	25	61	38	33	25	89	47	468
2019年度	56	53	52	44	59	37	46	72	93	96	127	115	850
2020年度	112	162	163	1,341	1,202	150	153	138	184	170	192	137	4,104
2021年度	214	657	498	263	234	186	325	210	177	164	135	148	3,211

特集

タイトル	掲載日	閲覧数	DL数
飼料給与と栄養管理	18/4/27	4,453	123
泌乳と搾乳の生理	18/4/27	1,756	35
牛の繁殖生理	18/4/27	7,698	55
乳房炎の原因と予防法 一病気の特徴と基本的な搾乳衛生一	18/4/27	9,926	138
高泌乳牛管理の注意点とその栄養について	18/10/16	4,338	69
環境にやさしい牛の飼い方とは 一ルーメン環境を最適化すると環境負荷は低減する一	18/10/30	4,011	31
酪農経営を継続させるための繁殖のポイント 一繁殖で悩んだときの解決のポイント教えます一	18/11/13	917	14
体力向上のための運動と運動の効果を高める牛乳の摂取について	19/5/31	9,902	12
酪農現場における暑熱対策	19/6/11	2,923	63
酪農におけるGGAPの取り組み	19/7/4	304	8
酪農におけるアニマルウェルフェアと現状	19/9/6	1,651	16
胎子死を防ぐための飼養管理技術 一特に冬場は注意が必要一	19/11/15	970	20
子牛の免疫システムの成熟と感染症	19/12/10	1,807	53
高泌乳牛の繁殖成績の現状と受胎率向上について	20/1/9	1,848	24
乳牛の繁殖成績と分娩前後の栄養状態との関係(1)	20/1/24	1,908	49
乳牛の繁殖成績と分娩前後の栄養状態との関係(2)	20/1/24	548	34
乳用牛の生産性を高めるカウコンフォートに配慮した牛舎構造	20/2/12	3,458	52
酪農経営の動向とこれからの家族酪農	20/3/11	1,050	20
牛乳の栄養的特性と摂取効果について	20/10/6	5,458	5
日本における搾乳ロボットの普及と地域による利用特性	20/10/27	2,328	38
乳からチーズへ 一作る技術と美味しさの秘密一	21/3/5	1,392	6
乳糖不耐症とヒトの乳利用	21/3/29	631	7
乳牛の周産期疾病予防と飼養環境モニタリング	21/5/26	1,233	31
初乳の重要性和初乳給与の基礎知識	21/6/23	3,030	63
酪農における温室効果ガス排出と削減に向けて	21/10/26	864	30
飼養衛生管理基準改正後の重要点	22/2/26	162	3

連載

タイトル	掲載日	閲覧数	DL数
草地の土づくり			
≪第1回≫草地更新時の注意点	18/4/27	721	33
≪第2回≫草地土壌の特徴	18/10/8	1,143	36
≪第3回≫草地の維持管理の基礎	19/4/5	783	25
≪第4回≫施肥基準とは何か？	19/11/27	529	28
≪第5回≫土壌診断に基づく施肥対応1:土壌採取時の注意と施肥対応の考え方	20/5/13	255	21
≪第6回≫土壌診断に基づく施肥対応2:カリウムの施肥対応	20/11/13	302	19
≪第7回≫土壌診断に基づく施肥対応3:リンの施肥対応	21/4/13	479	19
≪第8回≫土壌診断に基づく施肥対応4:窒素の施肥対応	21/10/12	444	15
飼料作物の生産と調整—理論と実際—			
≪第1回≫自給粗飼料の重要性	19/4/16	374	20
≪第2回≫自給粗飼料生産	19/6/25	336	30
≪第3回≫飼料作物の調製利用～サイレージ発酵の理論～	19/8/7	2,105	40
≪第4回≫牧草の調製利用～サイレージ調製の基本と実際～	19/10/10	2,133	34
≪第5回≫トウモロコシサイレージ調製の基本と実際	19/12/24	1,682	32
≪第6回≫サイレージの品質評価法と好気的変敗	20/2/25	2,397	51
農場のバイオセキュリティを考える			
≪第1回≫農場の防疫対策	20/4/8	419	9
≪第2回≫酪農場の消毒	20/5/27	340	16
≪第3回≫酪農場で使用する消毒薬	20/6/22	204	12
≪第4回≫飼養衛生管理基準	20/7/20	164	9
≪第5回≫酪農場の衛生管理におけるHACCPの有用性について	20/8/25	122	7
≪第6回≫牛舎の衛生対策(石灰塗布)	20/9/18	830	35
≪第7回≫酪農現場で問題になる感染症	20/10/20	246	9
≪第8回≫酪農現場で問題になる感染症Ⅱ	20/11/24	861	12
≪第9回≫酪農現場で問題になる感染症Ⅲ	20/12/17	218	8
≪第10回≫全国の農場における衛生モニタリング調査について	21/1/28	66	4
≪第11回≫「2010宮崎口蹄疫」の現地対策から見えたもの	21/2/22	93	7
≪第12回≫バイオセキュリティの重要点を総まとめ	21/3/15	251	9
牛の繁殖管理の理論と実際			
≪第1回≫卵子は始原生殖細胞から	21/6/4	1,091	47
≪第2回≫雌牛におけるホルモンの分泌とその作用	21/6/4	2,743	98
≪第3回≫牛の発情周期における卵胞波	21/7/2	2,500	87
≪第4回≫夏から初秋の受胎率低下の原因を探る	21/9/1	605	29
北海道を豊かにするSDGsとGIS			
≪第1回≫SDGsの概要	21/9/16	348	8

タイトル	掲載日	閲覧数	DL数
牛体測定*	18/4/27	5,533	145
乳牛の飼養形態*	18/4/27	1,980	67
飼料の種類*	18/4/27	2,360	83
乳牛のステージ別呼称*	18/6/4	3,553	299
牛の呼称(英語編)*	18/6/26	6,443	147
乳牛の基本情報 ~採食量・排泄量・泌乳量~*	18/7/6	2,769	98
ホルスタイン共進会	18/7/30	1,165	85
消毒薬の種類	19/2/18	935	112
乳牛の基本情報 ~歯~	19/2/25	3,984	178
牛乳の種類	19/3/14	568	11
牛乳の殺菌方法	19/3/20	10,579	79
【連載】安全・衛生・防疫講座(中央酪農会議『感動通信』より転載)			
感染症の成立を阻止せよ!(vol.63より)	21/11/2	74	-
感染症の伝播経路を遮断しよう(vol.64より)	21/11/2	75	-
正しく消毒できている?(vol.65より)	22/2/1	62	-

研究紹介

タイトル	掲載日	閲覧数	DL数
北海道の公共牧場における牛消化管内寄生虫の感染状況と駆虫対策の実態	18/6/12	239	5
乳牛への飼料米給与が飼料摂取量、乳生産および牛乳の脂肪酸組成と“おいしさ”に及ぼす影響	18/7/12	259	6
離乳前後の子牛の管理について	19/2/14	3,372	37
牛乳房炎検査におけるCMT変法の再検証について	20/3/26	1,673	22
牛の起立様式からみた牛房での有孔マットの応用例	20/4/24	248	2
子牛のマイコプラズマ関節炎とその病態形成メカニズム	20/10/15	1,507	15
内モンゴルにおける定住型放牧の発展と影響	21/12/16	218	6
ホルスタイン種新生子牛における初乳摂取後の時間経過による血清IgG濃度変化について	22/3/30	95	2

i. ページ別アクセス状況（ジャーナルアイ）

2020年度から開始した「未来の酪農家紹介」、2021年度から新たに開始した「獣医の卵紹介」で閲覧数が多い傾向にありました。また、「酪農と聖書」の第1回、「世界の乳文化図鑑」の第7回と第9回など、公開から時間が経過しているにもかかわらず、2020年度から閲覧数を大きく伸ばすページもありました。

タイトル	掲載日	閲覧数
2021年度2級認定牛削蹄師講習会・認定試験が開催されました	21/10/15	316
酪農と聖書		
① 蹄が分かれ、反すうする牛は“清い動物”	18/11/2	3,141
② 聖書において最も重要な動物は“牛”	18/12/5	239
③ 神の前に謙虚であることが 牧畜に携わる人々の美德である	19/1/8	587
④ 「愛と感謝」をもって動物利用をするべき	19/2/5	144
⑤ 避けて通れない「動物倫理」と「5つの自由」	19/3/4	446
⑥ 必要とされる!“牛の都合”を想像する視点	19/4/10	28
⑦ 高い倫理性はそれ自体が付加価値となる	19/5/9	33
⑧ 宗教文化と動物倫理	19/6/18	154
⑨ 歴史的な文脈の中の牛とそれに携わる人々	19/7/17	7
⑩ 詩篇23篇にみる「動物倫理」	19/8/20	371
⑪ 不作の収穫感謝祭	19/9/19	14
⑫ 聖書における土と三愛精神	19/10/17	47
世界の乳文化図鑑		
① 乳糖不耐症であるが故に“乳”を食べる人々	19/11/20	289
② ラクダ乳の利用	19/12/17	282
③ 遊牧民が伝えてきた発酵乳	20/1/30	127
④ 現代の技術を生かした伝統飲料シュバットの復活	20/2/18	172
⑤ 合理的な乳加工の知恵を伝承	20/3/18	15
⑥ 喫茶とミルク	20/4/15	41
⑦ 草原の名酒「馬乳酒」	20/5/20	673
⑧ プロバイオティクスの先駆的飲料	20/6/16	21
⑨ 中華料理における乳・乳製品	20/7/13	900
⑩ ネズミのお裾分けで作るチーズ	20/8/18	29
⑪ キルギスの民族飲料	20/9/15	5
⑫ キルギスにおけるチーズの活用方法	20/10/13	66
⑬ 一匙のアイスクリームや蘇る	20/11/18	57
⑭ 米国の乳製品のはなし	20/12/14	28
⑮ 民族料理の隠し味はチーズ	21/1/8	35
⑯ モンゴル国の最新牛乳事情	21/2/17	180
⑰ 遊牧世界の乳製品のこれから	21/3/12	66
⑱ ロシアのクミス	21/4/20	197
⑲ 馬乳酒の発酵容器	21/5/18	132
⑳ ウマ乳の利用	21/6/20	173
㉑ 伝統的な皮袋の発酵容器	21/7/13	103
㉒ ロシアのおふくろの味と乳製品	21/8/24	178
㉓ 海を渡ったミルクロード	21/9/24	93
㉔ 乳とコメ	21/10/20	97

タイトル	掲載日	閲覧数
未来の酪農家紹介		
筥寄牧場(北海道釧路市)筥寄 大輔さん	20/9/30	204
城田牧場(長野県伊那市)城田 幸大さん	20/10/30	371
オホーツクファーム喜多牧場(北海道紋別市)喜多 遼太郎さん	20/11/27	523
尾曲牧場(鹿児島県南九州市)尾曲 夢生さん	20/12/24	296
大原牧場(北海道美瑛町)大原 悠さん	21/1/25	301
鈴木牧場(北海道中標津町)鈴木 雄大さん	21/2/26	414
寺本牧場(北海道稚内市)寺本 遥香さん	21/3/25	662
新海益二郎牧場(長野県南牧村)新海益美さん	21/9/30	451
トーフファーム(北海道音更町)石井 大我さん	21/10/29	262
渡邊牧場(愛媛県西条市)渡邊 日向さん	21/11/26	293
三井牧場(長野県南牧村)三井 恭平さん	22/3/7	166
獣医の卵紹介		
生産動物外科学ユニット 杉浦 麗華さん	21/10/22	346
動物生殖学ユニット 梶田 亜希さん	21/11/19	352
食べよう!モウっと野菜		
4月号 アスパラと春キャベツのクリームパスタ	20/7/8	21
5月号 たまねぎとダブルチーズのオープン焼き	20/7/22	5
6月号 ほうれんそうと牛乳でお手軽キッシュ	20/8/5	8
7月号 野菜をディップ	20/8/19	5
8月号 トマトの簡単冷製はちみつマリネ	20/9/9	10
9月号 秋のかぼちゃグラタン	20/9/23	4
10月号 鮭と小松菜のミルクリゾット	20/10/8	17
11月号 ほくほくのさつまいもコロケ	20/11/12	22
12月号 クリスマスビーフシチュー	20/12/9	15
1月号 お餅でピザ風カナッペ	21/1/14	6
2月号 春の彩りちらし寿司	21/2/12	10
3月号 ほっとひとくちミルクロールキャベツ	21/3/19	30
ギューツとベジ食べる!		
4月号 ドイツグラタン	21/4/27	156
5月号 簡単フライパンピザ	21/5/21	202
6月号 酪農学園大学附属とわの森三愛高校考案レシピ「北の宝石」	21/6/16	265
旬を楽しモウ		
7月号 季節のフルーツソースヨーグルト	21/7/15	145
8月号 夏野菜そうめん~牛乳つけだれ~	21/8/19	77
9月号 クリームチーズとあんこのかぼちゃきんとん	21/9/8	177
10月号 鮭ときのこのみそクリーム煮	21/10/8	79
11月号 じゃがいもpizza	21/11/16	98
12月号 クリスマスリースハンバーグ	21/12/13	72
1月号 お節の余りで紅白なますのタルタルソース	22/1/13	98
2月号 作って楽しい!見て楽しい!洋風カップちらし	22/2/22	92
3月号 簡単!レアチーズケーキ	22/3/11	89

j. ページ別アクセス状況（質問コーナー）

2020年度よりやや減少したものの、「ヨーグルトを毎日食べていたらコロナウイルス感染の予防になりますか?」と「ヨーグルトメーカーで作ったヨーグルトの成分は、元のヨーグルトと同じですか?」の閲覧数が突出しており、サイト内の1位と2位になりました。これらの記事は国内での新型コロナウイルス新規感染者数が増加した時期に閲覧数が伸びる傾向にあり、「ヨーグルトで免疫機能を向上させたい」と期待する方が多いことが伺えます。

タイトル	掲載日	閲覧数
人工授精がうまくいかない場合どうすればよいですか?	19/1/9	651
牛乳は太るって本当?	19/1/31	416
乳牛は1頭いくらで買えますか?	19/2/8	14,562
「アニマルウェルフェア」って何ですか?	19/2/13	342
運動後何分以内に牛乳を飲むと筋肉がたくさん作られるのですか?	19/2/15	5,745
筋肉をたくさん作るためには牛乳が良いと聞きましたが、乳製品でも良いのでしょうか?	19/2/15	385
牛は乳癌にならないのでしょうか?	19/2/20	249
粉ミルクは何倍希釈で与えるのが通常なのでしょうか?	19/2/21	2,149
鳥インフルエンザはよく聞きますが、牛や豚、馬や羊は感染しないのでしょうか?	19/2/22	718
次亜塩素酸水は酪農の現場でも使われていますか?	19/2/27	407
ヨーグルトメーカーで作ったヨーグルトの成分は、元のヨーグルトと同じですか?	19/2/28	34,804
トラクタの自動操舵技術は実用段階にあるのですか?	19/5/22	209
牛の第一胃で菌体タンパクを合成するのに必要な「エネルギー」って具体的に何を指しているのですか?	19/9/12	608
水溶性タンパクの高い高水分サイレージに即効性のあるエネルギーとしてブドウ糖がいいと聞きますが、給与量はどれくらいですか?	19/9/12	280
後代検定とゲノム検査の違いはなんですか?	19/10/11	887
牛でもゲノム編集は行われるのでしょうか?	19/10/15	221
乳糖分解酵素がない人でも牛乳料理が大丈夫なのはなぜですか?	19/10/16	10,286
ヨーグルトメーカーでヨーグルトを作るときに、高温殺菌牛乳と低温殺菌牛乳で栄養素や風味に違いはありますか?	19/12/19	3,997
搾乳で初産牛を最初に搾ることが望ましいとされているのはなぜですか?	19/12/20	158
新型コロナウイルスは牛にも感染しますか?	20/2/6	1,881
ヨーグルトを毎日食べていたらコロナウイルス感染の予防になりますか?	20/2/19	45,486
いろいろなサイレージがありますが、使いやすくて飼料中のバランスがいいのはどのサイレージですか?	20/5/14	349
サイレージの可溶性炭水化物(WSC)は糖質と同じ意味ですか?	20/5/15	737
牛の飼料成分で使うTDNは人間におけるカロリーとは違うものなのですか?	20/6/15	6,329
フリーストール牛舎の通路に付ける溝はなぜ「縦溝」がよいのですか?	20/6/18	447
良い黄体とはどのような黄体のことを言うのでしょうか?	20/6/24	2,346
1番草と2番草でそれぞれ1町あたりロールは何本作れますか?	20/9/17	2,063
牛の体温が分娩前日に0.4~0.6℃低下するのはなぜですか?	21/4/26	928
刈り取り時の青草の状態での分析と発酵後の分析では、水分やCPはどの程度変わりますか?	21/4/30	212
人工授精や受精卵移植の後、注入器の先端に赤色の液体が付着していることがあるのですが…	21/5/12	870
跛行によって採食量が低下するのはなぜですか?	21/5/14	190
母牛の体にかかる負担は子どもの数が多いほど大きくなりますか?	21/9/17	108
乳牛の初回受胎率が下がっている原因はなんですか?	21/10/19	274

k. ページ別アクセス状況（共進会結果・お知らせ）

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、年末年始に処理不可能乳（工場で処理できない生乳＝生乳廃棄）が発生する恐れがあったことから、各家庭での牛乳・乳製品の消費を呼びかける「年末年始は積極的な牛乳消費を！」を公開しました。処理不可能乳発生の可能性についてはテレビニュース等でも取り上げられたため、一般の方々の関心も非常に高かったと考えられ、お知らせとしては閲覧数が多くなりました。

2021年度 お知らせ

タイトル	掲載日	閲覧数
2021年3月アクセスレポート	4/6	33
2021年4月アクセスレポート	5/11	29
今日はWorld Milk Day（世界牛乳の日）です！	6/1	53
2021年5月アクセスレポート	6/3	31
6月は牛乳月間！～第2週 和食に牛乳を取り入れよう～	6/7	45
第2回 大動物臨床教育オンラインセミナー（第25回 大動物臨床教育セミナー）の開催について	6/7	103
6月は牛乳月間！～第3週 日本の酪農乳業の歴史を知ろう～	6/14	23
2020年度事業報告書を公開しました	6/15	39
6月は牛乳月間！～第4週 最新の研究情報を知ろう～	6/21	38
6月は牛乳月間！～第5週 世界の酪農・乳業の最新情報を知ろう～	6/28	39
「北海道酪農技術セミナー2021」の開催中止について	7/1	186
2021年6月アクセスレポート	7/5	42
2021年7月アクセスレポート	8/3	37
「牛展4 -ONLINE-」開催のお知らせ	8/20	102
2021年8月アクセスレポート	9/6	17
第11回北海道農場HACCP研究会の開催について	9/22	284
2021年9月アクセスレポート	10/6	21
中央酪農会議の機関誌『感動通信』で村田講師が「安全・衛生・防疫講座」を連載中です	11/2	30
2021年10月アクセスレポート	11/8	36
「酪農学園子・カ・ホ de マルシェ」開催のお知らせ	11/9	56
「酪農オンラインセミナー」（主催：雪印種苗株式会社、共催：酪農学園大学）の開催について	11/15	111
『2022年版酪農経営日誌』を公開しました	11/29	47
2021年11月アクセスレポート	12/2	26
「太陽と水と土フォトコンテスト」の開催について（主催：株式会社サングリン太陽園）	12/3	41
第1回酪農学園大学公開オンライン講座の開催について	12/7	80
バックナンバーお申込フォームおよびお問い合わせフォームの不具合について	12/15	16
年末年始は積極的な牛乳消費を！	12/22	406
2021年12月アクセスレポート	1/7	23
海外農業技術セミナー「持続可能な農業とは～気候危機と生物多様性の喪失～」の開催について	1/11	94
年末年始の牛乳消費にご協力いただきありがとうございました！	1/19	63
「酪農学園子・カ・ホ de マルシェ」出店者紹介	1/27	111
2022年1月アクセスレポート	2/4	43
「酪農学園子・カ・ホ de マルシェ」を開催しました	2/21	26
春の農作業安全確認運動がはじまりました	3/2	69
2022年2月アクセスレポート	3/3	24
酪農学園理事長メッセージ ～牛乳・乳製品の消費について～	3/16	182

2021年度 共進会情報

掲載なし

② SNSアクセス状況

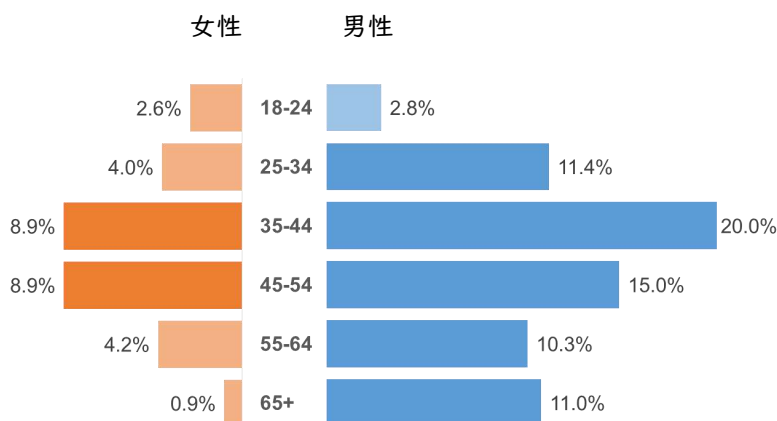
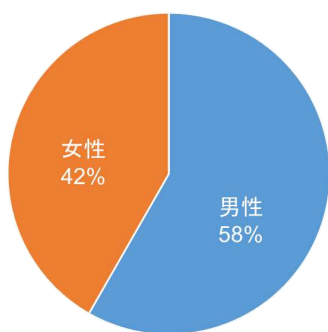
Facebook

週1回以上の投稿(Instagramのシェア投稿を含む)を原則とし、最新記事の紹介や、月ごと・カテゴリごとの人気記事ランキングを中心に投稿しています。「未来の酪農家」と「酪農学園子・カ・ホ de マルシェ」の開催案内や出店者紹介で閲覧数、いいね数が多い傾向にありました。

- フォロワー数 627人(前年度+43人)
- いいね!数 537件(前年度+32件) ※酪農PLUS+のページに対するいいね!
- 投稿数 661件(前年度+171件)



■ フォロワーの性別・年齢



■ 投稿別閲覧数

	内容	掲載日	閲覧数
1	未来の酪農家紹介「新海益二郎牧場(長野県南牧村)新海益美さん」	9/29	1,126
2	「酪農学園子・カ・ホ de マルシェ」開催決定	11/8	1,105
3	「酪農学園子・カ・ホ de マルシェ」出店者紹介(オホーツクファーム喜多牧場)	2/2	632
4	「酪農学園子・カ・ホ de マルシェ」出店者紹介(山川牧場)	1/28	426
5	畑情報(3番草刈り取り)	9/9	396

■ 投稿別いいね!数

	内容	掲載日	いいね数
1	未来の酪農家紹介「新海益二郎牧場(長野県南牧村)新海益美さん」	9/29	117
2	「酪農学園子・カ・ホ de マルシェ」開催決定	11/8	39
3	年未年始の牛乳消費呼びかけ(学園ホールへの看板設置)	12/14	36
	畑情報(3番草刈り取り)	9/9	
	牛情報(放牧開始)	5/6	



未来の酪農家紹介



マルシェ開催案内



3番草刈り取り



放牧開始

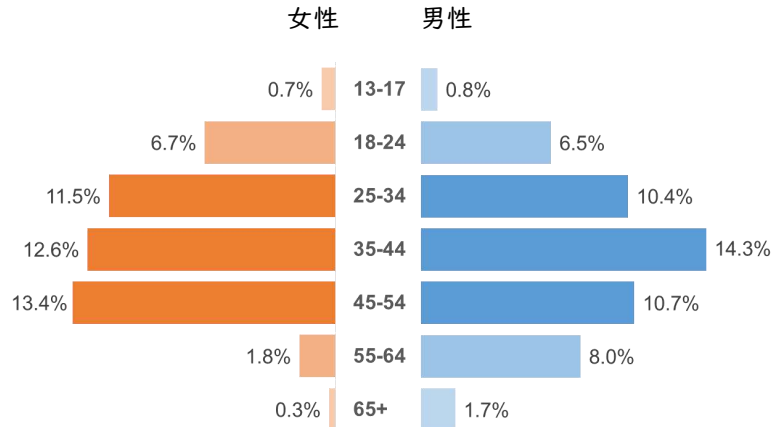
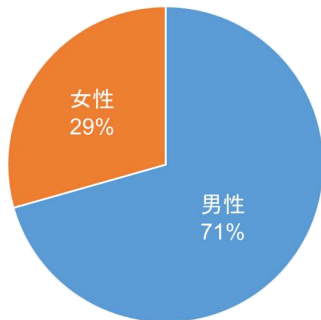
Instagram

週1回以上の投稿を原則とし、酪農学園フィールド教育研究センターの乳牛や圃場の作業風景、ジャーナル・アイで紹介する学生や料理を中心に投稿しています(投稿はFacebookページにシェア)。閲覧数、いいね数は「未来の酪農家紹介」と圃場の作業風景で特に多く、これらの投稿後にはフォロワーも増加しやすい傾向にありました。

- フォロワー数 556人(前年度+162人)
- いいね!数 13,291件(前年度+5,294件) ※各投稿に対するいいね!の合計
- 投稿数 365件(前年度+106件)



■ フォロワーの性別・年齢



■ 投稿別閲覧数

	内容	掲載日	閲覧数
1	未来の酪農家紹介「新海益二郎牧場(長野県南牧村)新海益美さん」	9/29	1,018
2	畑情報(1番草ロールトラックへの積み込み作業)(動画)	7/5	597
3	『酪農学園チ・カ・ホ de マルシェ』開催中(3日目)	2/11	583
4	畑情報(デントコーン刈り取り)	9/16	581
5	『酪農学園チ・カ・ホ de マルシェ』開催中(初日)	2/9	561

■ 投稿別いいね!数

	内容	掲載日	いいね数
1	未来の酪農家紹介「新海益二郎牧場(長野県南牧村)新海益美さん」	9/29	115
2	第2回大動物臨床教育オンラインセミナー案内(梓場の牛)	7/29	88
3	畑情報(1番草ロールトラックへの積み込み作業)(動画)	7/5	88
4	年末年始は牛乳飲モ～(サンディー)	12/22	88
5	畑情報(牛舎にかかる虹)	10/21	84



牧草ロール積み込み



マルシェ開催中



牛乳飲モ～



牛舎にかかる虹

③ 共進会協賛状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、西紋B&Wショウを除く共進会が開催中止となりました。

地区	共進会名	協賛内容	開催日
北海道	北海道B&Wショウ	広告料:30,000円 副賞:4セット	中止
石狩	石狩スプリングショウ	協賛金:10,000円	中止
	江別市ホルスタイン共進会	カップ:3,000円	中止
	道央酪農祭ホルスタイン共進会	副賞:2セット	中止
後志	後志B&Wショウ	副賞:2セット	中止
日高	日胆畜産共進会	副賞:2セット	中止
渡島	道南畜産共進会	副賞:2セット	中止
上川	上川管内総合家畜共進会	副賞:2セット	中止
留萌	道北B&Wショウ	副賞:2セット	中止
宗谷			
オホーツク	北見管内総合家畜共進会	副賞:2セット	中止
	西紋B&Wショウ	協賛金:10,000円	4/23
	JAオホーツクはまなす乳牛・肉牛共進会	副賞:2セット	6/4→中止
十勝	十勝B&Wショウ	副賞:2セット	8/10→中止
	十勝総合畜産共進会	副賞:2セット	中止
釧路	釧路ホルスタイン共進会	副賞:2セット	中止
根室	根室ホルスタイン共進会	副賞:2セット	中止
	根室市ホルスタイン共進会	副賞:2セット	中止
東北地方			
岩手県	岩手県沿岸ホルスタイン共進会	副賞:2セット	中止
	岩手県沿岸B&Wショウ	副賞:2セット	中止
	洋野・新岩手ホルスタインショウ	副賞:2セット	中止
	陸中ホルスタインB&Wショウ	副賞:2セット	中止
関東地方			
栃木県	栃木県ホルスタイン共進会(栃木県酪農フェア)	-	中止
		計	22件

副賞内容:クリアマジック2本・ブラックマジック1本/セット

(6) 寄付事業

酪農学園基金の概要

学校法人酪農学園は、公益財団法人酪農学園後援会の解散に伴い、2021年度に酪農学園大学および酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校の学生支援、教育環境整備、教育・研究支援等を目的とする「酪農学園基金」を創設いたしました。頂きました寄付金は、目的に沿って有効活用し、「農・食・環境・生命」の教育を通じた優秀な人材の育成および学術研究の更なる発展に役立たせていただきます。

社会連携センター地域連携課では、酪農学園基金の創立に伴い、酪農学園基金パンフレットおよびホームページを作成し、酪農学園基金の周知を行いました。

周知方法

【郵送】

2021年7月から本学園に関係する皆さまに、順次、酪農学園基金のご案内を郵送しました。また、酪農学園同窓会および貴農同志会にご協力いただき、多くの同窓生・教職員・卒業生の方にもご案内しています。2021年度は合計で約40,000件を郵送しました。

This is a fundraising brochure for the Rakuno Gakuen Foundation. It features a QR code for online donations, contact information for the website (https://kikin.rakuno.ac.jp), and details about tax benefits for donors. The brochure is titled 'お申し込み・お振り込み' and '税制上の優遇措置について'.

This is an overview brochure for the Rakuno Gakuen Foundation. It includes a photo of a representative, a section titled '酪農学園基金の概要' (Overview of Rakuno Gakuen Foundation), and various sections detailing the foundation's mission, supported activities like student support and international exchange, and contact information. The brochure is titled '酪農学園基金の概要'.

【酪農学園基金ホームページ】

2021年7月より酪農学園基金ホームページを開設しました。当ホームページでは、ご芳名録、寄付者からのメッセージの掲載に加えて、今後の寄付事業の活動や実績報告等様々なお知らせをお届けしていく予定です。

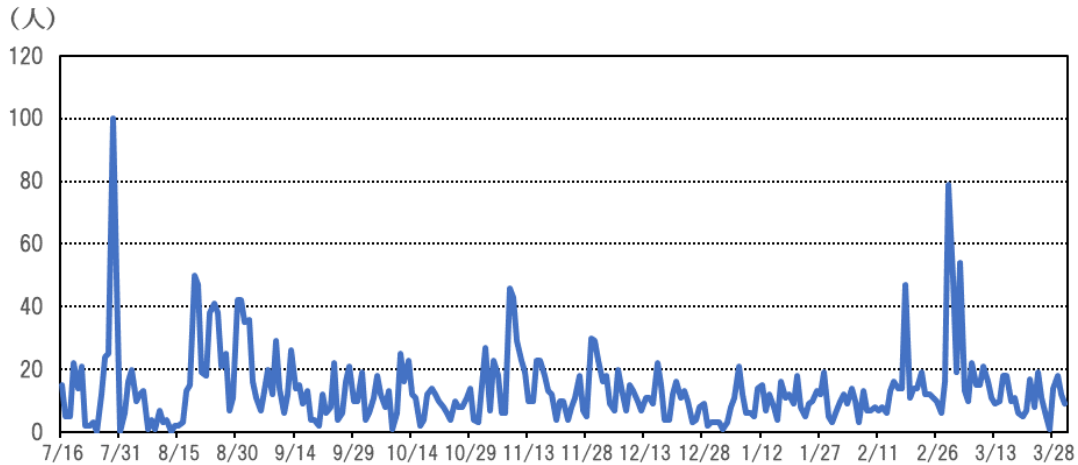
また、ホームページ開設にあわせて、ホームページ上からクレジットカード等で寄付が可能となりました。



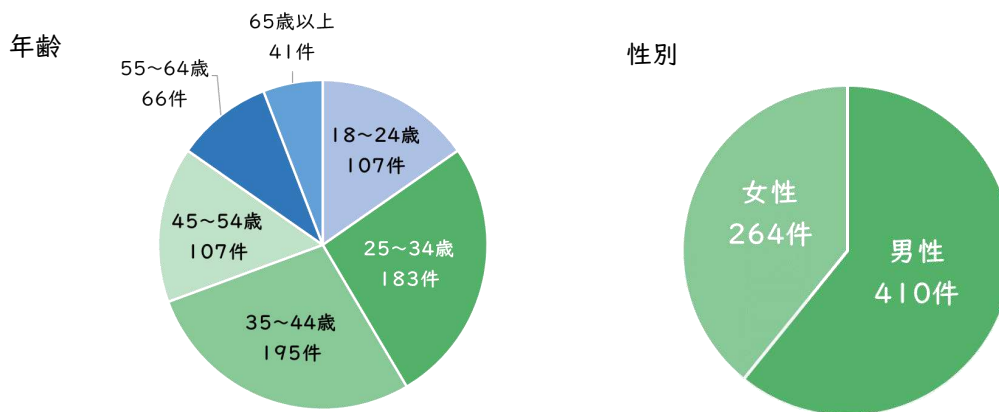
ホームページアクセス状況

【日別アクセス状況】

- 総アクセス数 3,561名
- 日平均アクセス数 14名
- 日最高アクセス数 100名(7/29 ホームページ開設のお知らせ：学内全教職員への周知)



【年齢・性別アクセス状況】



【都道府県、市区町村別アクセス状況】

	都道府県	アクセス数
1	北海道	1,091
2	東京都	383
3	神奈川県	176

	市区町村	アクセス数
1	札幌市	471
2	江別市	403
3	横浜市	142

【ページ別アクセス状況】

	ページ名	閲覧数
1	寄付の種類	1,196
2	税制上の優遇措置	1,108
3	理事長の挨拶	888
4	個人からの寄付	807
5	基金の概要	733

※GoogleAnalyticsではすべてのユーザーの属性、環境などを判別することができないため、各項目の合計値は総アクセス数とは一致しない。

寄付金受入報告

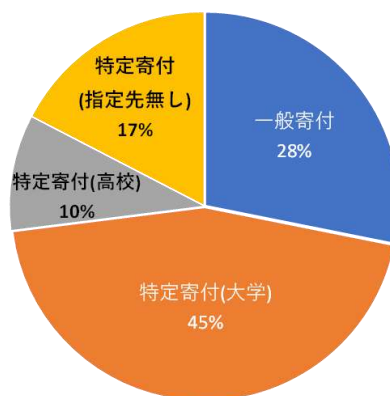
区分	件数	金額(千)
一般・特定寄付金	1,243件	40,155,442円
奨学寄付金	28件	15,052,000円
合計	1,271件	55,207,442円

● 一般・特定寄付金額

寄付先内訳

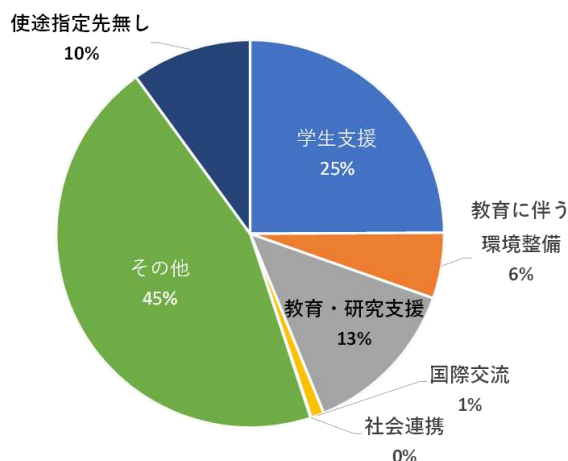
一般寄付	943件	11,304(千円)
特定寄付	300件	28,851(千円)

寄付先	件数	金額(千円)
一般寄付	943	11,304
特定寄付(大学)	234	18,011
特定寄付(高校)	30	3,860
特定寄付(指定先無し)	36	6,980
合計	1,243	40,155



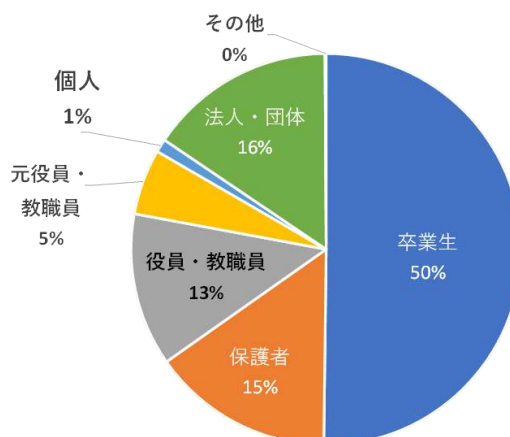
特定寄付使途内訳

使途	件数	金額(千円)
学生支援	74	7,190
教育に伴う環境整備	50	1,580
教育・研究支援	58	3,870
国際交流	2	310
社会連携	2	20
その他	16	12,991
使途指定先無し	98	2,890
合計	300	28,851



● 寄付者内訳

寄付者区分	件数	金額(千円)
卒業生	499	7,528
保護者	152	7,436
役員・教職員	127	2,869
元役員・教職員	54	1,705
個人	11	5,390
法人・団体	154	15,211
その他	1	16
合計	998	40,155



※ 寄付者のうち、複数回寄付申し込みの場合があるため申込件数と寄付者内訳件数とは異なります。

現物寄付

2021年度は39件の現物寄付をいただきました。その中でネットトヨタ道都株式会社様よりしょうどく大使、北海道コカ・コーラボトリング株式会社様よりジャンボメッシュをご寄付いただきました。(P9参照)

南幌町学生・若者支援事業

【概要】

北海道南幌町では、ふるさと納税を活用してコロナ禍の学生・若者を応援する「学生・若者支援プロジェクト」を2021年8月11日～2022年2月6日(180日間)にかけて実施しました。

本プロジェクトは、南幌町がふるさと納税で募集した寄付金を趣旨に賛同する学校に助成し、在学中で生活苦になっている学生への支援に役立てられるしくみです。

本学園においても、酪農学園大学の学生および酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校の生徒が安心して勉強や課外活動に打ち込める環境を整えるべくこの趣旨に賛同し、本プロジェクトに参加いたしました。

頂きました助成金は、酪農学園大学では授業料減免等のため、酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校では寮費およびクラブ活動費の負担軽減等のために活用する予定です。

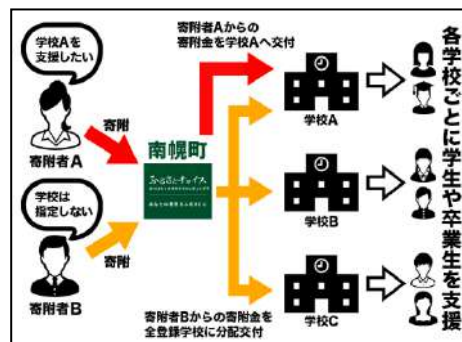
【募集期間】

2021年12月22日～2022年2月6日

(本学園は、プロジェクト期間途中の47日間の参加)

【助成金額】

- ・酪農学園大学 合計 81,260円
- ・酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 合計 204,825円



酪農学園チ・カ・ホdeマルシェでの募金活動

【概要】

2022年2月9日(水)から13日(日)の5日間、札幌駅前通地下広場(チ・カ・ホ)で開催した「酪農学園チ・カ・ホdeマルシェ」

開催期間中は、酪農学園大学の教育・研究を紹介する「チ・カ・ホde酪農学園」(1カ所)と酪農学園大学販売ブース(2カ所)の合計3カ所に募金箱を設置し、酪農学園基金の募金活動を行いました。



【募金額】

5日間合計で**16,693円**の募金をいただきました。集まった募金は、一般寄付として活用させていただきます。

株式会社オカモト リユース・マーケティング・カンパニーとの連携事業

引越しサービス事業

【概要】

株式会社オカモト リユース・マーケティング・カンパニーから酪農学園大学生・教職員限定でお得な単身(一人暮らし)の引越しプランを提供していただき、酪農学園大学生・教職員が引越することで、売上金の一部を株式会社オカモト リユース・マーケティング・カンパニーから寄付金として本学園が受領するものです。

【募集期間】

2022年2月18日～2022年3月31日

【申込件数及び寄付額】

募集期間中の16件申込があり10件の成約となりました。

寄付額 **41,182円**(※2022年度実績)

2022年度 北海道内限定 特別引越しプラン

お引越し基本料金(税込)	お引越し基本料金(税込)
立派+札幌市内(立派+札幌市内)	33,000円
上記以外(立派)以外	37,000円
片道1km~100m	40,000円
片道101km~100km	48,000円
片道101km~200km	53,000円

POINT

- ・3~4月の繁忙期・土日祝も最優格で対応!
- ・洗濯機の取外し・取付け無料!
- ・ベッド解体・組立て無料!
- ・福祉資材の提供!
- (ダンボール10個+家具テープ1巻+巻数1巻)

お申込み・お見積りはこちら

株式会社オカモト リユース・マーケティング・カンパニー(OMC)
 〒01-1501 北海道札幌市東区南一条1丁目1-10
 TEL: 011-223-1190

酪農学園大学 学生・教職員限定
 募集期間限定(2022年2月18日～3月31日)

北海道酪農学園大学 学生生活センター 電話 011-223-1144

酪農学園リユース募金

【概要】

引越し等の際に排出される不要品(使わなくなったもの、着なくなった服)をご提供いただき、その査定換金額が酪農学園に寄付される仕組みです。本来捨てられるものが適正にリユース・リサイクルされることでSDGsへの取り組みの第一歩となります。なお、酪農学園リユース募金による寄付金は、生徒・学生支援に活用されます。品物集荷、査定、寄付金送金までは、株式会社オカモト リユース・マーケティング・カンパニーが行います。

【募集期間】

2022年3月1日～2022年3月31日

【買取品目】

本棚、洗濯機、冷蔵庫、ソファ、勉強机、チェア、衣類

【申込件数及び寄付額】

募集期間中4件の申込がありました。

買取点数 15点 寄付額 10,380円(※2022年度実績)



酪農学園リユース募金とは・・・
01 引越し等の際に排出される不要品(着なくなった服、使わなくなったもの)をご提供いただき、その査定換金額が酪農学園に寄付される仕組みです。
02 「酪農学園リユース募金」による寄付金は、酪農学園の生徒・学生支援に活用されます。
03 本来捨てられるものが適正にリユース・リサイクルされることでSDGsへの取り組みの第一歩となります。
※品物集荷・査定・寄付金送金までは、株式会社オカモト リユース・マーケティング・カンパニーが行います。
※品物の種類や状態により、買取不可となる場合があります。
※品物の種類や状態により、買取不可となる場合があります。

お申込み方法・寄付までの流れ

【宅配買取(推奨)】 WEBよりお申込み
お申込み → 査定・見積 → 査定 → 納品準備
【出張買取】 無料の査定
お申込み → 査定 → 納品準備

○買取できる品物 査定不可品物 ×買取できない品物

※お申込みはこちら
受付期間：2022年3月1日(火)～2022年3月31日(木)
<https://kikin.rakuno.ac.jp/donate/reuse.html>

お問合せ
酪農学園大学 株式会社オカモト リユース・マーケティング・カンパニー (RMC)
〒410-0192 静岡県浜松市東区旭ヶ谷5丁目1-1
TEL: 053-331-3106～89
企業：学校法人酪農学園大学 電話センター 電話連絡線 TEL: 0511338-4148

寄付者への謝意

今年度支援を受けた部局からの感謝のメッセージ

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 男子バレー部



男子バレーボール部への寄付ありがとうございます。

我々、とわの森三愛高校男子バレーボール部は日々、全国大会で活躍することを目指して練習に取り組んでいます。OBには2020東京オリンピック日本代表の山本智大さんをはじめ、数々のVリーガーがいます。

今回頂いた寄付は、選手たちがより充実した活動ができるように活用させていただきます。引き続き、応援よろしくお願い致します。

(男子バレー部 顧問 後藤 優介)

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 バドミントン部



この度はバドミントン部に寄付をしていただきありがとうございます。この貴重な寄付をより有効に活用するために、「セラバンド」を購入させていただきました。45mの物を購入し1.8mずつに分けて部員全員が一つずつ所有しています。置き場所や持ち運びに困らず、練習・遠征・自宅等、いつでもどこでも使用することが可能です。常に使用できる環境の中で、感謝の気持ちを忘れずにコツコツとインナーマッスル強化をし、パフォーマンス向上に繋がりたいと思います。

(バドミントン部 監督 妹尾 将義)

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 硬式野球部



平素より本校教育、クラブ活動に対しましてご理解・ご協力いただき厚く御礼申し上げます。この度は本校硬式野球部練習環境の整備に際して、多大なるご寄付を頂戴しましたこと、心より感謝申し上げます。

今年度は新たにビニールハウスを1棟設けました。お陰様で、野球部の活動内容もより幅広くなり、このあとの大会がとても楽しみです。精一杯練習し、良い報告ができるよう努力してまいります。

今後とも、本校硬式野球部をよろしくお願いいたします。

(硬式野球部 顧問 木村 浩輔)

酪農学園附属とわの森三愛高等学校 機農コース



この度は、機農コース酪農実習への寄付を賜り、感謝申し上げます。
 この2年間は、新型コロナの影響で酪農実習がほとんどできておりません。
 しかし、本校の酪農実習は生徒たちにとって貴重な経験であるため、賜りましたご厚志で購入した抗原検査キットなどを活用して、生徒と受入農家さんの安全を確保しながら実施を追求しようと考えています。
 酪農学園の建学の精神を守り、実学教育の充実と、時代に先駆ける教育を更に充実させて、酪農業界で活躍する人材を育てていきたいと思っております。
 引き続き、本校の発展にご理解とご賛同をいただき、これまで以上にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。(機農コース 担当教員 西川 謙)

酪農学園大学 馬術部



本年、皆様より寄付金を頂戴いたしまして、心より感謝申し上げます。頂いた寄付金は大会の移動費や馬の飼料・管理費など、有効に活用させていただきました。コロナ禍の厳しい状況の中、多くの方々からサポートいただき、本年も無事に大会に出場できたことを、部員一同改めて御礼申し上げます。(馬術部 顧問 樫下 早絵)

酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類 水質化学研究室



日頃は、水質化学研究室の教育研究にご理解とご厚情を賜りまして、厚くお礼を申し上げます。
 この度は、当研究室にご寄付を賜りまして誠にありがとうございます。このたびのご支援で顕微鏡カメラを購入し、卒業研究での植物プランクトンや底生生物の観察や計測に活用しております。また、今後研究室の新たな研究テーマとして取り上げる環境中マイクロプラスチックの観察や計測にも活用する予定であります。
 研究室一同、この度のご厚意、深く感謝しております。これからも研究室の研究教育活動に力を注いでいく所存でございます。今後もお力添えのほど、よろしくお願いいたします。(水質化学研究室 教授 中谷 暢丈)

寄付者への特典

金額を問わず、芳名録へ掲載させていただきます。
 (掲載を希望しない方は、掲載いたしません)

今年度5万円以上のご寄付を頂いた方を対象にオリジナルカレンダーを送付いたしました。

来年度以降につきましても、お礼品等を検討しております。



3. 国際交流課

(1) 学術交流協定

23カ国45機関(大学:36校(20カ国) 研究施設等:9機関(9カ国) (2022年 3月現在)

(締結年月日順)

締結年月日	機関名	国名	自動延長年数	次回更新
1985. 8. 1	アルバータ大学	カナダ	なし	無期限
1988. 8. 9 (2002.3.6再締結)	内蒙古農業大学	中国	3年	2023. 3
1988.11.17	オハイオ州立大学 獣医学部とは1988.11.17に締結 食品・農業・環境科学部とは1998.12.17に締結	アメリカ	なし	無期限
1991. 6. 3	コーネル大学 畜産学部	アメリカ	なし	無期限
1994. 5.19	ワルシャワ生命科学大学(旧ワルシャワ農業大学)	ポーランド	5年	2024. 5
1994.10.14 (2003.7.29再締結)	国立韓京大学校	韓国	5年	2023. 7
1995.2.15	国立畜産研究所	デンマーク	5年	2025. 2
1997. 7.31	新疆農業大学	中国	5年	2022. 7
1997.11.30 (2001.8.9再締結)	国立嘉義大学	台湾	5年	2026.8
1998. 5. 7 (2003.6.25再締結)	オールズカレッジ	カナダ	5年	2023. 6
1998.8.31	国立屏東科技大学	台湾	3年	2022. 8
2001.1.22 (2007.9.4再締結)	ハノーバー獣医科大学	ドイツ	なし	—
2001.10.31	韓国食品開発研究院	韓国	5年	2021.10.30解除
2002. 2. 4 (全学2015.3.2)	東フィリピン大学 (獣医学部とは2002.2.4に締結)	フィリピン	5年	2025.3(全学)
2002. 2.16	内蒙古民族大学	中国	3年	2023. 2
2005. 4.11	フィンドレー大学	アメリカ	5年	2025. 4
2006. 7.24 (2017.10.20再締結)	サスカチュワン大学	カナダ	5年	2022.10
2007. 8.15 (2017.10.31再締結)	国立中興大学	台湾	5年	2022.10
2007.10.25	サムヒギンボトム農業科学技術大学(旧アラハバール農業大学)	インド	5年	2022.10
2009. 3.23	モンゴル生命科学大学(旧モンゴル国立農業大学) (獣医学研究所とは2017.8.21に締結)	モンゴル	5年	2024.3(全学) 2022.8(獣研究)
2009.12.15	国立韓国農水産大学	韓国	5年	2021.3.31解除
2009.12.25	国立バイオテクノロジーセンター	カザフスタン	5年	2024.12
2009.12.26	アルファラビカザフ国立大学	カザフスタン	5年	2024.12
2011. 2.22	アスンシオンカトリック大学	パラグアイ	5年	2026. 2
2011. 8.24 (全学2016.4.13/2021.9.28再締結)	サバ大学 (熱帯生物保全研究所とは2011.8.24に締結)	マレーシア	5年	2026.9(全学)
2012.1.20	陝西省動物研究所	中国	5年	2022. 1
2012. 2.17	国際家畜研究所	ケニア	3年	2024. 2
2012.8.18 (2016.8.10再締結)	フスタイ国立公園	モンゴル	5年	2026.8
2013.4.18	スイス科学研究所	コートジボワール	5年	2023. 4

締結年月日	機関名	国名	自動延長年数	次回更新
2013. 9.23	マヒドン大学 熱帯医学部とは2013.9.23に締結 獣医学部とは2015.11.25に締結	タイ	5年	2023. 9(熱医) 2025.11(獣医)
2013. 9.27	ハノイ公衆衛生大学	ベトナム	5年	2023. 9
2013. 10.7	獣医科学大学	ミャンマー	5年	2023.10
2014. 2.28	チュラーロンコーン大学	タイ	5年	2024.2
2014. 3. 3	カセサート大学	タイ	5年	2024.3
2014. 6.16	極東農業大学	ロシア	5年	2024.6
2014. 7.29	ベトナム国立農業大学	ベトナム	5年	2024.7
2015. 2.24	グラスゴー大学生物多様性・家畜衛生・比較医学研究所	イギリス	5年	2025.2
2015. 3.25	保健省医科学局	タイ	なし	—
2015. 4.28	コンケン大学	タイ	5年	2025.4
2016. 3.22	タマサート大学	タイ	5年	2026.3
2019. 1.28	国立獣医学研究所	ベトナム	なし (5年ごと)	2024.1
2019. 1.29	パデュー大学	アメリカ	なし (5年ごと)	2024.1
2019. 3.29	マケレレ大学	ウガンダ	なし (5年ごと)	2024.3
2020. 7.23	パドヴァ大学	イタリア	なし (5年ごと)	2025.7
2021. 2.25	モンゴル国立大学	モンゴル	なし (5年ごと)	2026.2

【協定の変更・再締結について】

・マレーシアサバ大学と協定書名および協定内容を変更し、2021年9月28日再締結しました

【協定の解除について】

- ・2021年3月31日韓国農水産大学との協定を解除しました
- ・2021年10月30日韓国食品開発研究院との協定を解除しました

【協定機関との交流について】

- ・2021年6月2日と12月14日の2回に渡り、アメリカ・フィンドレー大学とオンラインミーティングを行いました。それぞれ両国の新型コロナウイルス感染状況などを確認し、その上で長期派遣プログラム、短期交流プログラムの実施方針について協議を行いました。
- ・2021年12月10日・11日の2日間、タイ・タマサート大学と合同オンラインセミナーを実施しました。2日間に渡り、ウイルス、細菌、寄生虫、環境衛生の4つのセクションとキーノートレクチャーがセットになった講義があり、本学から5名の教員が講義を担当しました。また大学院講義で9名の学生が出席しました。さらに広く学生への参加を募ったところ8名の学生申し込みがありました。



フィンドレー大学とのミーティングの様子



タマサート大学との合同セミナー

(2) 研究者・研修員・訪問者の受入れ

日本政府によるすべての国からの新規入国および査証発給の制限により、海外からの研究者・研修員・訪問者の受入れはすべて中止となりました。

① 海外招聘研究者

2020年度海外招聘研究者として受入が決定した2名の研究者について、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響により受入を2021年度に延期としていましたが、日本政府の入国制限により入国が叶わず、受入は中止となりました。

② 研究生

外部機関を通じて1名の研究生受入を調整しました。しかし日本政府による査証発給の制限等により年度内入国が見込めず事業実施中止となったため、研究生受入も中止となりました。

③ JICA研修員

2021年度JICA研修員受入事業は、実際の研修員受入は実施せずすべてオンラインでの遠隔研修を行いました。日系社会研修（4コース）で合計10名、課題別研修（2コース）で17名の研修員をオンラインで受け入れました。

④ 在日ニュージーランド大使館

10月28日、在東京ニュージーランド大使館より2名の来訪者を受け入れました。デイビッド・アレン(Mr. David Allen)第一次産業参事官とケル理子(Ms. Riko Kell)ポリシーアドバイザーが、ファームエイジ株式会社の高田健次専務取締役（商品開発部マネージャー）とともに本学を訪問されました。

当日はまず吉中社会連携センター長より本学の概要を紹介し、アレン参事官よりニュージーランドの酪農の概要やニュージーランドの農業大学について、今後の本学との連携の可能性などについてお話いただきました。

その後本学循環農学類の土井和也助教の案内で、酪農生産ステーション繋ぎ飼い牛舎を中心に視察されました。牛舎では土井助教や荒木名誉教授の説明を熱心に聞かれ、アレン参事官からは「どのようなエサを与えているか」「高校のカリキュラム作成に企業が参入することはあるか（ニュージーランドではあるとのこと）」「この牛舎は教育と研究、どちらで使われているのか」「搾乳した牛乳はその後どうするのか」など多くの質問がされました。

短い時間での訪問となりましたが、高校生が牛舎で実習をしている様子もご覧になり、今後の交流の契機となることが期待されます。



在京ニュージーランド大使館員来訪



牛舎見学

⑤ 在日スウェーデン大使

12月7日、ペールエリック・ヘーグベリ駐日スウェーデン大使が本学を訪問され、本学学生有志と意見交換・交流会を行いました。ヘーグベリ大使は2年前に来日し、今回が初めての札幌公式訪問とのことで、近郊の牧場視察の後本学を訪問されました。

当日は在日スウェーデン大使館員やビジネススウェーデン（商務部）、スウェーデン企業であるデラバルグループのヨハン・リーデル上席副社長、中野省吾デラバル株式会社代表取締役社長ら9名が大使に同行され、酪農後継者だけでなく非農家出身の女子学生などを含む、普段から研究やサークル活動で牛の世話に携わる学生有志6名と意見を交換しました。

大使からは、なぜ酪農を勉強しようと思ったのか、日本でのアニマルウェルフェアの普及についてなど質問があり、学生たちは実家の酪農経営を見てきた中での自分たちの考えや、これから自分たちが目指す酪農の将来像について堂々と考えを述べていました。

続いてデラバルグループのリーデル上席副社長からは、日本の酪農家が抱える高齢化の問題とそれに付随した搾乳ロボット導入に対するハードルについて、同じ高齢化の問題を抱えつつロボット搾乳が普及しているヨーロッパと比較しながら学生に質問がされ、学生からは新しいものを取り入れることに積極的ではない日本人の性格が関係しているのではないかという答えがありました。また親や兄弟も海外で実習しとても楽しかったと聞いてきたが自分にはその勇気がなかった、もし機会があれば在学中や卒業後でも海外に行ってみたいと述べる学生もいました。

学生との意見交換後には堂地修学長との懇談がもたれ、学生たちとの議論を踏まえて日本の農業でロボット化が進まない要因について、コロナ禍での牛乳消費低下の問題など、また若い世代の酪農業に対する展望など意見を交換しました。

学生たちからはとても良い経験になったとの感想があり、大使館の方々も日本の学生たちにとても力をもらったと有意義な交流の場となりました。

この訪問がきっかけとなり、2022年3月25日にデラバル株式会社との協議を行い、今後スウェーデンの自社牧場での海外研修の可能性を検討するなど、国際交流の面でも新たに協力していくことを確認しました。



駐日スウェーデン大使と学生の意見交換会



集合写真

(3) 学生の受入れ

2021年度は、新型コロナウイルスの世界的感染拡大により、以下の協定機関からの学生受入を中止しました。

所属機関	人数	受入期間(予定)	代替プログラム
アメリカ・フィンドレー大学	5名程度	5月～6月	なし
アメリカ・パデュー大学	5名程度	6月	なし
マレーシア・サバ大学	6名程度	2月～5月	なし
タイ・カセサート大学	5名	9月～12月	オンライン学術交流プログラム実施(12月～3月)
台湾・中興大学	1～2名	1月～2月	なし

(4) 学生の派遣

2021年度は、新型コロナウイルスの世界的感染拡大、外務省感染症危険レベルの発出により、すべての学生派遣プログラムを中止しました。

国際交流課プログラム

派遣先	プログラム種別	人数	派遣期間(予定)	代替プログラム
アメリカ・フィンドレー大学	2021年度 ベケット奨学金派遣留学プログラム	1名	2021年8月～2022年5月	なし
カナダ・アルバータ大学	夏季研修プログラム	5名程度	2021年8月～9月	オンライン留学プログラム実施(8月・3月)
カナダ・アルバータ大学	英語研修	1名	2021年5月～2022年2月	なし
カナダ	海外農業研修サポートプログラム	1名	夏季もしくは春季	なし
北米地域	大学院生留学サポートプログラム	1名	随時	なし
タイ・カセサート大学	獣医単位互換プログラム	5名	2021年9月～12月	オンライン学術交流プログラム実施(12月～3月)
アメリカ・フィンドレー大学	ベーシック・アニマルハンドリングプログラム	5名程度	2022年3月	なし

トビタテ!留学JAPAN

採用期	派遣先(予定)	人数	派遣期間(予定)
第12期	フィジー	1名	2020年8月～9月→2022年度に延期予定

(5) 学生の留学についての意識アンケート

キャリアベーシック授業内アンケート実施

2021年4月、農食環境学群2年次(管理栄養士コース除く)対象の必修授業、キャリアベーシックで「留学×キャリア～大学生生活を考える」というオンライン授業を担当しました。授業受講者にアンケートを実施し、本学学生の留学についての意識を調べました。

昨年度のアンケートでは、希望する留学に対する質問への回答を記述式にしたことにより、様々な国や地域、内容の回答となりました。また、留学には興味があるものの、具体的に内容を考えている学生は少なかったため、今年度は選択式の質問を増やしてアンケートを実施しました。

留学に興味がある学生は依然半数以上いますが、実際に留学する学生はごくわずかとなっています。現在は渡航できる状況にはありませんが、「留学に興味がある」で終わらず、「留学するために情報を集め考える」「留学する」と行動に移すためにはどうしたらよいかを今後検討していきます。

留学をするためにハードルとなっているのは、費用と語学力が圧倒的に多くなっています。費用面については、奨学金が支給されるプログラムがありますが、残りの費用を負担しても参加したいと思わせるアピールが必要となります。また、留学に興味はあるけれど語学力に不安があり、自分には留学は無理だと諦めている学生もいます。そうした学生には、留学するために勉強を少し頑張ろうと思わせたり、このくらいの語学力でも留学して色々経験することができると知ってもらったりすることが、留学者を増やすことにつながると考えます。そのためには低学年の内から、今回の様に必修の授業で留学に興味がない学生にも話を聞いてもらえる機会が重要であると考えます。語学力を選んだ学生のほとんどが費用も選択しているのので、語学面の不安を解消することにより、費用面では奨学金を活用したり計画的にアルバイトをしたりするなど、留学するために工夫をするよう促していきます。

キャリアベーシック受講者と授業実施日

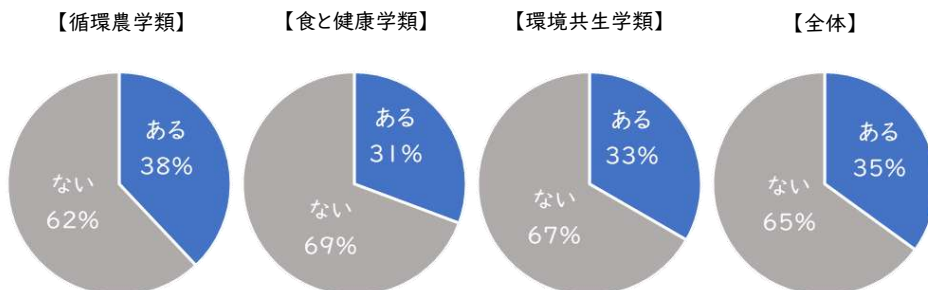
循環農学類 216名、食と健康学類 101名、環境共生学類 123名

2021年4月21日(水)9:00~10:30

アンケート集計結果

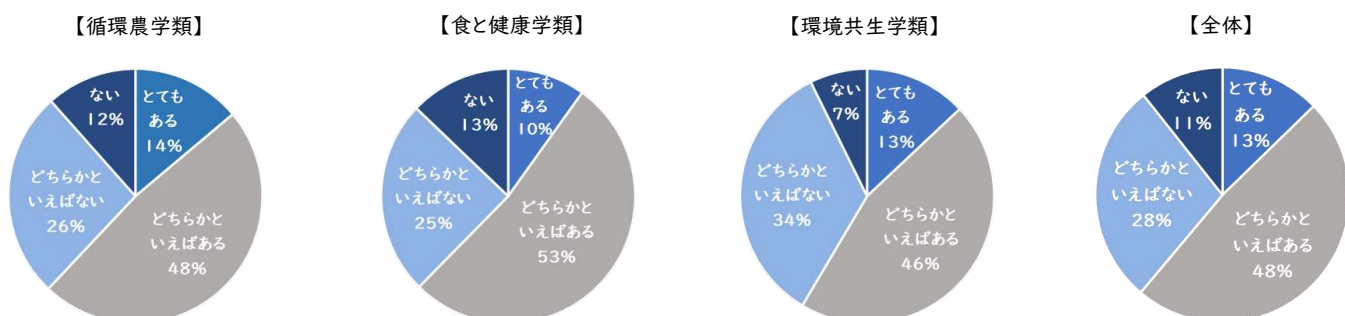
【質問1】海外へ行ったことがありますか？

	(人)	
	ある	ない
循環農学類	82	134
食と健康学類	31	70
環境共生学類	41	82
全体	154	286



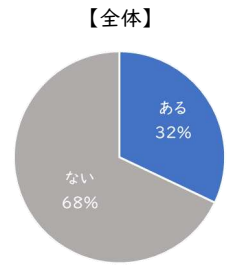
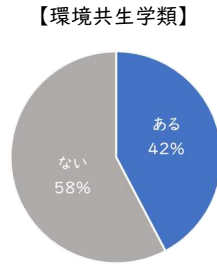
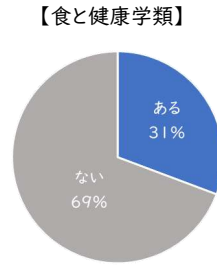
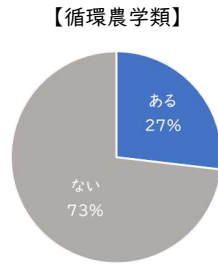
【質問2】留学に興味がありますか？

	(人)			
	とてもある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない
循環農学類	30	104	57	25
食と健康学類	10	53	25	13
環境共生学類	16	56	42	9
全体	56	213	124	47

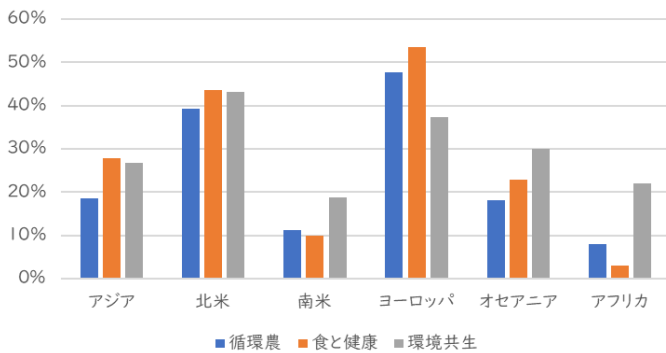


【質問3】オンライン留学に興味がありますか？

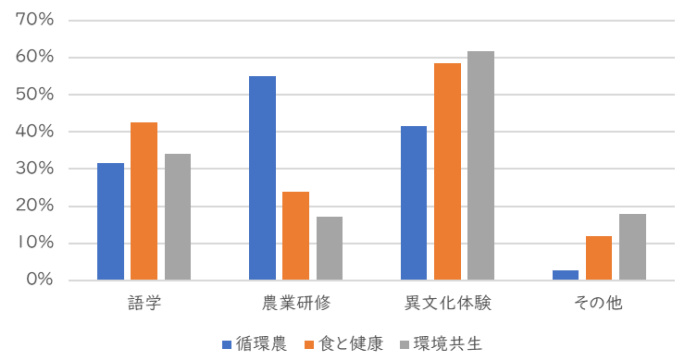
	(人)	
	ある	ない
循環農学類	58	158
食と健康学類	31	70
環境共生学類	52	71
全体	141	299



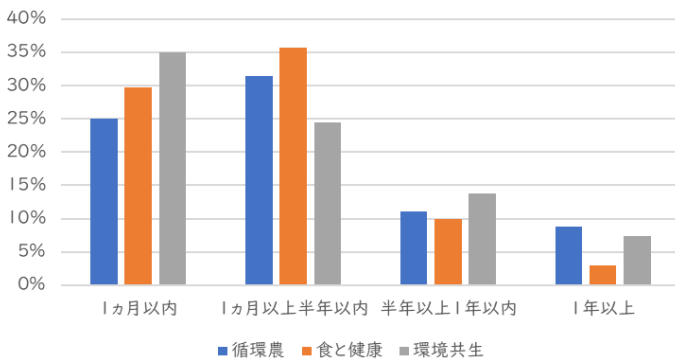
【質問4】どこの国に留学したいと思いますか？(複数可)



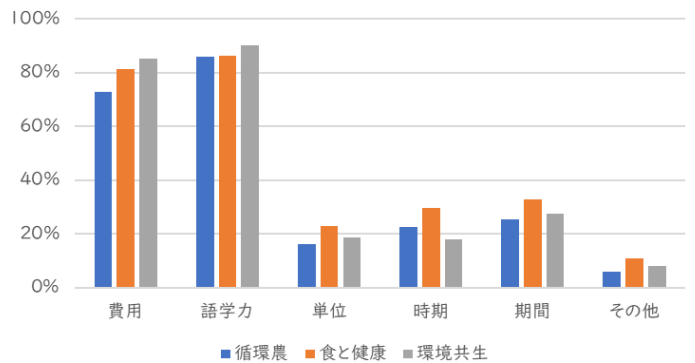
【質問5】どのような内容の留学に興味ありますか？(複数可)



【質問6】どのくらいの期間留学したいですか？



【質問7】留学するためにハードになっていることを選択してください(複数可)



(6) アルバータ大学オンライン留学プログラム

本学では毎年夏休みに、カナダのアルバータ大学で約4週間の研修プログラムを実施しています。しかし新型コロナウイルス感染拡大の影響により2020年度に引き続き2021年度もカナダへの渡航ができなかったため、アルバータ大学オンライン留学プログラムを実施しました。プログラムは夏と春に行われ、夏季には学生5名（前年比+1名）、春季には学生7名（前年比+3名）、合計12名が参加しました。

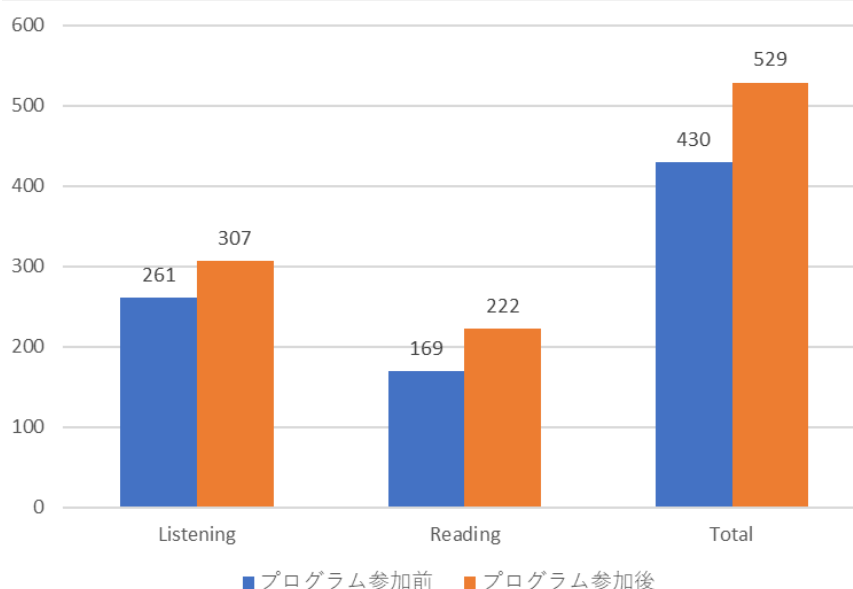
参加者学類・学年の内訳

年度	所属	1年	2年	3年	4年	5年/修士1年	所属合計
2021	循環農学類	1	1				2
	食と健康学類		1		1		2
	環境共生学類		3	1			4
	獣医学類	2				1	3
	獣医保健看護学類	1					1
	学年合計	4	5	1	1	1	12
2020	循環農学類		1	1			2
	食と健康学類		1		1		2
	環境共生学類	1		1			2
	獣医学類					1	1
	獣医保健看護学類						0
	酪農学研究科					1	1
	学年合計	1	2	2	1	2	8

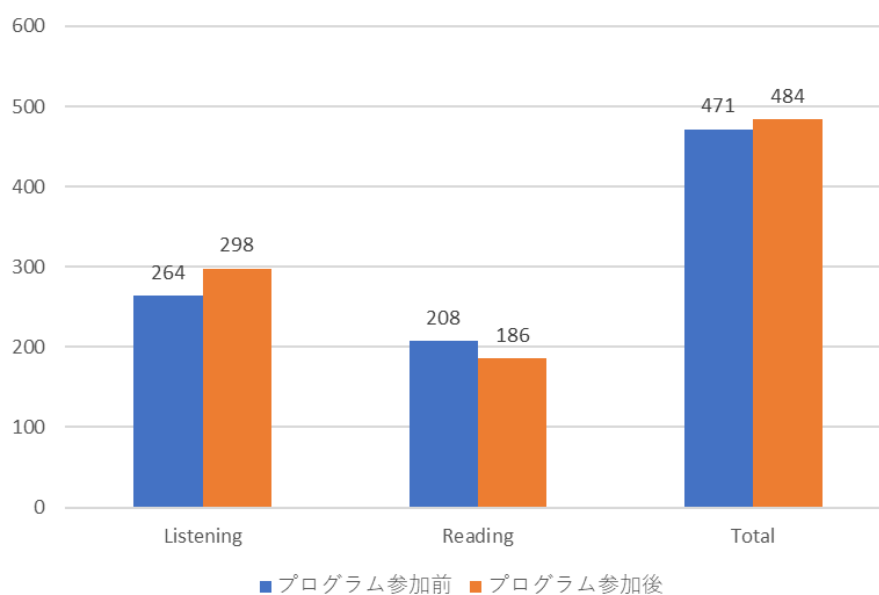
事前ガイダンスでもオンラインで英語でディスカッションを行うなど、英語のコミュニケーションへの抵抗感や間違えることへの恐れを軽減させ、学生たちはより積極的にプログラムに参加することができました。また多くの学生がアルバータ大学のStudent Engagement Centreが企画する任意プログラムにも参加するなど、意欲的に取り組んでいました。プログラムでは約2週間、アルバータ大学のELSの先生によるリアルタイムの授業を受講し、他大学の学生ともオンラインでつながり、カナダの文化や環境、食について英語で話し合い、語学だけでなく多様な文化について学ぶ内容となっています。

また、プログラム前後にTOEIC-IP試験を受験させたところ、個人差はあるものの、全体として平均点の向上が見られました。

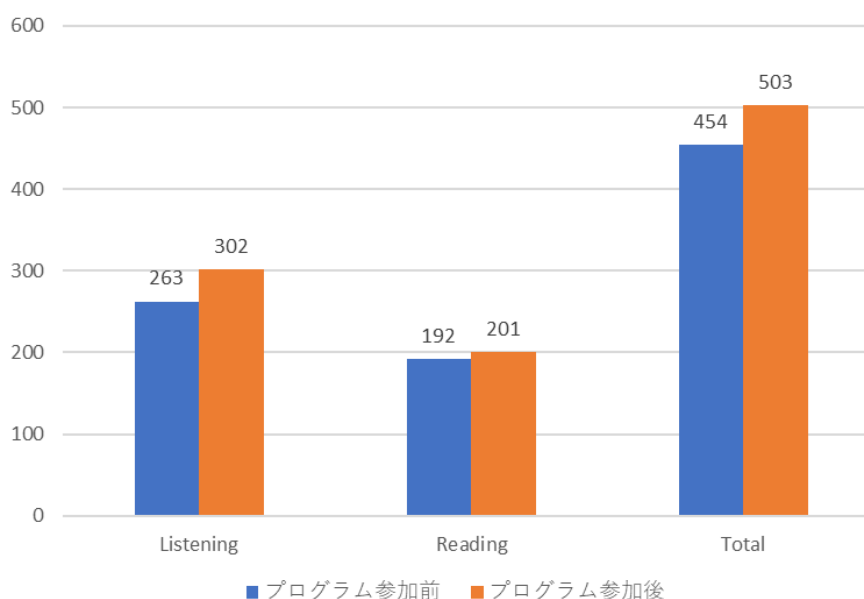
プログラム参加前後のTOEICスコア推移(2021年度夏季平均)



プログラム参加前後のTOEICスコア推移(2021年度春季平均)



プログラム参加前後のTOEICスコア推移(2021年度全体平均)



留学終了後には、夏季は対面、春季は対面とオンラインとのハイブリッド形式報告会を実施し、学生からの留学の報告、修了証と奨学金の授与が行われました。

夏季プログラム：2021年8月11日～8月22日（報告会2021年10月5日）

春季プログラム：2022年3月1日～3月12日（報告会2022年3月30日）

(7) カセサート大学オンライン学術交流プログラム

本学の協定校であるタイ・カセサート大学(以下KU)の獣医学部と本学獣医学類とで例年実施されている単位互換プログラムは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度に引き続き派遣・受入とも中止となりました。このプログラムの代替として、今年度もオンライン学術交流プログラムを実施しました。今年度は本学学生15名とKU学生5名が参加しました。両大学の講師による特別セミナーを計2回行い、それぞれのセミナーについて学生によるSNSを活用したグループ活動とプレゼンテーションが行われました。

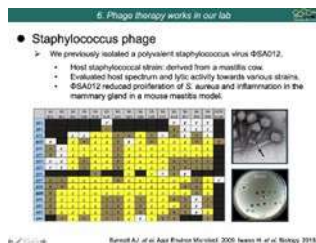
第1回目は12月4日に開催され、アイスブレイクと本学獣医学類藤木純平講師によるセミナーを行いました。アイスブレイクでは、両大学の学生がスライドや動画を使って自己紹介やそれぞれの大学の紹介をし、KUの学生は屋台の夜食などタイの大学生活も紹介してくれました。続いて藤木講師から“Phage therapy-To control antimicrobial resistance bacteria by prokaryotic viruses (ファージセラピー -細菌だけに感染するウイルスで薬剤耐性菌を制御する-)”という演題でセミナーがありました。セミナーの最後に課題が出され、学生たちは両大学混合で構成される3グループに分かれてLINEやZoomなどを活用して課題についてディスカッションをし、1月21日、各グループによるプレゼンテーションが行われました。プレゼンテーションでは、タイでは年間数万人が薬剤耐性によって命を落していることに言及していたグループもあり、両国間の違いが浮き彫りになりました。

第2回セミナーは2月5日にKUのSupaphen Sripiboon先生より“Important Infectious Diseases in Asian Elephants(アジアゾウにおける感染症学)”と題してご講義いただきました。第1回と同様に、Supaphen Sripiboon先生から課題が出され、学生は再構成された3グループでオンラインディスカッションをし、3月3日にプレゼンテーションが行われました。結核の診断をする際の方法とそれぞれの方法の利点や原理と今後の展望についてなどまとめているグループや、円山動物園における、訓練により人とゾウの直接接触を防ぐことで、事故や動物のストレスを軽減するProtected Contact (準間接飼育法)というユニークな取組を紹介しているグループもありました。プレゼンテーション後にはオンライン上で両大学による修了式が行われ、KUのKhongsak Thiangtum 獣医学部長と本学の萩原克郎 学術交流国際化推進委員会委員長よりご挨拶をいただきました。(獣医学群)

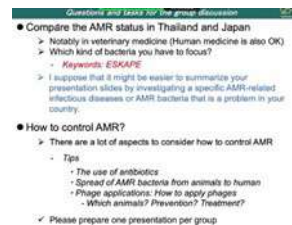
参加学生には両大学から修了証が発行され、3月29日の修了証授与式をもってプログラムは終了しました。コロナ禍のためオンラインに限定されたセミナーにおいても、グループの中で各自が興味を持ったものを英語で意見交換し、それぞれの視点で議論し合いそれをまとめて最終的にプレゼンテーションという形にできたことは、学生にとって今後の歩みの中での大きな一歩になったようです。



アイスブレイク・セミナー①の様子



セミナー①藤木講師スライド



セミナー①藤木講師課題



セミナー②プレゼンテーション各グループのスライド



集合写真(スクリーンショット)

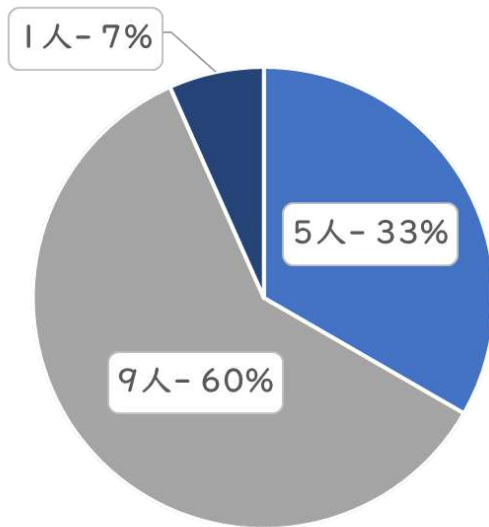


修了証授与式

参加学生の感想

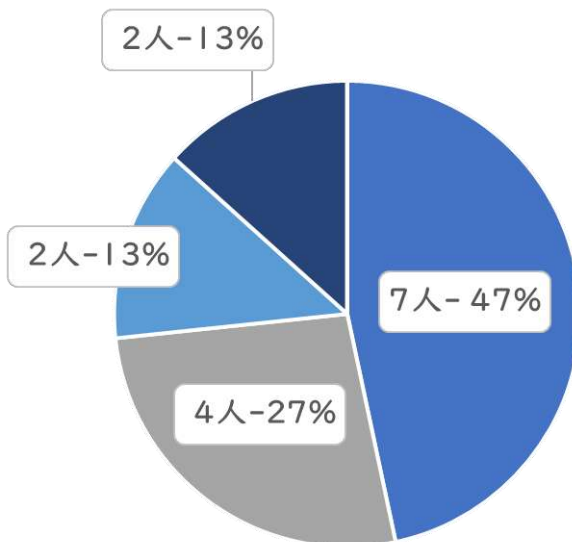
【セミナー①】

1. 全体を通して積極的に英語で話すことができた



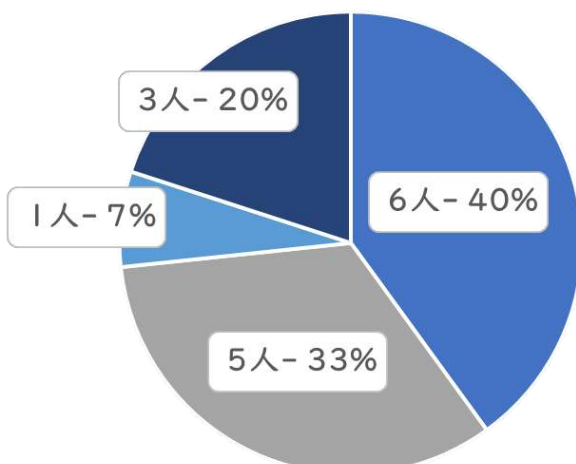
- よくできた・よくあてはまる
- ややできた・ややあてはまる
- どちらともいえない
- あまりできなかった・あまりあてはまらない
- 全くできなかった・全くあてはまらない

2. グループワークで日本人学生と積極的にコミュニケーションがとれた



- よくできた・よくあてはまる
- ややできた・ややあてはまる
- どちらともいえない
- あまりできなかった・あまりあてはまらない
- 全くできなかった・全くあてはまらない

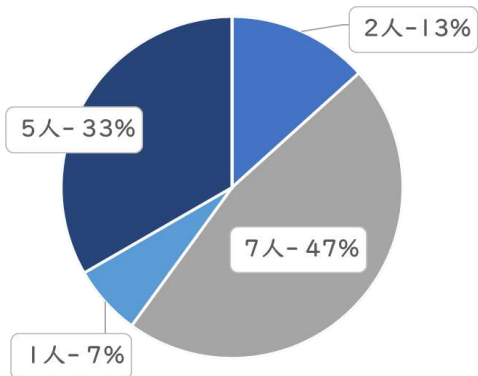
3. グループワークでタイ人学生と積極的にコミュニケーションがとれた



- よくできた・よくあてはまる
- ややできた・ややあてはまる
- どちらともいえない
- あまりできなかった・あまりあてはまらない
- 全くできなかった・全くあてはまらない

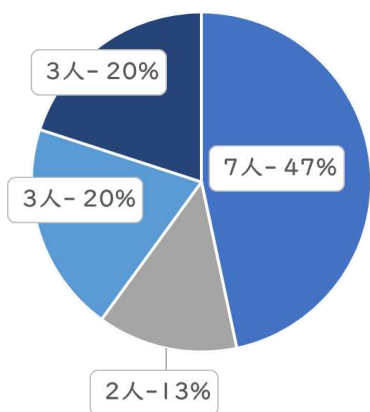
【セミナー②】

1. ①よりも②の方がより英語で話すことができた



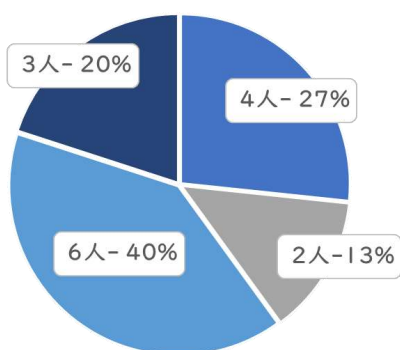
- よくできた・よくあてはまる
- ややできた・ややあてはまる
- どちらともいえない
- あまりできなかった・あまりあてはまらない
- 全くできなかった・全くあてはまらない

2. グループワークで日本人学生と積極的にコミュニケーションがとれた



- よくできた・よくあてはまる
- ややできた・ややあてはまる
- どちらともいえない
- あまりできなかった・あまりあてはまらない
- 全くできなかった・全くあてはまらない

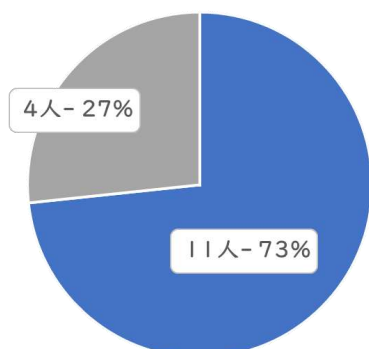
3. グループワークでタイ人学生と積極的にコミュニケーションがとれた



- よくできた・よくあてはまる
- ややできた・ややあてはまる
- どちらともいえない
- あまりできなかった・あまりあてはまらない
- 全くできなかった・全くあてはまらない

【全体】

セミナー①およびセミナー②の機会を通し、今後の国際交流等に役立つ機会となった



- よくできた・よくあてはまる
- ややできた・ややあてはまる
- どちらともいえない
- あまりできなかった・あまりあてはまらない
- 全くできなかった・全くあてはまらない

(8) トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム

「トビタテ！留学JAPAN」とは2013年10月から文部科学省主導で開始した留学促進キャンペーンで、中でも2014年からスタートした「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」は、官民協働で取り組む海外留学支援制度です。派遣留学生は支援企業と共にグローバル人材コミュニティを形成し、“産業界を中心に社会で求められる人材”、“世界で、又は世界を視野に入れて活躍できる人材”へと育成され、帰国後はその経験をより広く伝えることで日本全体の留学機運を高めることに貢献することが期待されています。

本学は第3期生（2015年度）申請から毎年、学内の応募を受け付け、これまでに19件の申請、6名の採用実績があります。

新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年度まで延長していた事業が更に2022年度まで延長（ただし、派遣留学生の2021年度募集は停止）され、本学で採用された学生（12期生）も2022年度中の派遣を計画中です。事業自体の今後の在り方については現在文部科学省で検討されているところです。

派遣期	申請コース	全国		本学		
		応募	採用	申請	書面合格	採用
第14期 2021年度	①理系、複合・融合系人材コース	298	159	2	2	0
	②未来テクノロジー人材枠	32	23	0	0	0
	③新興国コース	104	54	0	0	0
	④世界トップレベル大学等コース	122	43	0	0	0
	⑤多様性人材コース	417	132	0	0	0
	合計	973	411	2	2	0
第13期 2020年度	①理系、複合・融合系人材コース	521	採用中止	5	採用中止	
	②未来テクノロジー人材枠			0		
	③新興国コース			0		
	④世界トップレベル大学等コース			0		
	⑤多様性人材コース			0		
	合計	1,568	0	5	0	
第12期 2020年度	①理系、複合・融合系人材コース	471	234	2	2	1
	②未来テクノロジー人材枠	49	31	0	0	0
	③新興国コース	109	49	0	0	0
	④世界トップレベル大学等コース	72	26	0	0	0
	⑤多様性人材コース	399	167	0	0	0
	合計	1,100	507	2	2	1
第10期 2019年度	①理系、複合・融合系人材コース	535	185	3	2	2
	②未来テクノロジー人材枠	51	36	0	0	0
	③新興国コース	155	59	0	0	0
	④世界トップレベル大学等コース	108	30	0	0	0
	⑤多様性人材コース	556	106	0	0	0
	合計	1,405	416	3	2	2
第9期 2018年度	①理系、複合・融合系人材コース	479	202	1	1	1
	②未来テクノロジー人材枠	37	27	0	0	0
	③新興国コース	202	63	0	0	0
	④世界トップレベル大学等コース	292	91	0	0	0
	⑤多様性人材コース	783	119	0	0	0
	合計	1,793	502	1	1	1

派遣期	申請コース	全国		本学		
	申請コース	応募	採用	申請	書面合格	採用
第8期 2018年度	①理系、複合・融合系人材コース	508	206	0	0	0
	②未来テクノロジー人材枠	44	32	0	0	0
	③新興国コース	182	56	0	0	0
	④世界トップレベル大学等コース	185	43	0	0	0
	⑤多様性人材コース	577	114	0	0	0
	合計	1,496	451	0	0	0
第7期 2017年度	①理系、複合・融合系人材コース	537	228	0	0	0
	②未来テクノロジー人材枠	138	45	0	0	0
	③新興国コース	282	96	0	0	0
	④世界トップレベル大学等コース	795	121	0	0	0
	⑤地域人材コース(北海道)	12	5	1	1	1
	合計	1,764	495	1	1	1
第6期 2017年度	①理系、複合・融合系人材コース	491	241	2	1	1
	②新興国コース	136	64	0	0	0
	③世界トップレベル大学等コース	127	58	0	0	0
	④多様性人材コース	545	119	0	0	0
	合計	1,299	482	2	1	1
第5期 2016年度	①理系、複合・融合系人材コース	483	187	1	0	0
	②新興国コース	171	55	0	0	0
	③世界トップレベル大学等コース	287	69	0	0	0
	④多様性人材コース	714	111	1	0	0
	合計	1,655	422	2	0	0
第4期 2016年度	①理系、複合・融合系人材コース	459	206	0	0	0
	②新興国コース	174	47	0	0	0
	③世界トップレベル大学等コース	157	52	0	0	0
	④多様性人材コース	576	102	0	0	0
	合計	1,366	407	0	0	0
第3期 2015年度	①理系、複合・融合系人材コース	367	163	0	0	0
	②新興国コース	87	26	0	0	0
	③世界トップレベル大学等コース	209	77	0	0	0
	④多様性人材コース	524	96	1	1	0
	合計	1,187	362	1	1	0

(9) 日本学生支援機構海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)

海外留学支援制度は、諸外国の高等教育機関との学生交流に関する協定等に基づき行われるプログラムに参加する学生に対して、留学に係る費用の一部を日本学生支援機構が奨学金として支援する制度です。

2021年度は派遣5件（うち継続1件）、受入1件（継続）のプログラム（採択額計7,390,000円）が採択されましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により派遣受入ともにプログラムを実施することができませんでした。

	派遣			受入		
	プログラム名	採択額	採択人数	プログラム名	採択額	採択人数
2021 新規	SDGsを自分ごととする生物多様性保全のための情報解析技術研修	630,000	3	SDGsの達成に向けた生物多様性保全のためのマレーシア・サバ大学と酪農学園大学との相互協力研修	0	0
	SDGsの達成を目指したリモートセンシング・GIS技術による生態系サービス評価手法開発研修(派遣)	540,000	3			
	遊牧文化とSDGs－伝統を守り気候変動に負けない遊牧文化を守ろう	1,560,000	13			
	沙漠化防止のための内モンゴル民族大学における自然環境保全研修	1,320,000	11			
	沙漠化防止のための内モンゴル民族大学技術研修(派遣)	0	0			
	合計	4,050,000	30		0	0
2021 継続	地球上で最も生物多様性の高い地域において野生生物保全手法を学ぶマレーシア・サバ大学との相互協力研修	2,380,000	17	タイ・カセサート大学獣医学部の単位認定研修プログラム	960,000	4
	合計	2,380,000	17		960,000	4
2021年度計		6,430,000	47		960,000	4
2020 新規	リモートセンシング・GIS技術による生態系サービス評価手法開発研修(派遣)	申請できず				
	人間とオオカミが本当に共存できるのか(協定派遣)	申請できず				
	沙漠化防止のための内モンゴル民族大学技術研修(派遣)	申請できず				
	合計	0				
2020 継続	地球上で最も生物多様性の高い地域において野生生物保全手法を学ぶマレーシア・サバ大学との相互協力研修	2,800,000	20	生物多様性保全のためのマレーシア・サバ大学と酪農学園大学との相互協力研修	1,680,000	6
	マレーシアサバ大学における生物多様性保全のためのGIS解析技術研修	210,000	1	タイ・カセサート大学獣医学部の単位認定研修プログラム	960,000	4
	沙漠化防止のための内モンゴル民族大学における自然環境保全研修	770,000	11			
	合計	3,780,000	32		2,640,000	10
2020年度計		3,780,000	32		2,640,000	10

	派遣			受入		
	プログラム名	採択額	採択人数	プログラム名	採択額	採択人数
2019 新規	リモートセンシング・GIS技術による生態系サービス評価手法開発研修(派遣) ※追加	360,000	3	アジアの環境保全のための内モンゴル民族大学と酪農学園大学との相互協力研修(受入)	0	0
	沙漠化防止のための内モンゴル民族大学技術研修(派遣)	0	0	タイ・コンケン大学獣医学部の単位認定研修プログラム	0	0
	合計	360,000	3		0	0
2019 継続	地球上で最も生物多様性の高い地域において野生生物保全手法を学ぶマレーシア・サバ大学との相互協力研修	2,940,000	21	生物多様性保全のためのマレーシア・サバ大学と酪農学園大学との相互協力研修	1,440,000	6
	沙漠化防止のための内モンゴル民族大学における自然環境保全研修	660,000	11	タイ・カセサート大学獣医学部の単位認定研修プログラム	960,000	4
	マレーシアサバ大学における生物多様性保全のためのGIS解析技術研修	210,000	1			
	合計	3,810,000	33		2,400,000	10
2019年度計		4,170,000	36		2,400,000	10
2018 新規	地球上で最も生物多様性の高い地域において野生生物保全手法を学ぶマレーシア・サバ大学との相互協力研修	3,570,000	30	タイ・カセサート大学獣医学部の単位認定研修プログラム	1,200,000	5
	リモートセンシング・GIS技術による生態系サービス評価手法開発研修(派遣) ※追加	360,000	3			
	沙漠化防止のための内モンゴル民族大学技術研修(派遣)	0	0			
	遊牧民とハイイロオオカミの共存のあり方に関する現地研修(派遣)	0	0			
	合計	3,930,000	33		1,200,000	5
2018 継続	マレーシアサバ大学における生物多様性保全のためのGIS解析技術研修	210,000	1	生物多様性保全のためのマレーシア・サバ大学と酪農学園大学との相互協力研修	1,440,000	6
	沙漠化防止のための内モンゴル民族大学における自然環境保全研修	660,000	11			
	合計	870,000	12		1,440,000	6
2018年度計		4,800,000	45		2,640,000	11
2017	砂漠化防止のための内モンゴル民族大学における自然環境保全研修	900,000	15	生物多様性保全のためのマレーシア・サバ大学と酪農学園大学との相互協力研修	1,440,000	6
	マレーシアサバ大学における生物多様性保全のためのGIS解析技術研修	630,000	3			
	沙漠化防止のための内モンゴル民族大学技術研修(派遣) ※追加	120,000	1			
	地球上で最も生物多様性の高い地域において野生生物保全手法を学ぶマレーシア・サバ大学との相互協力研修	0	0			
	リモートセンシング・GIS技術による生態系サービス評価手法開発研修(派遣)	0	0			
	遊牧民と野生動物の共存のあり方に関する現地研修(派遣)	0	0			
	合計	1,650,000	19		1,440,000	6

(10) TOEIC-IP(e-learning)

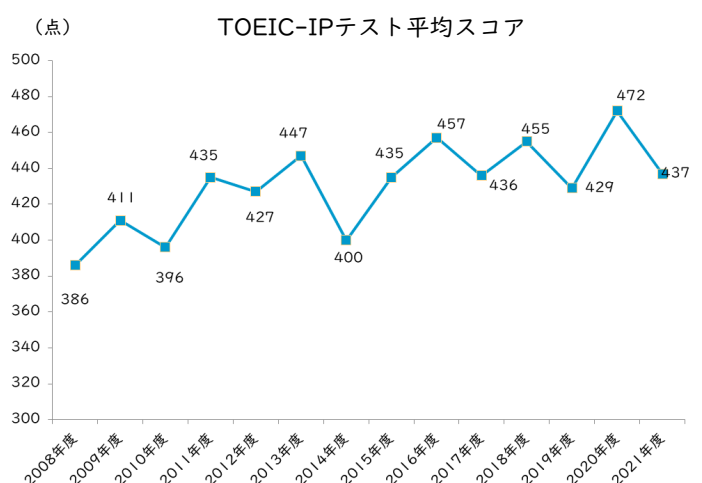
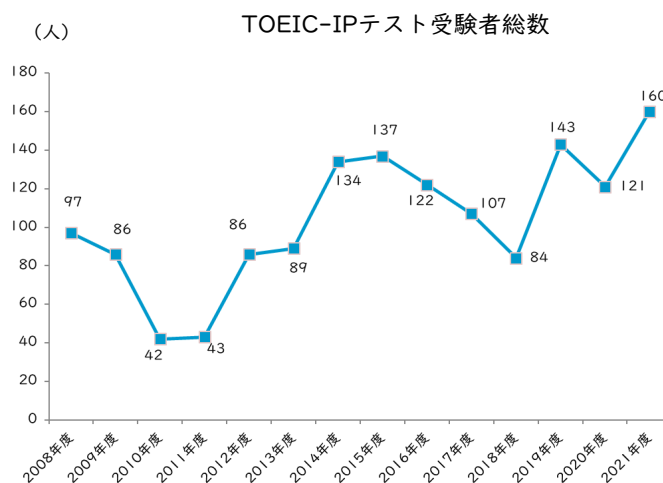
2021年度スコア／過去のTOEIC-IPスコアの推移

昨年度より実施されているTOEIC-IPオンライン試験を8月と2月に実施しました。受験者数は会場試験よりもオンライン試験の方が多い傾向がありました。留学プログラム用の試験を含めた全9回の実施で、全ての受験学生(教職員1名を除く159名)に2,000円の受験料を補助しました。

受験料について、会場試験は郵送でスコアを返却していたため4,314円(郵送料84円込)でしたが、第68回よりスコア返却方法を窓口での引取りに変更したため、両試験とも4,230円に統一されました。

また、実施回表記について、2020年度実施分も含め、会場・オンライン試験の通算表記に変更しました。

2021年度	受験者数	最低	最高	平均	~299	300~399	400~499	500~599	600~699	700~799	800~
第67回 5月	18	235	765	433.6	5	2	6	3	1	1	0
第68回 6月	19	220	785	410.3	3	9	3	2	0	2	0
留学プログラム用(オンライン) 7月	2	415	510	462.5	0	0	1	1	0	0	0
第69回(オンライン) 8月	37	175	725	415.8	5	12	14	4	1	1	0
第70回 10月	20	235	935	494.3	2	3	7	3	3	0	2
第71回 12月	20	210	730	440.8	4	5	3	6	1	1	0
第72回 1月	6	265	565	382.5	2	2	1	1	0	0	0
第73回(オンライン) 2月	27	185	850	431.7	5	4	9	7	1	0	1
留学プログラム用(オンライン) 3月	11	140	810	480.5	2	1	2	4	1	0	1
	受験者数	最低	最高	平均	~299	300~399	400~499	500~599	600~699	700~799	800~
2021年度全9回	160	140	935	437	28	38	46	31	8	5	4
2020年度全7回	121	185	980	472	20	30	23	19	12	9	8
2019年度全5回	143	195	890	429	36	31	32	24	11	5	4
2018年度全5回	84	75	935	455	11	24	17	19	8	1	4
2017年度全5回	107	175	850	436	24	21	24	23	12	1	2



TOEIC対策e-learning

TOEICのスコア向上対策として、2021年度はニューブレイン・アライアンス社とアルクエデュケーション社のe-learningを5,500円にて82名に提供しました。中には、ゼミ教育の一環として実施した研究室もありました。また、酪農学研究科では英語講座として本e-learningを実施しました。

今年度も12月1日までに進捗率が80%を超えた場合は、TOEIC-IPテストの受験料1回分を補助したところ、80%を超えた学生は23名となり、うちTOEIC-IPテストを無料で受験した学生は14名（対象試験は12月、1月、2月）でした。

TOEIC-IPテストは公開テストと比べ受験料も安く、気軽に受けることができます。しかし本学の平均点はまだ高くありません。

2022年度はe-learning受講希望者には受講前にTOEICを受験させ、自分のレベルにあったコース選択のための指標にするとともに、受講後にも受験を指示し、e-learning受講前後の推移を各自分析できるよう工夫しながら、語学力向上のためのサポートを継続して行っていきます。

e-learning進捗(教職員含む) ※各年度末時点

実施年度	コース	人数	80%以上達成		50~79%達成		0~49%達成		備考
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	
2021年度	Brains Aコース (初級)	23	8	34.8%	1	4.3%	14	60.9%	2021/12/1時点80%達成 A:8名 B:9名 C:6名 合計23名
	Brains Bコース (初中級)	37	10	27.0%	1	2.7%	26	70.3%	
	アルク Cコース 500 (中級)	22	4	18.2%	1	4.5%	17	77.3%	
	アルク Cコース 600 (中級)		0	0.0%	0	0.0%	22	100.0%	
	アルク Cコース 730 (中級)		2	9.1%	0	0.0%	20	90.9%	
2020年度	Brains Aコース (初級)	14	9	64.3%	0	0.0%	5	35.7%	※A、Bコース受講の学生1名 ※2021/12/1時点80%達成 A:8名 B:8名 C:4名 合計20名
	Brains Bコース (中級)	38	8	21.1%	0	0.0%	30	78.9%	
	Brains Cコース (上級)	34	4	11.8%	1	2.9%	29	85.3%	
2019年度	Brains初級	12	3	25.0%	2	16.7%	7	58.3%	Aコース
	Brains中級	10	3	30.0%	0	0.0%	7	70.0%	Bコース
	アルク 500	79	11	13.9%	4	5.1%	64	81.0%	Cコース
	アルク 600		6	7.6%	1	1.3%	72	91.1%	
	アルク 730		2	2.5%	1	1.3%	76	96.2%	
2018年度	Brains基礎	27	5	18.5%	4	14.8%	18	66.7%	Aコース
	Brains前編	67	6	9.0%	1	1.5%	60	89.6%	
	Brains後編	40	0	0.0%	0	0.0%	40	100.0%	Bコース

2021年度実施コース

○Aコース(初級1) TOEIC目標スコア:300~400点/英検5~3級範囲

○Bコース(初級2) TOEIC目標スコア:400~600点/英検準2~2級範囲(高校英語の基礎め)

○Cコース(中級) TOEIC目標スコア:500・600点~730点以上/英検準2級~準1級範囲

(11) 外国人留学生

外国人留学生(20名):2021年10月1日 現在

分類	人数	出身国
学部生(休学者含む)	10名	中国、韓国、台湾
大学院生【博士】(休学者含む)	7名	中国、台湾、タイ、カンボジア、南アフリカ
大学院生【修士】	0名	—
研究生	3名	中国、マレーシア

留学生バスツアー

11月21日(日)、2021年度留学生バスツアーを実施しました。昨年度は新型コロナウイルスの影響でバスツアーは中止し大学内での交流会となりましたが、今回は感染防止対策を徹底し2年ぶりに実施し、白老町のウポポイ(民族共生象徴空間)、そして本学と協定を締結している徳寿ファームを訪問しました。

ウポポイでは、まずそれぞれが博物館や伝統的コタン(「チセ」と呼ばれる家屋群が再現され、アイヌの伝統的な生活空間を体感できるエリア)などを自由に訪れ、アイヌ文化を学びました。その後、皆で「シノツ〜アイヌの歌・踊り・語り」を鑑賞し、アイヌの伝統的な舞踊や歌を体験しました。

次にバスで徳寿ファームへ移動し、レストランKANTOで昼食をとった後、株式会社徳寿ファーム 遠城諭史副ファーム長より、会社説明をしていただきました。留学生は卒業後の就職のことも考え真剣に話を聞いていました。そして最後に、普段は一般公開していない牛舎やイチゴハウスを特別に見学させていただきました。留学生からは牛の投薬やエサについて、またハウスでのイチゴの栽培についてなど、普段の学びを活かしてたくさん質問がされました。

留学生にとって、北海道の文化・歴史を学びまた本学の協定機関について知る貴重な機会となりました。



2021年度留学生等チューターの活動について

本学で学ぶ外国人留学生等が、入国・入学直後の日常生活や大学生活をスムーズに始められるように、大学が選んだ学生を「チューター」として配属し、留学生等のサポートを行っています。2021年度は前学期に2名、後学期に2名(前学期からの継続者)を採用しました。

2021年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により海外からの来訪者の受入はありませんでした。後学期入学予定の留学生に対して、2名のチューターがオンラインで交流ミーティング(顔合わせ)を9月27日に実施しました。

まず初めに全員の自己紹介を行い、次にチューターができるサポートの説明をしました。酪農学園大学や江別市の紹介も行いました。留学生からはなぜ大学院獣医学専攻が博士課程のみなのか、獣医学類と獣医保健看護学類の違いは何かなどの質問が英語でされました。チューターは獣医学類の学生だったため、獣医学を学ぶ学生同士、日本の獣医学教育の仕組みや獣医保健看護学類との違いについて説明していました。また留学生は南アフリカ出身ということで、北海道で雪を見られることもとても楽しみにしていました。

残念ながら様々な理由で後学期入学留学生の年度内の来日は叶いませんでしたが、今後もオンラインを活用した来日前の交流、チューターのサポート活動などを通して、留学生の受入を積極的に支援していきます。



留学生等チューター業務実績

	採用人数	実績		
		稼働人数	内容	時間
2021年度前学期	2	—	—	—
2021年度後学期	2（継続）	—	—	—
2020年度前学期	7	—	—	—
2020年度後学期	8（5名継続）	4	空港ピックアップ、入居サポート、市役所手続き、口座開設	15.5
2019年度前学期	6	2	学内施設案内、市役所手続き 不動産契約等	33.5
2019年度後学期	6	1	研究成果まとめ補助作業	22
2018年度前学期	6	3	キャンパスツアー、市役所手 口座開設、買い物等	15
2018年度後学期	2	—	—	—

大麻中学校訪問

11月22日、留学生が大麻中学校を訪問し、ゲストとして1年生の授業である国際理解学習に参加しました。毎年恒例となっているこちらの交流授業ですが、昨年は新型コロナウイルスの影響により中止としたため、2年ぶりの開催となりました。

はじめに体育館で留学生のために歓迎集会が開かれ、その後、各クラスに分かれ交流会をしました。1年生の生徒たちが自分のクラスの留学生ゲストの国の言葉を使って歓迎し、各クラスゲームやクイズ、日本の紹介などを楽しんでいました。休み時間には、留学生が生徒たちに囲まれている様子がありました。最後に、留学生が出身国について紹介をし、交流会が終了しました。

終了後、留学生は「とても楽しかった」「自分の国の言葉で中学生がいろいろ作ってくれて感動した」とロタに話していました。留学生が地域の中で交流できるとも貴重な機会となりました。



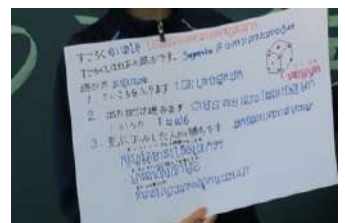
歓迎集会



クラス交流会（中国語クイズ）



クラス交流会（福笑い）



クラス交流会（中学生がすごろくをカンボジアのクメール語で説明）



留学生による出身国の紹介



集合写真

(12) 外国人留学生奨学金採用状況

外国人留学生奨学金採用状況

年度	奨学団体	学習奨励費（一般枠）		酪農育英会（新規）		酪農育英会（継続）		H I E C C	ロータリー米 山記念奨学会		平和中島財団		共立国際交流 奨学財団	
		種別	大学院	大学	大学院	大学	大学院		大学	大学院	大学	大学院	大学	大学院
2021年度	推薦枠	※1	※2	-	-	-	-	※4	1		1	1	1	1
	申請数	1	1	-	-	-	-	1	1	0	2	2	2	2
	推薦数	1	1	-	-	-	-	1	1	0	1	1	1	1
	採用数	※3	1	-	-	3	1	1	1	0	0	1	0	0
2020年度	推薦枠	5（特別追加採用枠）		-	-	-	-	2	3		1	1	1	1
	申請数	1	4	-	-	-	-	2	4	1	4	4	1	2
	推薦数	1	3	-	-	-	-	2	2	1	1	1	1	1
	採用数	1	3	-	-	3	1	2	1	0	0	0	1	0
2019年度	推薦数	1	1	2	1	3	0	1	3	0	1	1	1	1
	採用数	1	1	2	1	3	0	1	1	0	1	0	0	0
2018年度	推薦数	1	1	4	1	1	0	1	3	0	1	1	1	0
	採用数	1	1	4	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0
2017年度	推薦数	1	0	2	0	2	2	2	3	0	1	1	0	0
	採用数	1	0	2	0	2	2	2	1	0	0	0	0	0
2016年度	推薦数	1	0	2	1	2	1	2	3	0	1	1	1	1
	採用数	1	0	2	1	2	1	2	1	0	0	0	0	0
2015年度	推薦数	1	0	3	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1
	採用数	1	0	3	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0
2014年度	推薦数	1	1	2	1	2	0	2	3	0	1	1	1	1
	採用数	1	1	2	1	2	0	1	1	0	0	0	0	1
2013年度	推薦数	1	1	2	0	5	0	3	2	0	1	0	1	0
	採用数	1	1	2	0	5	0	2	1	0	0	0	0	0
2012年度	推薦数	1	1	6	0	2	1	3	2	0	1	0	0	0
	採用数	1	1	5	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0
2011年度	推薦数	1	1	3	1	-	-	2	2	0	1	1	1	1
	採用数	1	1	3	1	-	-	2	1	0	0	0	0	0
2010年度	推薦数	2	1	3	1	1	1	1	2	0	1	0	-	-
	採用数	2	1	3	1	1	1	1	0	0	1	0	-	-
2009年度	推薦数	-	-	1	3	1	1	1	2	0	-	-	-	-
	採用数	-	-	1	3	1	1	1	1	0	1	1	-	-
2008年度	推薦数	-	-	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-
	採用数	-	-	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-

※1 予約枠

※2 特別追加採用6か月枠

※3 入国できず採用後辞退

※4 推薦対象に大学を含む

(13) J I C A (独立行政法人国際協力機構)

① 研修員等受入実績

年度	出身国	種別	受入学類	教員	人数	期間	日数	研修テーマ
2021	ブラジル	日系社会研修 (オンライン)	食と健康	石井	2	2021/12/11 ~ 2022/1/10	31	個別短期：食品科学と栄養管理
	ドミニカ共和国	日系社会研修 (オンライン)	食と健康	石井	1	2021/12/1 ~ 2022/1/31	62	個別長期：食品科学と栄養管理
	ペルー1,ブラジル3	日系社会研修 (オンライン)	環境	金子(正)	4	2021/7/30 ~ 2021/11/5	99	個別長期：リモートセンシング技術による農地、森林、環境資源管理とモニタリング
	ブラジル	日系社会研修 (オンライン)	環境	金子(正)	3	2021/7/30 ~ 2022/3/17	231	個別長期：ドローン・GIS・GPS・リモートセンシング技術による農地・森林評価及び野生動物生息地の管理手法
	7か国 (ボツワナ、カンボジア、ケニア、マレーシア、ソロモン諸島、ウガンダ、カメルーン)	課題別研修 (オンライン)	環境	金子(正)	12	2021/8/30 ~ 2021/10/28	60	「森林リモートセンシング」
4か国 (ボツワナ、カメルーン、マラウイ、東ティモール)	課題別研修 (オンライン)	環境	金子(正)	5	2022/1/13 ~ 2022/2/18	37	「森林等自然資源の持続可能な利用とバリューチェーン強化」	
2020	ドミニカ共和国	日系研修 (オンライン)	食と健康	石井	1	2020/12/1 ~ 2021/1/29	60	長期：食品科学と栄養管理
	ブラジル	日系研修 (オンライン)	環境	金子(正)	1	2020/12/1 ~ 2021/1/29	60	長期：リモートセンシング技術による農地、森林、環境資源管理とモニタリング
		集団研修 (課題別研修教材作成)	環境	金子(正)		2020/11/15 ~ 2021/1/19	66	「森林等自然資源の持続可能な利用とバリューチェーン強化」および「森林リモートセンシング」における研修教材作成
2019	ウガンダ	ムバララ県庁畜産事務官、酪農家	獣医	蒔田	3	2019/4/14 ~ 2019/4/23	10	JICA草の根「ムバララ県安全な牛乳生産支援プロジェクト」受入研修
	ブラジル	日系研修	環境	金子(正)	1	2019/5/20 ~ 2019/8/30	103	短期：リモートセンシング技術による農地、森林、環境資源管理とモニタリング
	パラグアイ	日系研修	環境	金子(正)	1	2019/5/20 ~ 2020/2/28	285	長期：GIS・GPS・リモートセンシング技術による農地・森林評価及び野生動物生息地の管理手法
	5か国 (カメルーン、ガボン、ケニア、パプアニューギニア、ペルー)	集団研修 (課題別研修)	環境	金子(正)	6	2019/5/13 ~ 2019/6/28	47	「森林リモートセンシングコース」
	4か国 (カメルーン、ソロモン、チュニジア、ミャンマー)	集団研修 (課題別研修)	環境	金子(正)	5	2019/8/26 ~ 2019/10/9	45	「市場メカニズムを活用した持続的森林・自然資源管理コース」

② 事業実施実績

2021年度は、技術協力事業「ソロモン国持続的森林資源管理能力強化プロジェクト」において、新型コロナウイルスの感染拡大状況が継続したため現地渡航を中止し、業務を見直し国内業務を実施しました。

実施年度	対象国	事業名	学類	教員	プロジェクト名
2012～2016	マレーシア	草の根技術協力事業 (草の根パートナー型)	環境	金子	キナバタンガン川下流域の生物多様性保全のための住民参加型村おこしプロジェクト
2016～2019	ウガンダ	草の根技術協力事業 (草の根パートナー型)	獣医	蒔田	ムバララ県安全な牛乳生産支援プロジェクト
2018～2022	ソロモン	技術協力事業	環境	金子	ソロモン国持続的森林資源管理能力強化プロジェクト（国際航業株式会社との共同企業体協定）

③ 大学連携

2019年8月21日、本学とJICAとが、ウガンダ国における安全な牛乳生産力の向上支援のため、2024年12月までの5年間学生等を海外協力隊として派遣する連携覚書を締結いたしました。

2020年度以来新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響により全世界への協力隊派遣が一時中断、ウガンダへの隊員も派遣待機となっていましたが、2021年12月に1名、2022年1月に1名、合計2名の隊員を本連携に基づき派遣しました。今後草の根技術協力プロジェクトの後継として、現地での活動を再開していきます。

大学連携による派遣実績

派遣年度	派遣国	職種	人数	派遣期間	出身学群学類等
2021	ウガンダ	獣医・衛生	1	2021/12/8 ~ 2023/12/7	獣医学部獣医学科（2012年度卒）
2021	ウガンダ	家畜飼育	1	2022/1/26 ~ 2024/1/25	獣医学群獣医保健看護学類（2017年度卒）



子牛の頸静脈採血



牛の尾静脈採血と糞便採取



島田 卓さん

④ その他

2021年度JICA青年研修事業「中南米（英語）／自然環境保全コース」に1件申請（担当教員：環境共生学類金子教授）を行いましたが、契約交渉順位第二位となり、不採択となりました。

(14) 青年海外協力隊派遣実績

酪農学園大学卒業生の青年海外協力隊派遣実績（2022年1月現在）

職種 学類	派遣先																				合計									
	獣医・衛生	家畜飼育	環境教育	コミュニケーション開発	野菜栽培	理科教育	畜産・乳製品加工	飼料作物	農業協同組合	食用作物・稲作栽培	食品加工	農業機械	きのこ栽培	土壌肥料	家政・生活改善	栄養士	公衆衛生	感染症・エイズ対策	統計	花き栽培		病虫害対策	マーケティング	青少年活動	視聴覚教育	幼児教育	生態調査	動物学	ソーシャルワーカー	その他
循環農学類 (旧酪農学科、農業経済学科、短大含む)		62	1	5	11	5	6	6	5	4	1	3	2	1	1		1		1	1	1			1		1		1	1	121
食と健康学類 (旧食品科学科、食品流通学科含む)		2				2	4				3					2	1													14
環境共生学類 (旧経営環境学科、地域環境学科、生命環境学科含む)			14	4		3												1							1					23
獣医学類 (獣医学科含む)	62	4	1	2		1												1					1			1			73	
獣医保健看護学類		1																												1
大学院	34	4	2											1	1							1							43	
合計	96	73	18	11	11	11	10	6	5	4	4	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	275	
うち2022年1月現在派遣中人数	1	1																											2	

(15) JSPS（独立行政法人日本学術振興会）学術国際交流事業

日本学術振興会が実施する国際的な研究活動を支援する事業について、2021年度は以下の4つの事業に対して合計8件の申請を行い、うち1件が採用されました。

【採択課題】

事業名：二国間交流事業
 プログラム名：ヨーロッパ・外務省-高等教育・研究・イノベーション省（MEAE-MESRI）（SAKURAプログラム）
 日本側共同研究代表者：獣医学群 獣医学類 内田 玲麻
 研究課題名：Analysis of transmission mechanism of Flavivirus between mammals and arthropods by development of novel tools（英文）
 新規解析ツールの開発による哺乳類と節足動物間のフラビウイルス伝達メカニズムの解明（和訳）

日本学術振興会国際交流事業申請一覧

年度	事業内容	申請計	採用	不採用
2021	二国間交流事業	1	1	0
	外国人特別研究員（一般）【P】	4	0	4
	外国人招へい研究者（長期）【L】	1	0	1
	外国人招へい研究者（短期）【S】	1	0	1
合計		7	1	6
2020	二国間交流事業	1	0	1
	外国人特別研究員（一般）【P】	4	0	4
	外国人招へい研究者（長期）【L】	2	0	2
	外国人招へい研究者（短期）【S】	1	0	1
	論文博士号取得希望者に対する支援事業	1	0	1
合計		9	0	9

(16) 北海道アルバータ酪農科学技術交流協会

○ 2021年度の理事会、定期総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面での開催となりました。

○ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2021年度のアルバータ大学夏季研修派遣は中止しました。

○ アルバータ大学オンライン留学プログラムを夏季、春季に実施し、合計12名の学生が参加しました。

プログラム終了後にはそれぞれ報告会を実施し、会長および学長等の前で英語でのプレゼンテーションに挑戦する学生も見られました。また多くの学生がアルバータ大学のStudent Engagement Centreが企画する任意プログラムにも意欲的に参加し、充実した留学経験について発表しました。プログラムの成績等に基づき、夏季・春季共に参加学生全員に協会から奨学金（5万円）が授与されました。



夏季参加者への修了証授与式



春季参加者への修了証授与式

佐藤貢・雪印乳業一酪農学園・アルバータ大学奨学金支給実績

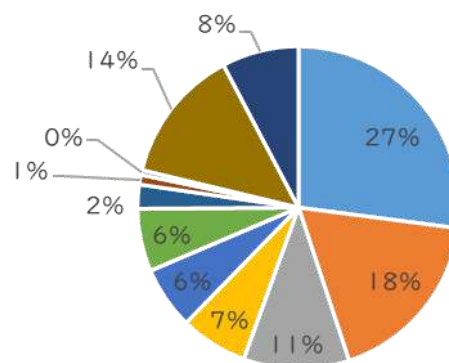
(人)

	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度
オンライン留学プログラム (5万円) ※2020年度開始	12	8	—	—	—	—
夏季研修プログラム (20万円)	派遣中止	派遣中止	3	2	2	7
海外農業研修サポートプログラム (20万円) ※2017年度開始	派遣中止	派遣中止	3	1	1	—
大学院生留学サポートプログラム (30万円) ※2017年度開始	派遣中止	派遣中止	0	0	1	—
高校生留学サポートプログラム (20万円) ※2019年度開始	派遣中止	派遣中止	1	—	—	—

○ 海外農業技術 セミナーを開催しました

2022年2月22日、酪農学園大学SDGsセミナーとの共催による海外農業技術セミナーを開催いたしました。「持続可能な農業とは～気候危機と生物多様性の喪失～」というテーマで、会場とオンラインの同時開催という初めての試みで行われました。会場とオンライン合計で207名の申込があり、当日は会場参加が5名、オンライン参加が最大147名となりました。

申込者の所属内訳



■ 企業 ■ 大学関係 ■ 研究所 ■ 行政
 ■ 団体 ■ 個人 ■ 報道 ■ 獣医師
 ■ 国連 ■ 本学学生 ■ 本学教職員

セミナー当日、会場からは谷山弘行会長、堂地修学長のあいさつをリアルタイムで配信し、講師によるあいさつと講演は、事前に収録された動画をご提出いただき、全ての動画を社会連携センターで翻訳し日本語による音声吹き替えまたは字幕をつけ、当日は配信しました。

国際連合生物多様性条約事務局長のエリザベス・マルマ・ムレマ氏からの開会あいさつでは、「産業としての農業活動は、しばしば生態系を劣化させ生物多様性の喪失を加速させる。食料システムの変革の達成には、先住民、小規模農家、小規模食料生産者の役割と権利を認識し、支援しなければならない」という力強いメッセージが述べられました。

基調講演は、国際連合食糧農業機関 気候変動・生物多様性・環境局生物多様性担当部長のイレナ・ホフマン氏から「持続可能な農業～生物多様性と気候危機とのつながり～」と題して、現在の地球規模の課題と持続可能な農業へのアプローチとして日本における事例などを挙げながら、国際的な協力と、共同して政策を作ることの必要性などをお話いただきました。

テーマ別講演では、本学の協定機関でもあるカナダ・アルバータ大学の2名の先生方をお招きし、それぞれの専門分野からご講義いただきました。理学部地球大気科学科のモニレ・ファラマーズィ先生は「気候変動下で小麦・大麦の収穫量はどのように変化するか？～カナダにおける収量変化を予測する～」と題し、カナダ大平原地帯の農地における様々な気候変動と窒素施用シナリオの下での小麦と大麦の収穫量の経時変化をシミュレートした研究について述べられました。

農業・生命・環境科学部のデブラ・デイビッドソン先生からは「気候危機への対応における社会的な障壁と実現可能性～アルバータ州の農家での事例をもとに～」というテーマで、アルバータ州での調査をもとに農家が気候変動に適応する上での経済的、政治的、文化的構造などの組織的側面について述べられました。

続く質疑応答の時間には、アルバータ大学の先生方にカナダからLIVEでご参加いただきました。会場やオンラインから多くの質問が寄せられ、吉中センター長と亀岡副センター長の通訳により2名の先生方にリアルタイムでお答えいただくなど、非常に活発な質疑応答がなされました。

セミナー終了後は、4名の方々からのメッセージや講義動画、また資料等を協会のホームページに公開し、セミナー申込者全員に周知しました。



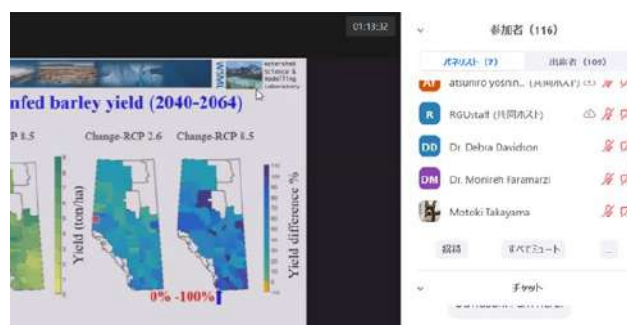
会長挨拶



閉会挨拶



質疑応答



モニレ・ファラマーズィ先生の講演

2021年度 社会連携センター運営委員会

社会連携センター センター長	吉中 厚裕
社会連携センター 副センター長	亀岡 笑
農食環境学群 循環農学類 准教授	糸山 健介
農食環境学群 食と健康学類 教授	石井 智美
農食環境学群 環境共生学類 教授	金子 正美
獣医学群 獣医学類 教授	萩原 克郎
獣医学群 獣医保健看護学類 准教授	郡山 尚紀
社会連携センター 事務次長	高山 基樹
社会連携センター 地域連携課 課長	金子 千恵
社会連携センター 国際交流課 課長	横川 容子

2021年度 社会連携センター STAFF

センター長	吉中 厚裕
副センター長	亀岡 笑
事務次長	高山 基樹
国際交流課 課長	横川 容子
国際交流課 主任主事	品川 晴香
国際交流課 パート職員	赤坂 奈都紀
国際交流課 パート職員	池田 摩由美 ※(2021/12/15~)
地域連携課 課長	金子 千恵
地域連携課 主任主事	可香谷 亜有美
地域連携課 主事	植松 正平
地域連携課 主事	北井 康貴
地域連携課 契約職員	今野 望
地域連携課 契約職員	中屋 まりな
地域連携課 契約職員	宮崎 千春 ※退職(~2021/7/31)
地域連携課 パート職員	小原 芽衣

【本報告書に記載の職名は、2021年3月31日現在のもの】

2021年度 社会連携センター運営委員会 議案一覧

※2021年度は全8回の運営委員会を開催しました。

1	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度前学期 留学生等チューターの決定について（国際交流課） ・私費外国人留学生に係る2021年度前学期授業料免除学生の選考について（国際交流課）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・酪農学園英語表記一覧の修正および追加について（国際交流課） ・2020年度社会連携センター事業報告について（社会連携センター）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社サングリン太陽園との包括連携協定締結について（地域連携課） ・B to Bリサイクルにおける学内ゴミ回収の一部変更について（社会連携センター） ・その他
4	<ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア・サバ大学との学術交流協定変更について（国際交流課） ・2021年度後学期 留学生等チューターの決定について（国際交流課） ・酪農学園基金（寄付事業）の申込状況についての報告（地域連携課） ・その他
5	<ul style="list-style-type: none"> ・酪農学園大学と島根県との連携協定締結について（地域連携課）
6	<ul style="list-style-type: none"> ・私費外国人留学生に係る2021年度後学期授業料免除学生の選考について（国際交流課） ・酪農学園チ・カ・ホdeマルシェの開催について（地域連携課） ・酪農学園基金（寄付事業）の申込状況についての報告（地域連携課） ・その他
7	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度 酪農学園大海外招聘研究者の募集について（国際交流課）
8	<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人札幌市公園緑化協会と酪農学園大学との連携と協力に関する協定書の変更について（地域連携課） ・2022年度 海外招聘研究者の選考について（国際交流課） ・2022年度前学期 留学生等のチューターの決定について（国際交流課） ・その他

SDGsと 社会連携センター

SDGsとは2015年に国連総会で採択された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)を意味しており、発展途上国だけではなく先進国も取り組むべき課題とされています。SDGsと大学はとても深い関係にあります。本学は建学の精神に則ってSDGsに取り組み、世界中の課題解決に向けて努力します。

